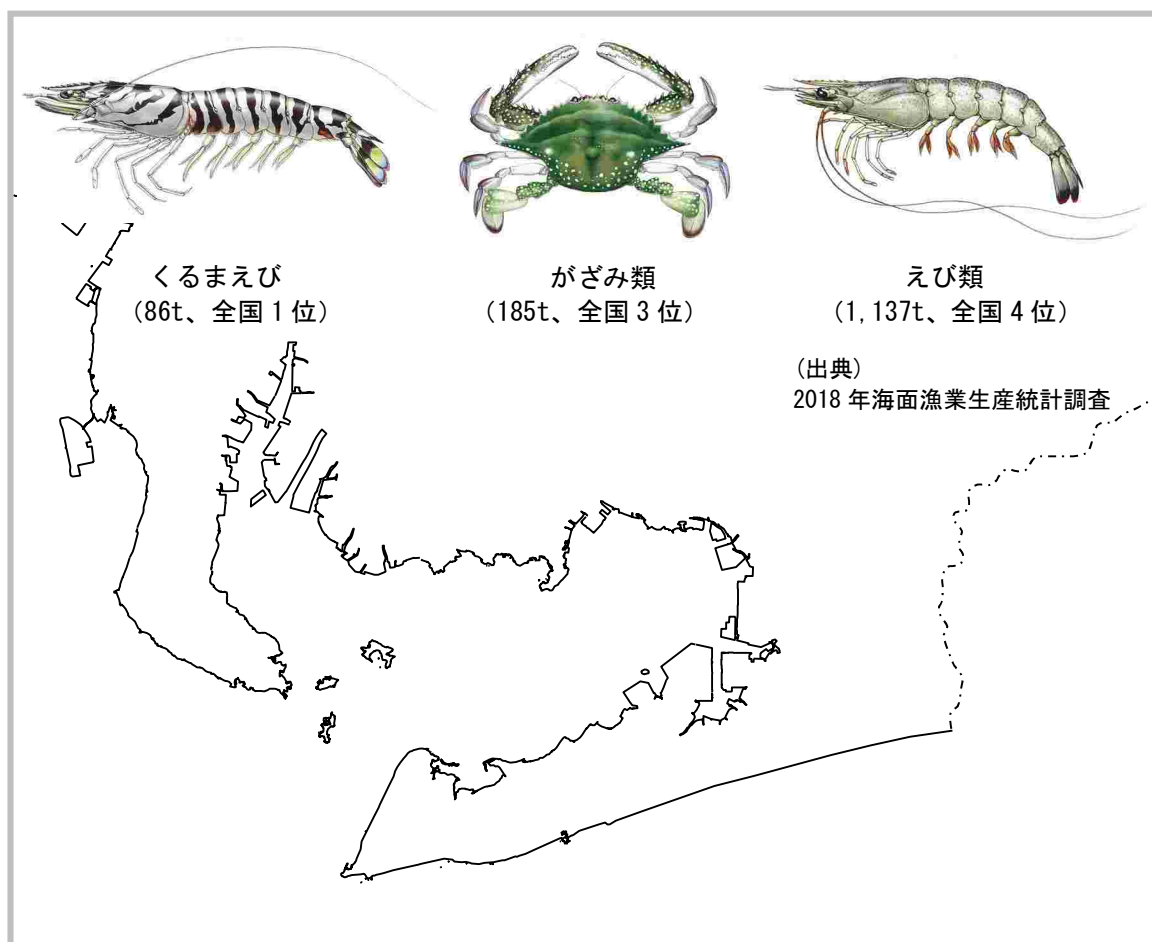


水産業の動き

2020



食と緑の基本計画 2020 の施策体系

食と緑が支える
県民の豊かな暮らし

柱1 競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保

- (1) あいちの強みを生かした技術による品質や生産性の向上
 - ア 幅広い分野の先端技術等を活用した技術の開発と普及
 - イ 幅広い需要に応える戦略的な品種の開発と普及
- (2) マーケットインの視点に立った生産・流通の改善と需要の拡大
 - ア 多様なニーズに対応した生産・流通面の改善
 - イ 県内外に向けた戦略的な需要の拡大
 - ウ 農林水産物等の輸出の促進
- (3) 意欲ある人が活躍できる農業の実現
 - ア 多様な担い手の確保・育成
 - イ 優良農地の確保と集積・集約化の推進
 - ウ 農業生産基盤整備の推進
- (4) 資源を生かす林業の実現
 - ア 木材の安定供給
 - イ 生産を担う人材の確保・育成
 - ウ 林業生産基盤の充実
- (5) 持続可能で活力ある水産業の実現
 - ア 漁業生産基盤の機能強化
 - イ 持続的な漁業生産の確保
 - ウ 活力ある担い手の確保・育成
- (6) 食品の安全・安心の確保と環境への配慮
 - ア 食品の安全・安心の確保に向けた取組の強化
 - イ 環境に配慮した取組の推進

柱2 農林水産業への理解の促進と食料等の適切な消費の実践

- (1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進
 - ア 農林水産業への関心と理解を深める取組の推進
 - イ 幅広い世代に対する農林漁業体験の機会の提供
- (2) 食育の推進による健全な食生活の実践
 - ア 若い世代を中心とした生涯にわたる食育の推進
 - イ 食を通じた農林水産物や環境への理解と食文化の継承

柱3 自然災害に強く緑と水に恵まれた生活環境の確保と元気な地域づくり

- (1) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保
 - ア 農山漁村地域の強靱化に向けた防災・減災対策の推進
 - イ 快適な生活環境の確保
- (2) 森林・農地・漁場の有する多面的機能の発揮
 - ア 多面的機能を適切に発揮させる森林・農地・漁場の保全・整備の推進
 - イ 地域で取り組む森林・農地・漁場の保全活動の推進
- (3) 農林水産業を核とした元気な地域づくり
 - ア 地域の特性を生かした農山漁村の活性化
 - イ 都市及び都市近郊における農業の振興

はじめに

伊勢湾・三河湾は、古来より魚介類の宝庫として知られ、我々の祖先も古くから、豊かな海の恵みを享受してきました。現在でも本県は、総生産量こそ全国中位ではありますが、多くの魚種において全国有数の産地となっており、沿岸域を中心に特色ある水産業が営まれています。

多種多様な水産物を供給する本県の水産業は、豊かで健康的な日本型食生活の構築や食文化の継承など、県民の皆様の暮らしに重要な役割を果たしています。

水産業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、沿岸の各種開発に伴う漁場の喪失や漁場環境の悪化、産地魚価の低迷や後継者不足等の諸問題に加え、近年では新たな課題として、漁場の栄養塩不足等による資源の減少も顕著となっています。加えて、2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、水産物の需要が大きく低下しており、漁業者や漁業団体の経営は大変厳しいものとなっています。

本書は、各種施策を効果的に実施するための基礎資料とするとともに、広く関係者に利用していただくため、県内水産業の動向を総合的にとりまとめたもので、1961年度から刊行を続けており、2010年度からは電子データで公表しています。

皆様に、本県水産業に対する理解を深めていただくとともに、水産業振興の一助としてご活用いただければ幸いです。

2020年12月

愛知県農業水産局長

主な統計用語の説明

1 漁業経営体

(1) 海面

漁業及び養殖業を含みます。調査期日（最新数値は2018年11月1日）前1年間に、利潤又は生活の資を得るため販売を目的として、水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯または事業所をいいます。（ただし、年間の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除かれています。）経営体は、5年に1回の漁業センサスで調査されています。

(2) 内水面（養殖業）

調査期日（最新数値は2018年11月1日）前1年間に、利潤又は生活の資を得るために内水面において販売を目的として計画的かつ持続的に投餌または施肥を行い、養殖用または放流用種苗の養成もしくは成魚を養成した世帯及び事業所をいいます。なお、調査対象は主要4魚種（ます類、あゆ、こい、うなぎ）のみです。5年に1回の漁業センサスで調査されています。

2 漁業就業者

海面漁業及び養殖業を含みます。調査期日（2018年11月1日）現在満15歳以上で、過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した人をいいます。5年に1回の漁業センサスで調査されています。

3 生産量

(1) 海面

海面漁業漁獲量、海面養殖業収獲量の総称で、乗組員の船内食用、自家用、自家加工用、販売活餌等を含みます。全ての水産動植物の採捕時の原形重量であり、藻類は採捕時の生重量、貝類は殻付の重量です。

(2) 内水面漁業

河川・湖沼において採捕された水産動植物の量をいいます。本県の数値は、天然産種苗の採捕量及び自家用を含むほか、漁業権が設定されている全ての河川・湖沼における組合員・遊漁者の採捕量を含みます。一方、全国数値は2006年以降、販売を目的として漁獲した数量となり、2009年から、漁業権等が設定された年間漁獲量50t以上の河川及び湖沼並びに国の施策上毎年の調査が必要な河川及び湖沼（108河川21湖沼）に限定され、本県内の調査対象河川は主要河川（本県は4河川）のみです。なお、貝類の数値は内水面漁業生産統計調査の数値を用いています。

(3) 内水面養殖業

内水面養殖業経営体が食用を目的に収獲した量をいいます。自家用を含みますが種苗販売量は含めません。なお、調査対象は主要4魚種（ます類、あゆ、こい、うなぎ）のみです。

4 産出額

調査で得られた魚種別生産量に、魚種別産地市場価格を乗じて算出したものです。生産者の手取価格ではなく、販売手数料、輸送費等の販売諸経費を控除せず、また歩戻しを含めない、いわゆる産地市場価格です。2015年度数値から、国の統計用語が「生産額」から「産出額」に改められました、内容は従前と同じです。

なお、内水面の産出額は2003年の統計から調査対象外となったため、県水産課が生産量と全国平均単価により推計しています。

5 水産加工品（加工水産品）

水産動植物を主原料（50%以上）として製造された食用加工品及び生鮮冷凍水産物をいいます。なお、2001年調査から生鮮冷凍水産物のうち海産ほ乳類及び塩蔵品等、並びに寒天、油脂、飼肥料の調査が中止されました。

記号

「-」：事実のないもの 「0」：単位に満たないもの 「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「x」：統計法の規定により、秘密保護上統計数値を公表しないもの

[水産業動向編]

目 次

1 愛知の水産業

- 愛知県水産業の主要指標 1
- 県内産業のなかの水産業 2
 - ＜主要な問題の解説＞本県水産業の全国位置 3

2 漁業経営

- 漁業経営体の動向 4
 - ＜主要な問題の解説＞漁業就業者数、漁家経済 5
- 水産業協同組合の動向 6
 - ＜主要な問題の解説＞沿海漁協の経営規模、漁業金融 7

3 漁業生産の基盤

- 漁船・漁港の動向 8
 - ＜主要な問題の解説＞漁船海難の動向と対策、海難の発生状況、
漁場整備事業、漁村活性化総合対策事業 9
- 漁場環境の動向 10
 - ＜主要な問題の解説＞貧酸素水塊と苦潮、総量削減計画 11
- 資源保護増大の動向 12
 - ＜主要な問題の解説＞栽培漁業基本計画、資源管理型漁業の推進、
漁獲可能量制度 13

4 漁業生産

- 漁業総生産の動向 14
 - ＜主要な問題の解説＞漁業生産量の推移、漁業産出額の推移 15
- 海面漁業生産の動向 16
 - ＜主要な問題の解説＞魚種別漁獲量、魚種別産出額 17
- 海面養殖生産の動向 18
 - ＜主要な問題の解説＞2018年度のり養殖の概要 19
- 内水面生産の動向 20
 - ＜主要な問題の解説＞内水面漁業の振興策、内水面養殖業の振興策、
主要養殖業の動向 21

5 流通加工

- 水産物流通の動向 22
 - ＜主要な問題の解説＞水産物の輸入、水産物の消費 23

6 技術の開発・普及	
○試験研究の動き	24
<主要な問題の解説>ハマグリ種苗生産技術の開発にむけて	25
7 時の話題	
○新型コロナウイルス感染症の水産業への影響及びその対策	26・27
○愛知県の漁獲量の変動	28・29
○砕石を利用した新たなアサリ漁場の造成について	30・31
○2019年夏しらすの好漁	32・33
[資料編]	34～60

1 愛知の水産業

愛知県水産業の主要指標

区 分	単 位	愛 知 県			全 国		備 考
		2013年	2018年	18年/13年	2018年	18年/13年	
海面漁業経営体(A)	経営体	2,348	1,924	81.9	79,067	83.7	漁業センサス
海面個人経営体(B)	経営体	2,261	1,849	81.8	74,526	83.3	漁業センサス
(漁家率B/A)	%	96	96	—	94	—	
海面漁業就業者数	人	4,319	3,373	78.1	151,701	83.8	漁業センサス
内水面養殖経営体	経営体	290	214	73.8	2,704	86.4	漁業センサス
漁船総隻数	隻	5,396	4,464	82.7	230,504	87.7	漁船統計表
海水動力船	隻	5,125	4,282	83.6	218,720	88.0	漁船統計表
海水無動力船	隻	53	31	58.5	3,764	83.6	漁船統計表
淡水動力船	隻	101	84	83.2	6,071	97.8	漁船統計表
淡水無動力船	隻	117	67	57.3	1,949	55.4	漁船統計表
漁業総生産量	t	101,180	77,946	77.0	4,421,207	92.3	全国値には捕鯨を含まない
海面漁業	t	81,039	61,727	76.2	3,359,530	90.0	
海面養殖業	t	15,338	11,213	73.1	1,004,871	100.9	
(のり生産枚数)	千枚	394,118	278,721	70.7	7,285,399	89.6	
内水面漁業	t	422	148	35.1	26,957	87.8	愛知県は県水産課調べ
内水面養殖業	t	4,381	4,858	110.9	29,849	97.9	きんぎよは含まない
きんぎよ	千尾	10,815	6,745	62.4	—	—	県水産課調べ(*1)
漁業総産出額	百万円	33,533	38,944	116.1	1,533,456	108.5	全国値には捕鯨を含む(*2)
海面漁業	百万円	16,504	17,297	104.8	937,871	99.4	全国値には捕鯨を含む
海面養殖業	百万円	3,670	3,587	97.7	486,064	125.2	
内水面漁業	百万円	508	311	61.2	18,453	109.8	愛知県は県水産課調べ
内水面養殖業	百万円	12,851	17,750	138.1	91,068	140.1	愛知県はきんぎよ(県水産課調べ)を含む(*3)

資料：特に注釈があるもの以外は農林水産統計（海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査）

(*1)：前年12月1日から当該年11月30日までの集計値。

(*2)：小数第1位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

(*3)：愛知県の内水面の産出額については、県水産課が全国平均単価を基に推計した。

県内産業のなかの水産業

●水産業の純生産は171億円

あいちの県民経済計算によると、2017年度の県内全産業の純生産は26兆199億円で、前年度に比べ2.1%増加しました。

このうち水産業は約171億円で前年度に比べ3.3%増加し、全産業に占める割合は0.07%、第1次産業に占める割合は12.0%となっています（A図）。

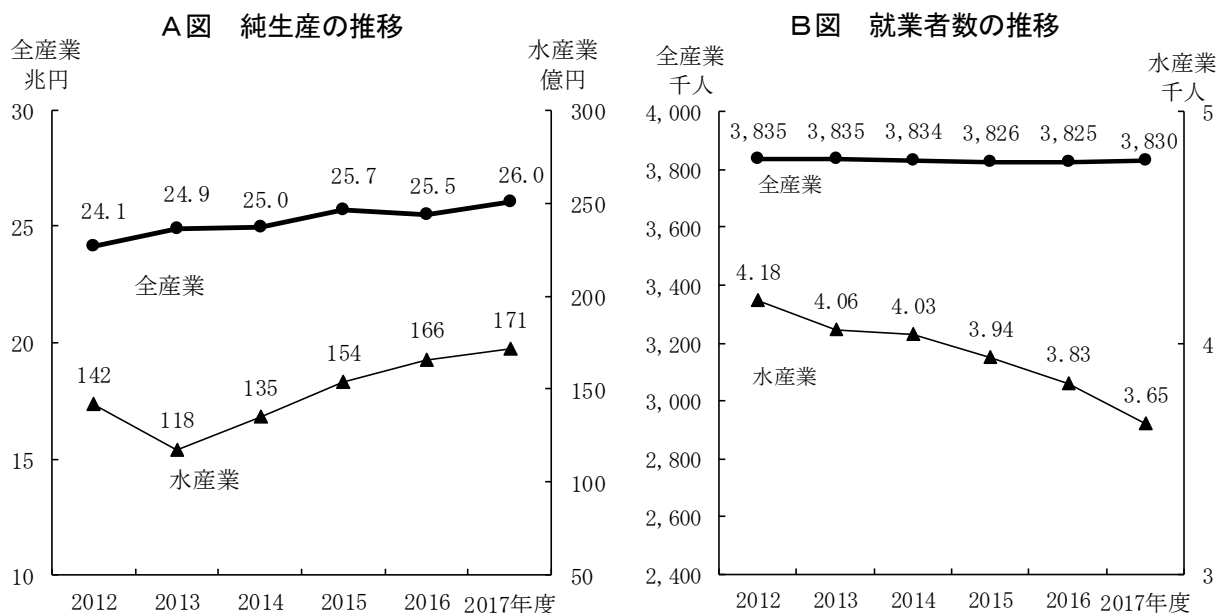
●水産業就業者は全産業就業者の0.1%

あいちの県民経済計算によると、2017年度的全産業の就業者数（従業地ベース）は3,830千人で前年度に比べ0.1%の増加、第1次産業は69.0千人で前年度に比べ4.7%の減少となっています。

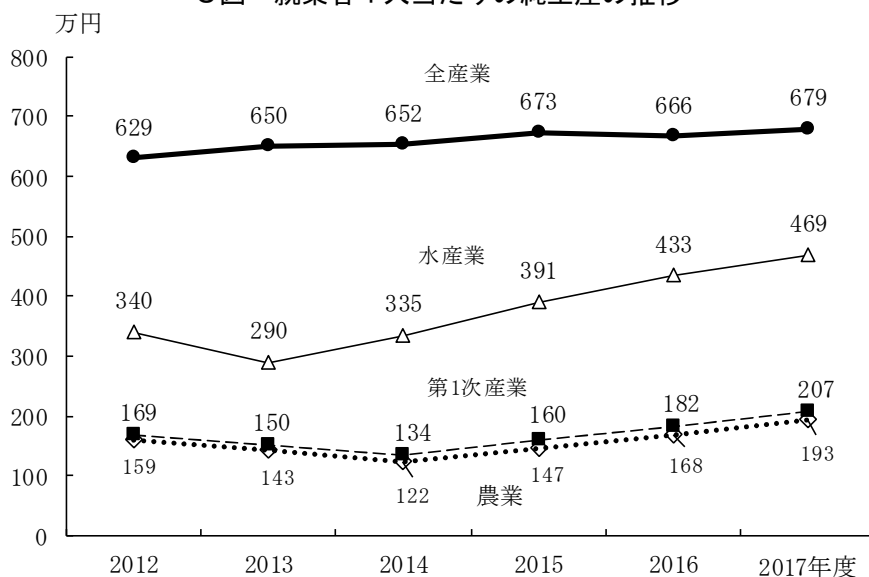
このうち水産業の就業者数は3.65千人で、前年度に比べ4.6%減少しており、水産業就業者数の全産業に占める割合は0.1%、第1次産業に占める割合は5.3%となっています（B図）。

●水産業就業者1人当たりの純生産は約469万円

2017年度的全産業の就業者1人当たりの純生産は679万円で前年度に比べ1.9%増加しました。水産業では469万円で前年度に比べ8.2%増加しており、第1次産業全体の207万円の約2.3倍となっています（C図）。



C図 就業者1人当たりの純生産の推移



(資料 あいちの県民経済計算 (A～C図))

＜主要な問題の解説＞

＜本県水産業の全国位置＞

海面漁業・養殖業において本県の生産量は全国で第19位、産出額は第24位となっていますが（A表）、多くの漁業種類や魚種で上位を占めているのが特色です。

漁業種類別では、小型底びき網、船びき網、採貝・採藻等が盛んで、これらの生産量は全国的にもトップレベルにあります。

魚種別では、くるまえび、あさり類、あゆ養殖が第1位、しらす、くろだい・へだい、うなぎ養殖、きんぎょ養殖が第2位、にぎす類、すずき類、がざみ類が第3位となっています。全国シェアでは、あさり類が35.4%、あゆ養殖が28.3%、うなぎ養殖が22.9%、くるまえびが24.1%と高くなっています（B表）。

A表 愛知県水産業の全国順位（2018年）

海面漁業・養殖業生産量*1			海面漁業・養殖業総産出額		
順位	県名	(t)	順位	県名	(億円)
全国		4,364,401	全国		14,239
1位	北海道	995,134	1位	北海道	2,750
2位	長崎	314,343	2位	長崎	996
3位	宮城	265,911	3位	愛媛	887
4位	茨城	259,031	4位	宮城	789
5位	静岡	197,859	5位	鹿児島	763
6位	青森	175,312	6位	静岡	551
7位	三重	155,425	7位	青森	549
8位	千葉	139,987	8位	兵庫	523
9位	愛媛	137,663	9位	高知	520
10位	岩手	126,589	10位	三重	446
19位	愛知	72,940	24位	愛知	209

*1 茨城県は海面養殖業が秘匿値のため、海面漁業のみの数値。

（資料 海面漁業生産統計調査）

B表 主要な漁業種類・品目の全国順位（2018年）

漁業種類・品目	1位	2位	3位	4位	5位	全国	本県シェア(%)
小型底びき網 (t)	北海道 314,325	愛媛 7,381	愛知 7,089	兵庫 6,735	島根 4,167	382,688	1.9%
船びき網 (t)	愛知 38,928	三重 23,621	広島 12,310	香川 11,764	兵庫 11,582	170,902	22.8%
採貝・採藻 (t)	北海道 60,073	愛知 9,546	福岡 4,353	千葉 3,558	青森 3,405	104,728	9.1%
かたくちいわし (t)	長崎 30,013	香川 11,464	広島 10,501	愛媛 10,065	愛知 8,684	111,226	7.8%
まいわし (t)	茨城 139,214	千葉 66,832	三重 43,798	宮城 37,924	愛知(6位) 23,787	522,378	4.6%
しらす (t)	兵庫 9,437	愛知 6,821	静岡 5,844	茨城 3,395	大阪 2,937	50,509	13.5%
にぎす類 (t)	石川 888	島根 357	愛知 351	新潟 340	兵庫 212	2,761	12.7%
あなご類 (t)	島根 618	宮城 556	長崎 412	愛知 254	福岡 196	3,490	7.3%
くろだい・へだい (t)	兵庫 295	愛知 278	愛媛 216	福岡 208	広島 205	2,974	9.3%
すずき類 (t)	千葉 1,336	兵庫 501	愛知 443	宮城 306	福岡 297	5,907	7.5%
くるまえび (t)	愛知 86	愛媛 68	福岡 47	大分 37	香川 23	357	24.1%
がざみ類 (t)	宮城 747	福岡 219	愛知 185	愛媛 128	北海道 115	2,213	8.4%
あさり類 (t)	愛知 2,741	福岡 1,735	北海道 1,364	静岡 978	熊本 527	7,736	35.4%
のり養殖 (千枚)	佐賀 1,817,031	兵庫 1,705,627	福岡 1,133,857	熊本 857,284	愛知(7位) 278,721	7,285,399	3.8%
うなぎ養殖 (t)	鹿児島 6,381	愛知 3,459	宮崎 2,539	静岡 1,457	徳島 332	15,111	22.9%
あゆ養殖 (t)	愛知 1,220	和歌山 788	岐阜 650	滋賀 341	栃木 327	4,310	28.3%
きんぎょ養殖(千尾)	奈良 66,057	愛知 6,745	-	-	-	-	-

注) きんぎょ養殖は県水産課調べ。

愛知県きんぎょは、2017年12月1日から2018年11月30日までの集計値のため、単純比較はできない。

（資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ）

2 漁業経営

漁業経営体の動向

●海面漁業経営体は1,924経営体（2018年漁業センサス）

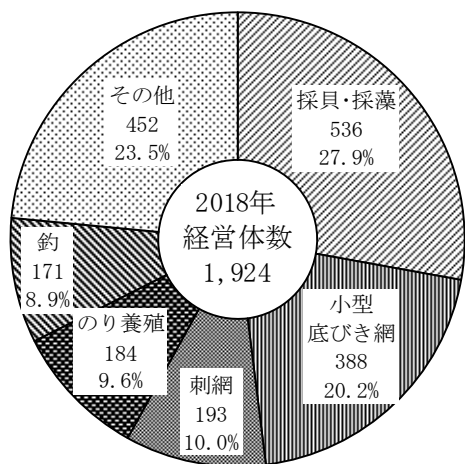
2018年の海面漁業経営体数(養殖業を含む・年間の海上作業日数が30日未満のものを除く)は1,924経営体となっています。主な漁業種類別では最も多いのが採貝・採藻の536経営体で27.9%を占め、以下小型底びき網388経営体(20.2%)、刺網193経営体(10.0%)が上位を占めています(A図)。

海面漁業経営体数は、5年前に比べ424経営体(18.1%)の減となっています(B図)。

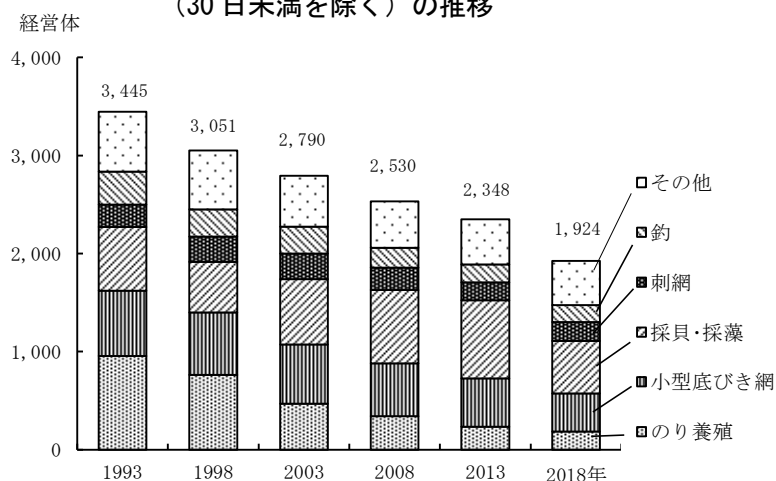
●内水面養殖業経営体数は257経営体（県水産課調べ）

2018年のきんぎょを含めた内水面養殖業の経営体数は257経営体となり、5年前に比べ38経営体(12.9%)の減少となっています(C図、D図)。

A図 海面漁業・養殖業種類別経営体数の構成比

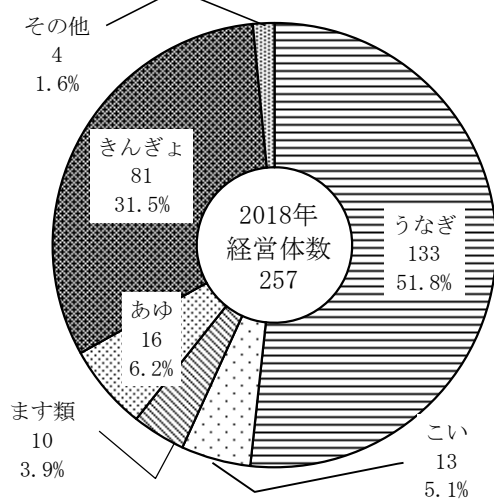


B図 海面漁業・養殖業種類別経営体数(30日未満を除く)の推移

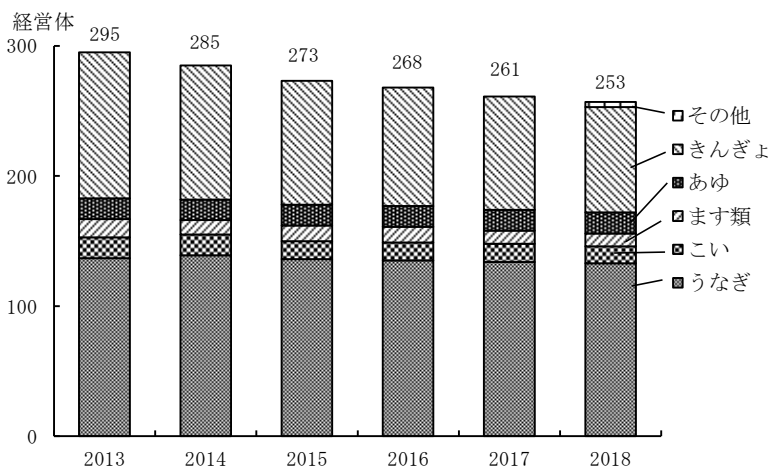


(資料 漁業センサス (A、B図))

C図 内水面養殖業種類別経営体数の構成比



D図 内水面養殖業種類別経営体数の推移



(資料 県水産課調べ (C、D図))

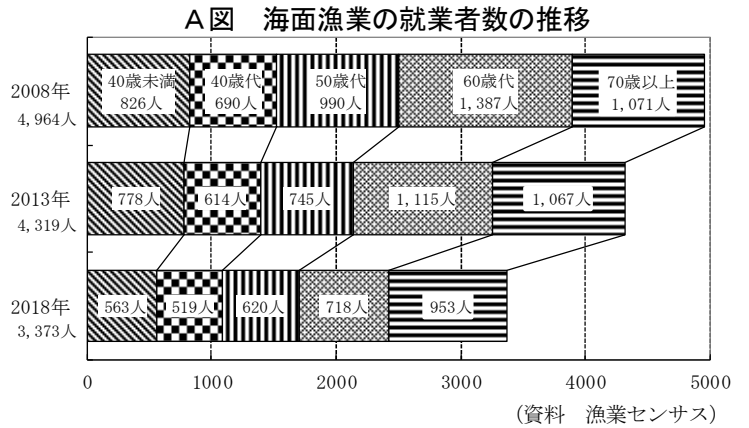
「その他」は2018年より掲載している。

＜主要な問題の解説＞

＜漁業就業者数＞

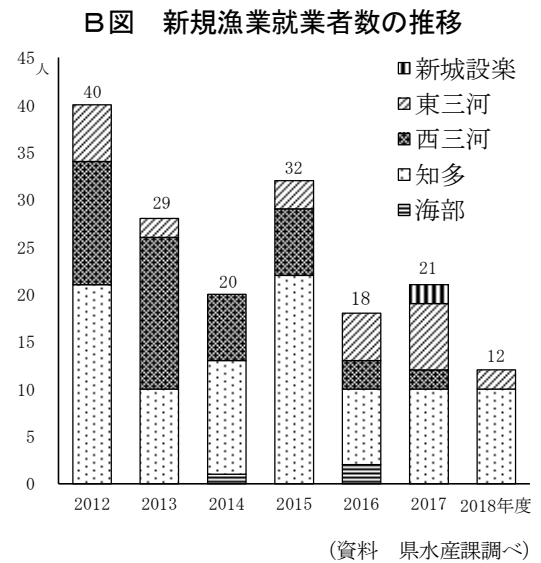
2018年（第14次）漁業センサスによると、2018年の愛知県の海面漁業の就業者数は3,373人で、5年前の4,319人と比べると946人（21.9%）減少しています（A図）。

就業者の年齢別内訳は、50歳以上の層が約7割を占め、中でも70歳以上は953人で全体の28.3%を占めており、漁業就業者の高齢化が年々深刻となっています。



＜新規漁業就業者数＞

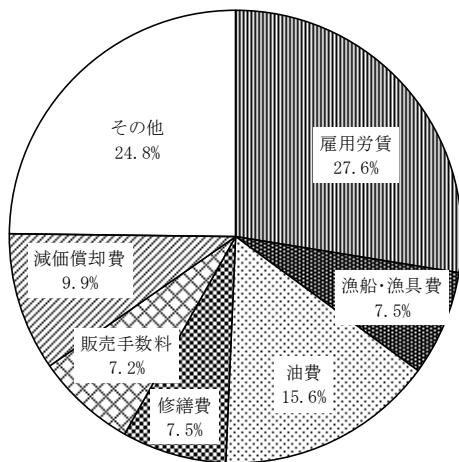
水産課では、各漁業協同組合の協力により新規漁業就業者の調査を毎年行っています。その結果によると、2018年度は全県で12人の新規就業者があり、内訳は知多地区が10人、東三河地区が2人となっています（B図）。新規就業者は減少傾向にあり、昨今の求人倍率の高さから漁業後継者が他の職業に就くケースが多く、人手の確保が課題となっています。



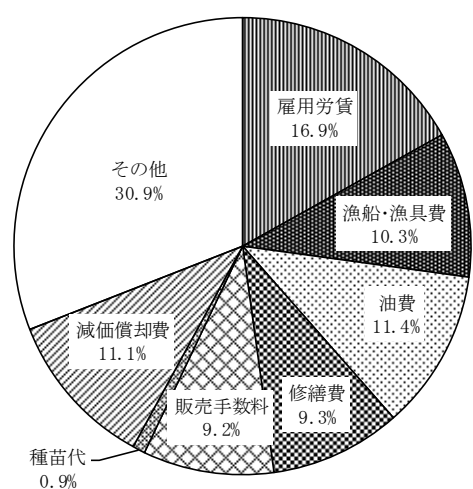
＜漁家経済＞

国の漁業経営調査によると、漁労支出に占める項目別の構成は、漁船漁業（太平洋中区）においては雇用労賃が最も多く27.6%、次いで油費15.6%、減価償却費9.9%等となっています。東海2県ののり養殖業では、雇用労賃が16.9%と最も多く、次いで油費11.4%、減価償却費11.1%等となっています（C図、D図）。

C図 漁船漁業（個人経営体）の漁労支出構成比（2018年：太平洋中区）



D図 のり養殖業（個人経営体）の漁労支出構成比（2018年：東海2県；愛知・三重）



（資料 漁業経営調査（C、D図））

水産業協同組合の動向

●組合員数、販売事業取扱高ともに減少傾向

水産業協同組合法に基づいて設立された組合は、1960年の134組合をピークに、解散や合併によって減少し、2018年1月1日現在の組合数は54、連合会3となっています。単位組合の組合員数は1989年度（32,830人）以降、毎年減少しており、2018年度には15,215人となっています（A表）。このうち沿海漁協の正組合員数は2,782人で、10年前に比べ37.1%減少しています（A図）。

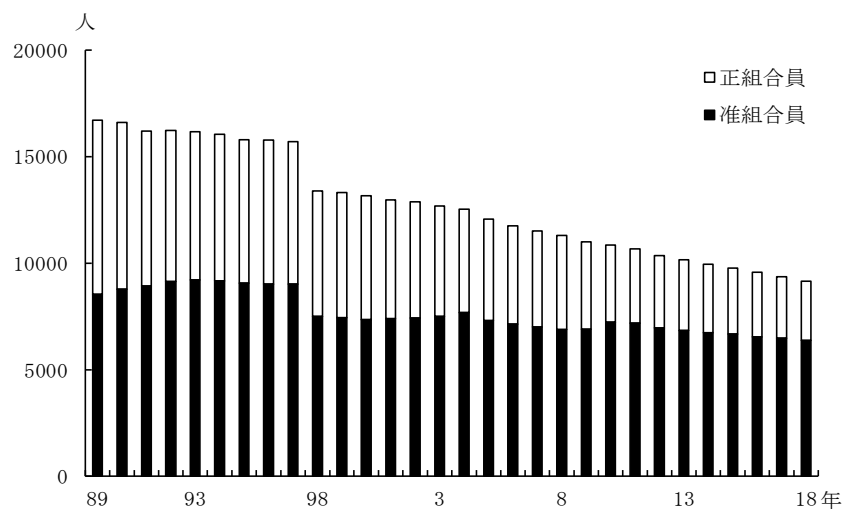
沿海漁協の主要事業である販売事業の取扱高は、高度経済成長とともに増加しましたが、1990年の378億円をピークに減少傾向となりました。なお、2018年は182億円に増加しました（B図）。

A表 本県の水産漁協同組合の概況

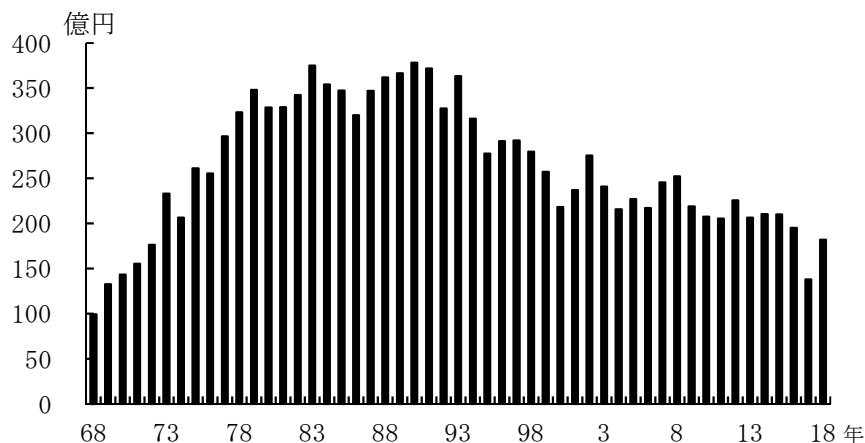
年度	区分	沿海漁業協同組合	内水面漁業協同組合	業種別漁業協同組合	水産加工業協同組合	漁業生産組合	計	連合会	
2018	組合数	22	19	8	-	5	54	3	
	組合員数	正	2,782	4,671	506	-	49	8,008	90
		准	6,373	663	171	-	-	7,207	1
		計	9,155	5,334	677	-	49	15,215	91

(資料 県調べ)

A図 沿海漁協の組合員数の推移



B図 沿海漁協の販売事業取扱高の推移



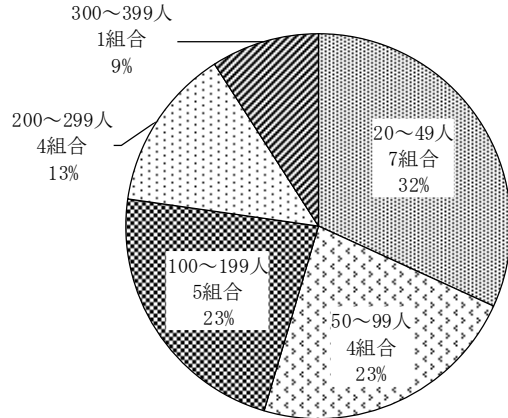
(資料 県調べ (A, B図))

〈主要な問題の解説〉

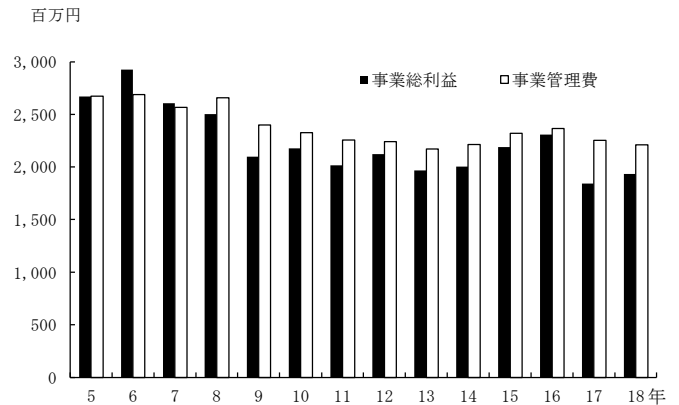
〈沿海漁協の経営規模〉

本県では正組合員数が200人未満の小規模な組合が全体の77%を占めています（A図）。また、事業管理費の大幅な削減が困難な状況にあり、事業管理費が事業総利益を上回るなど漁協経営が厳しい状況が続いています（B図）。後継者不足や高齢化の進行、魚価の低迷、水産資源の減少など、漁協経営を取り巻く環境が厳しさを増していることから、早急に将来を見越した経営基盤の強化が必要となっています。

A図 正組合員数別の組合割合



B図 事業総利益と事業管理費の推移

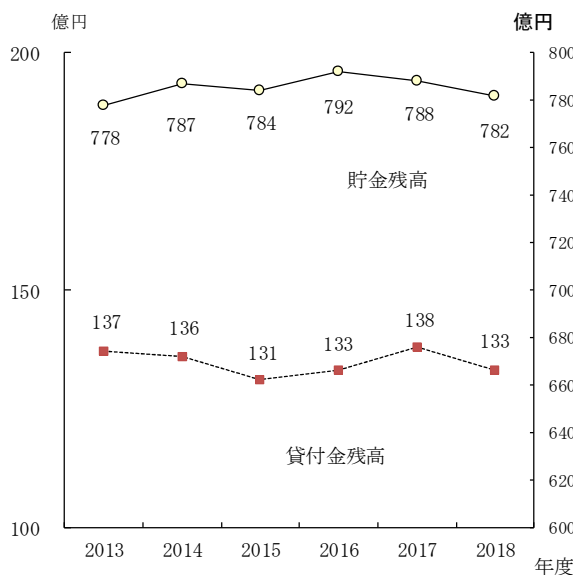


〈漁業金融〉

漁協等の系統団体は、漁業生産活動に必要な資金融資を行うことにより、漁業にとって重要な役割を果たしています。2018年度末における漁協貯金の残高は、対前年度比0.7%減の782億円、貸付残高は同3.5%減の133億円でした（C図）。

県では、漁業近代化資金、漁業振興資金、沿岸漁業改善資金の3種類の制度資金を設け、利子補給などにより漁業経営の支援を行っています（A表）。

C図 漁協の貯金及び貸付金残高の推移



A表 制度資金の概要

区分 資金	融資機関	利率		目的
		貸付利率	利子補給率	
漁業近代化資金	信漁連	年0.10% 【20t以上漁船】 年0.15%	年0.85 ～1.30% 【20t以上漁船】 年1.25%	経営の近代化等に 必要な漁船、 漁具、養殖施設 等の取得促進
漁業振興資金	信漁連	年1.5～ 1.9%	—	短期の運転資金 等
沿岸漁業改善資金	県（窓口は信漁連）	無利子		沿岸漁業従事者 等が漁業経営の 健全な発展、漁 業生産力の増大 等を図るため

(2020年3月18日現在)

(資料 県調べ (A～C図))

3 漁業生産の基盤

漁船・漁港の動向

●漁船隻数はやや減少

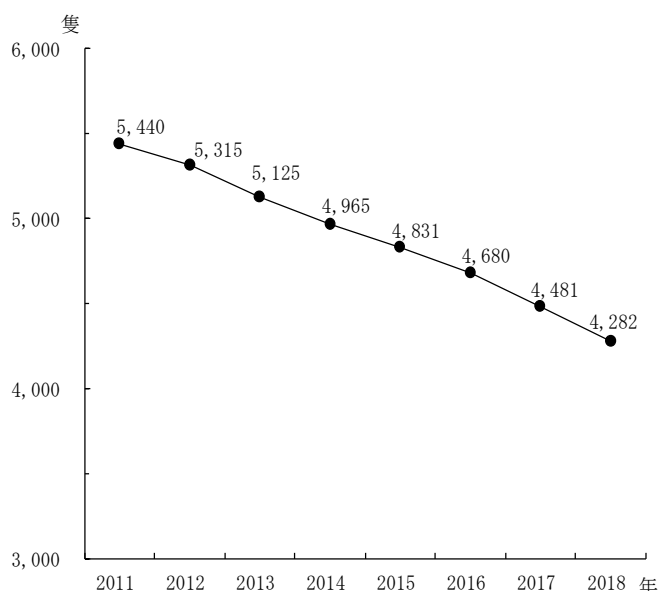
2018年の海水動力漁船の隻数（漁船統計表、2018年12月31日現在）は、前年に比べ199隻減少して4,282隻となっています（A図）。

●漁港への陸揚量

本県の指定漁港は、第1種漁港（利用範囲が地元の漁業を主とするもの）が17港、第2種（利用が第1種より広く第3種に属さないもの）が13港、第3種（利用が全国的なもの）が3港、第4種（避難港等）が1港であり、このうち11港が県管理、23港が市町管理漁港です。漁港における2018年の陸揚量は、64,082 tと前年から14%減少しました（B図）。

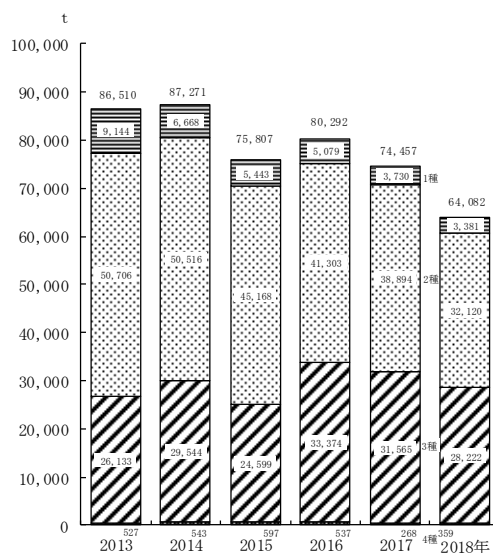
漁港は長期計画により整備を図っており、現在は2017年度から始まった第4次漁港漁場長期計画（2017～2021年度）に基づき整備を実施しています（A表）。

A図 海水動力漁船隻数の推移



(資料 漁船統計表)

B図 漁港における陸揚量の推移



(資料 県水産課調べ)

A表 第4次漁港漁場整備長期計画等に基づく整備計画（2017～2021年度）

事業名	港数	漁港地区名
水産流通基盤整備事業	1	師崎
水産生産基盤整備事業	2	知柄、赤羽根
水産物供給基盤機能保全事業 (保全工事)	23	鬼崎、小鈴谷、上野間、豊浜、師崎、篠島、日間賀、大井、大浜、寺津、栄生、味沢、一色、衣崎、佐久島、宮崎、西幡豆、知柄、形原、三谷、福江、赤羽根、伊川津
漁港施設機能強化事業	8	鬼崎、豊浜、師崎、篠島、日間賀、栄生、佐久島、西幡豆
漁港機能増進事業等	8	豊浜、篠島、日間賀、一色、知柄、大浜、形原、三谷
計	延42	

＜主要な問題の解説＞

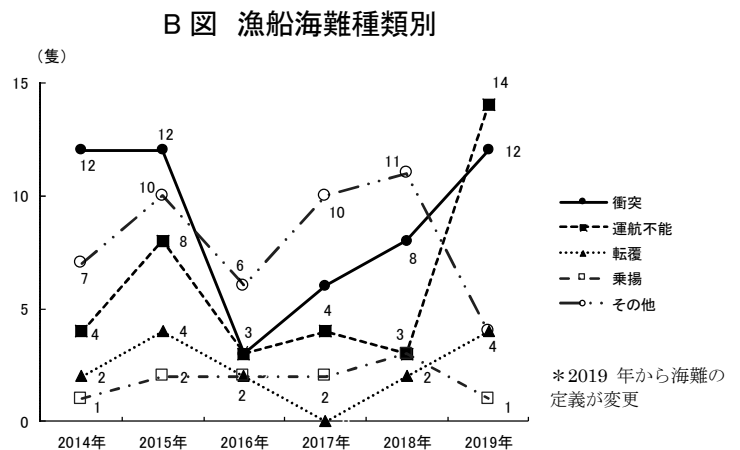
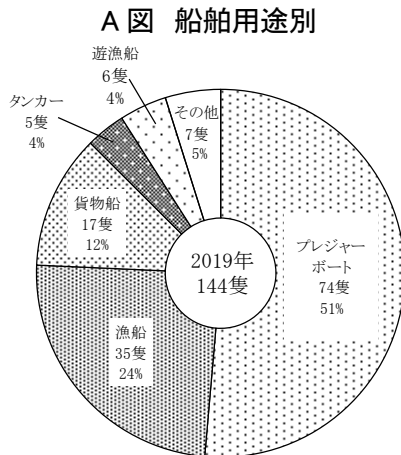
＜2019年の漁船海難の動向と対策＞

愛知・三重県の両沿岸及び沖合海域で2019年1月1日から12月31日までの1年間に144隻の船舶事故が発生しました（A図）。そのうち漁船の事故は35隻と全体の24%で、プレジャーボートに次ぐ多さとなっています。

また、漁船の海難種類別で見ると機関故障等の運行不能が14隻で最も多く、次いで衝突が12隻となっています（B図）。

県では、このような海難を防止するため、会議や講習会等の場で作業時の見張りの徹底やライフジャケットの着用等の海難防止策の普及啓発を行っています。また、漁業無線を使った安全操業や安全航行への呼びかけも実施しています。

＜海難の発生状況＞



(資料 第四管区海上保安本部交通部)

＜漁場整備事業＞

2002年度に施行された漁港漁場整備法に基づき、漁港事業と一体となった漁場整備事業が行われています。本県では、内湾から外海まで県域全体の水産資源増大と漁場環境改善を図るため「あさりとさかな漁場総合整備事業」を行っており、2019年度はあさり漁場となる干潟・浅場を三河湾（西尾市及び田原市地先）で5.0ha造成するとともに、渥美外海のさかな漁場となる魚礁を1,437空³m整備しました。また、2019年度は冬季波浪によるアサリの減耗対策として「貝類増殖場造成事業」を実施し、西尾市地先に砕石を利用した増殖場を3.6ha造成しました。

＜漁村活性化総合対策事業＞

漁村活性化総合対策事業は、漁業・漁村を取り巻く厳しい環境や食の安心安全等に関わる課題に対応する施設の重点的な整備により、力強い漁業生産地づくりを推進し水産物の安定供給を図るための県単独補助事業です。4つの事業種目によりきめ細かい支援を行い、漁村の活性化を図っています（A表）。

A表 2019年度実施件数

事業種目	実施件数	実施内容（施設）
防災対策推進事業	2	燃料等補給施設
地先漁場生産力向上事業	-	
衛生管理強化事業	7	水産物荷さばき施設、水産物鮮度保持施設 等
就労環境改善事業	3	運搬施設
合計	12	

漁場環境の動向

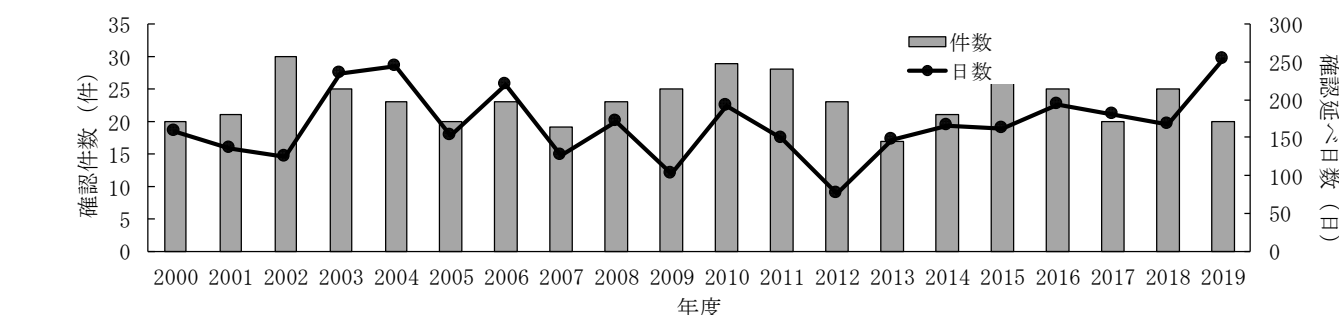
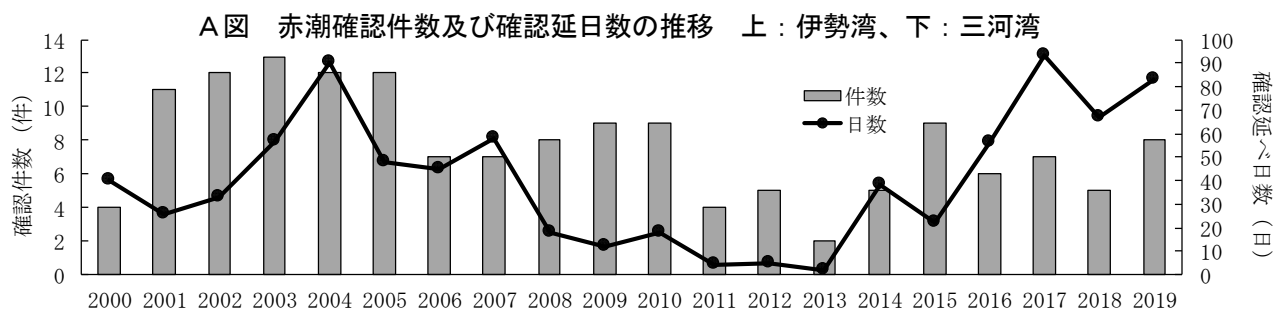
●2019年度の赤潮発生は30件

赤潮は、植物プランクトンが異常繁殖し、海水が赤色等に変色する現象で、のり養殖の色落ちや、底層の貧酸素化の要因となっています。

2019年度の赤潮確認件数は伊勢湾で8件、三河湾で20件の合計28件でした。確認延日数は伊勢湾で83日、三河湾で253日の合計336日でした。赤潮確認件数、確認延日数は年度により変動しているものの、伊勢湾、三河湾ともに経年的に明確な減少傾向は認められません。（A図）。

●2019年度の貧酸素水塊平均被覆面積

表層で発生した赤潮に由来する植物プランクトンの死骸等が沈降し、腐敗・分解することにより、酸素が消費され、底層では酸素が減少した水塊（＝貧酸素水塊：溶存酸素飽和度が30%以下の水塊と定義）が形成されます。貧酸素水塊に覆われた海底の面積（＝貧酸素水塊被覆面積）の2019年7～9月の平均は伊勢湾が382.4 km²、三河湾が146.4 km²でした（B図）。貧酸素水塊平均被覆面積は年度により変動しているものの、伊勢湾、三河湾の面積の半分近くを占めることも珍しくなく、経年的に明確な減少傾向は認められません。



(資料 県水産試験場調べ)

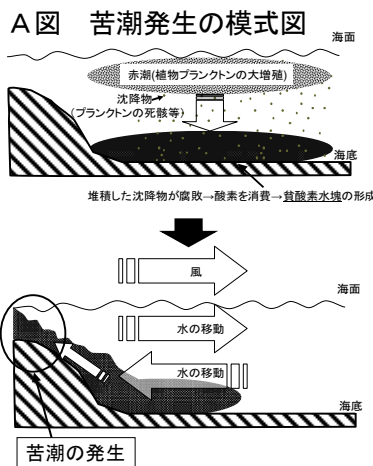
〈主要な問題の解説〉

〈貧酸素水塊と苦潮〉

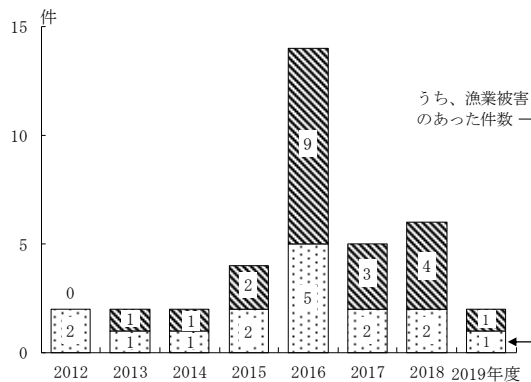
伊勢湾や三河湾では、毎年6月頃から10月頃にかけて、「貧酸素水塊」が海底を広く覆う現象が発生します。

貧酸素水塊は、生物が生息できる海域を狭め、時には風にあおられ岸近くに「苦潮」となって押し寄せて漁業被害を引き起こします（A図）。本県では、毎年苦潮が確認されています。2019年度の苦潮確認件数は2件でしたが、多い年には10件を超える苦潮が確認されています。

また、アサリ稚貝が大量に発生する豊川河口の六条潟では、しばしば苦潮による稚貝の大量死が発生しています。最近では、2016年9月下旬、2019年9月上旬に発生した苦潮によりアサリ稚貝がそれぞれ約1,700トン、約2,000トン死んだと推計されました。



B図 苦潮確認件数の推移

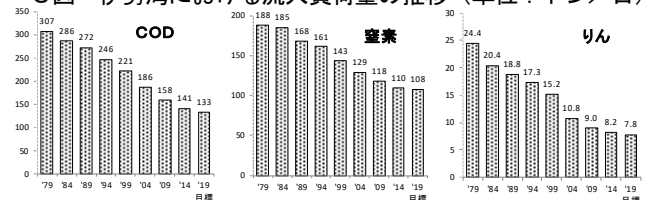


（資料 県水産試験場調べ）

〈総量削減計画〉

伊勢湾（三河湾を含む）は、水質汚濁防止法に基づき、陸域からの流入負荷（COD、窒素、りん）の総量削減を図る地域に指定されており、2017年6月には、2019年度を目標とする愛知県の第8次の総量削減計画が策定されています。

C図 伊勢湾における流入負荷量の推移（単位：トン／日）



（注）三重県・岐阜県分も含む。'19目標は第8次総量削減計画

この計画に基づき、県内の事業所には厳しい排水規制がかけられており、1980年の第1次計画策定以来、流入負荷量は年々低下しており、2014年実績値は1979年実績値に比べ、CODは46%、窒素は59%、りんは59%となっています（C図）。また、県の総量削減計画では、懸濁物質及びプランクトンの海域中からの効率的な取出しに寄与するアサリ漁獲の安定化や、「きれいな海」、「豊かな海」、「親しめる海」という視点から里海再生を推進することが、汚濁負荷量の総量の削減及び水環境の改善に関し必要な事項として位置付けられています。

〈下水道の放流水リン濃度増加試験運転〉

厳しい排水規制の一方、伊勢湾や三河湾では、窒素、りんの栄養塩不足によるノリ、アサリの不漁が問題となっています。下水道の運転管理による秋冬季の栄養塩類の増加についての漁業者からの要望を踏まえ、愛知県では2017年度から、矢作川浄化センター（西尾市）と、豊川浄化センター（豊橋市）で、秋冬季における放流水のリン濃度増加に係る試験運転が実施されています。水産試験場による試験運転の効果調査では、試験期間中、浄化センター周辺海域にリンの供給が観測され、ノリ、アサリ漁場への波及効果が確認されています。

資源保護増大の動向

●栽培漁業の推進

水産資源の維持増大を図るため、県では1978年10月に開設した愛知県栽培漁業センターにおいて放流用の種苗を生産・供給し、漁業者による栽培漁業の取組を推進しています（A表）。

本県の栽培漁業は1979年度のくるまえば、あわび、あゆに始まり、1985年度からくろだいとがざみ、1993年度からはなまこ、更に2005年度からはとらふぐとよしえびの種苗生産を開始し、2018年度からは資源造成が図られたくろだい（放流用）の生産を休止してとらふぐ、がざみを増産して重点化を行い、栽培漁業の一層の推進を図っています。

A表 栽培漁業センター産種苗の供給実績

魚種	供給先	年度				
		2015	2016	2017	2018	2019
くるまえば（千尾） （全長1.5～2.0cm）	常滑市	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	西尾市（旧一色町）	2,800	2,800	2,800	4,500	4,500
	西尾市（旧幡豆町）	2,800	2,800	2,800	—	—
	西尾市（三河湾）	2,200	2,200	2,200	3,300	3,330
	田原市（旧渥美町）	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
計		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
がざみ（千尾） （甲幅0.5～0.8cm）	常滑市	170	170	170	170	170
	南知多町	330	330	330	330	330
	西尾市（旧一色町）	100	100	100	—	—
	西尾市（旧幡豆町）	400	400	400	500	500
	田原市（旧渥美町）	400	400	400	500	500
	蒲郡市	100	100	100	100	100
計		1,500	1,500	1,500	1,600	1,600
よしえび（千尾） （全長1.1～1.7cm）	常滑市	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	南知多町	1,500	2,000	2,000	2,000	2,000
	西尾市（旧一色町）	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計		4,000	4,506	4,500	4,500	4,500
とらふぐ（千尾） （全長3.5～4.5cm）	南知多町	130	130	130	130	130
	西尾市（旧一色町）	—	—	—	40	40
計		130	130	130	170	170
くろだい（千尾） （全長2.5～3.5cm）	西尾市（旧一色町）	25	25	25	—	—
	西尾市（旧吉良町）	10	10	10	—	—
	西尾市（旧幡豆町）	20	20	20	—	—
	田原市（旧渥美町）	50	50	50	—	—
	養殖用	10	10	10	10	10
計		115	115	115	10	10
あわび（千個） （殻長1.0～2.0cm）	師崎漁協	60	60	60	60	60
	篠島 "	65	65	60	65	65
	日間賀島 "	60	60	60	60	60
	豊浜 "	60	60	60	60	60
	渥美、片名、愛知外海漁協他	35.5	35.5	35.5	35.5	38.7
計		280.5	280.5	275.5	280.5	283.7
なまこ（千尾） （全長0.5～1.0cm）	南知多町	380	380	380	380	380
	西尾市（旧一色町）	35	35	35	35	35
	西尾市（旧吉良町）	25	25	25	25	25
	西尾市（旧幡豆町）	50	50	50	50	50
	蒲郡市	10	10	10	10	10
	田原市（旧渥美町）	200	200	138	200	200
計		700	700	638	700	700
あゆ（千尾） （全長3.0～3.9cm） （全長4.0～5.0cm）		500	500	500	500	500
	愛知県鮎養殖漁協等	1,500	1,500	1,500	1,500	1500
計		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

＜主要な問題の解説＞

＜栽培漁業基本計画＞

県では沿岸漁場整備開発法に基づき栽培漁業基本計画を策定し、栽培漁業の一層の推進を図っています。現在は2021年度を目標年次とする第7次栽培漁業基本計画が策定されています。

(第7次栽培漁業基本計画のポイント)

- 資源造成型栽培漁業を一層推進する。
- 都道府県の区域を越えて回遊する広域種については、太平洋南海域栽培漁業推進協議会において策定された「効率的かつ効果的な種苗生産及び種苗放流に関する計画（広域プラン）」を踏まえ、種苗生産や放流等を実施するよう努める。

＜資源管理型漁業の推進＞

水産資源を増やす取組だけではなく、獲りすぎないように漁獲をコントロールする資源管理型漁業の推進も重要です。漁業者は、休漁期間や定期休漁日の設定や網目の制限など様々な自主的な取組を定めた「資源管理計画」を作成し、資源管理に取り組んでいます（A表）。

A表 資源管理計画の一覧表

No.	資源管理計画名	計画参加者数	No.	資源管理計画名	計画参加者数
1	大濱漁協中型まき網漁業	3	18	片名漁協あなご籠漁業	3
2	愛知県ばち網漁業者組合イカナゴ	21	19	西三河漁協一色支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	24
3	愛知県ばち網漁業者組合イワシ類	21	20	西三河漁協吉良支所及び幡豆漁協さし網漁業	3
4	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イカナゴ	86	21	蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	10
5	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イワシ類	86	22	幡豆漁協小型機船底びき網(改良備前網)漁業	4
6	蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網(えびけた網)漁業	4	23	師崎漁協あなご籠漁業	3
7	蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網(えびけた網)漁業	2	24	東幡豆漁協小型機船底びき網(改良備前網)漁業	1
8	蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	5	25	西三河漁協吉良支所採貝(長柄まんが)漁業	6
9	豊浜漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	6	26	西三河地区採貝(腰まんが)漁業	137
10	伊勢湾海域における小型機船底びき網(まめ板網)漁業	136	27	西三河地区小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	87
11	愛知外海漁協しらす機船びき網漁業	6	28	鬼崎漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	25
12	東幡豆漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	7	29	常滑漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	16
13	幡豆漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	4	30	小鈴谷漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	27
14	幡豆漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	7	31	西三河漁協一色支所小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	5
15	日間賀島漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	11	32	片名漁協かに籠漁業	5
16	三谷漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	2	33	篠島漁協小型機船底びき網(手繰第二種餌料びき網)漁業	15
17	西三河漁協吉良支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網、貝けた網及びえびけた網)漁業	6		計	784

(2020年3月31日現在)

＜漁獲可能量制度＞

漁獲可能量とは、法に基づき特定の魚種ごとに国が定める、年間に漁獲できる総量であり、通称TAC (Total Allowable Catch) と呼ばれています。漁獲可能量の管理対象には2020年4月1日現在で8魚種が指定され、このうち本県ではマイワシなど4魚種が管理対象となっています（B表）。

B表 本県に定められた漁獲可能量

魚種名	クロマグロ		マアジ	マイワシ	マサバ及びゴマサバ
	30kg 未満	30kg 以上			
管理期間	2020. 4～2021. 3		2020. 1～12	2020. 1～12	2019. 7～2020. 6
本県への配分量	0. 1t	1. 0t	若干量	50, 000t	若干量

4 漁業生産

漁業総生産の動向

●漁業・養殖業の総生産量は14.3%減少

2018年の海面及び内水面の漁業・養殖業の総生産量は77,946 tで、前年(90,985t)に比べ14.3%減少しました(A図)。

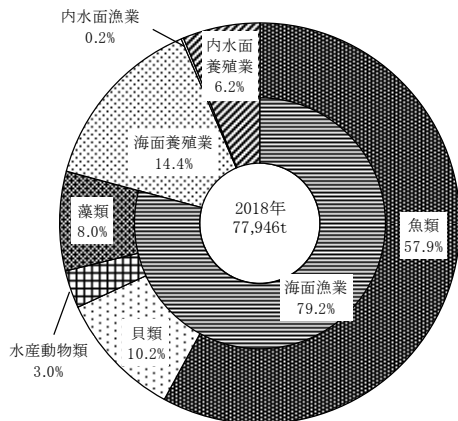
このうち、海面漁業は61,727 tで前年に比べ11.8%減少しており、海面養殖業は11,213 tで18.4%の減少となりました。また、内水面漁業は148 tで前年に比べ20.3%増加し、内水面養殖業は4,858 tで32.0%減少しています(C図)。

●漁業・養殖業の総産出額は1.7%減少

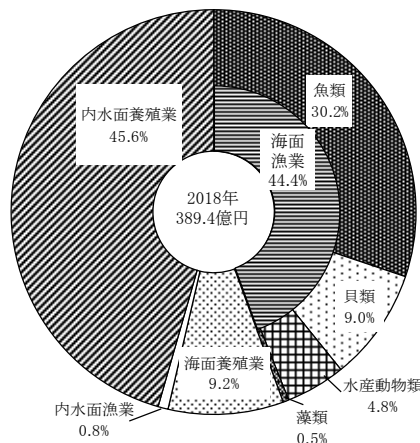
2018年の漁業・養殖業の総産出額は389.4億円で、前年(396.0億円)に比べ1.7%減少しました(B図)。

この内訳をみると、海面漁業は173.0億円で前年に比べ36.9%の増加、海面養殖業は35.9億円で29.7%の減少、内水面漁業は3.1億円で6.4%の減少、内水面養殖業は177.5億円で17.6%の減少となっています(D図)。(内水面漁業・養殖業の産出額(推計)は魚種別の生産量に全国平均単価を乗じて求めています)

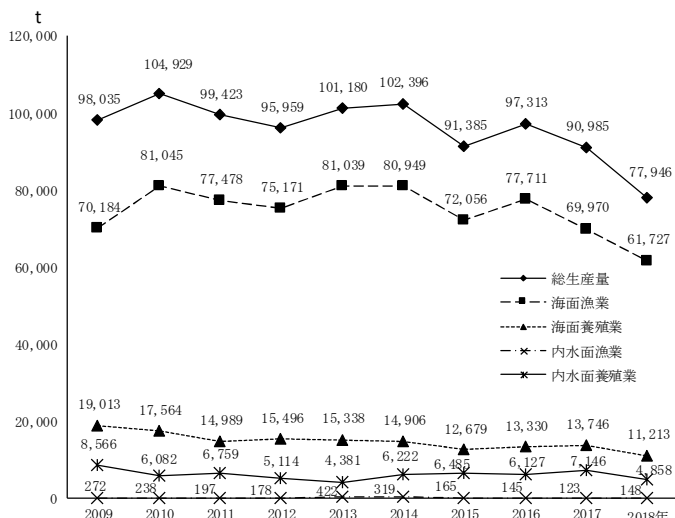
A図 漁業・養殖業の総生産量の内訳



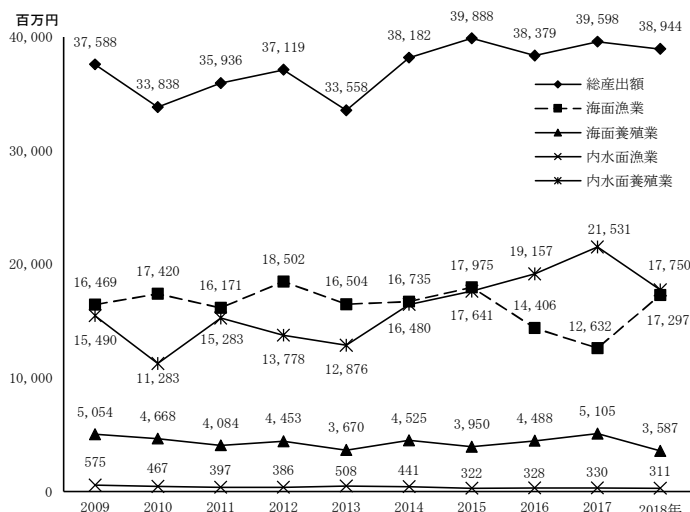
B図 漁業・養殖業の総産出額の内訳



C図 漁業・養殖業の総生産量の推移



D図 漁業・養殖業の総産出額の推移



内水面漁業および内水面養殖業の産出額は、県水産課が生産量に全国単価を乗じて求めた推計値。

内水面養殖業は産出額(D図)のみきんぎょを含む。きんぎょは県水産課調べ

(資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ(A～D図))

〈主要な問題の解説〉

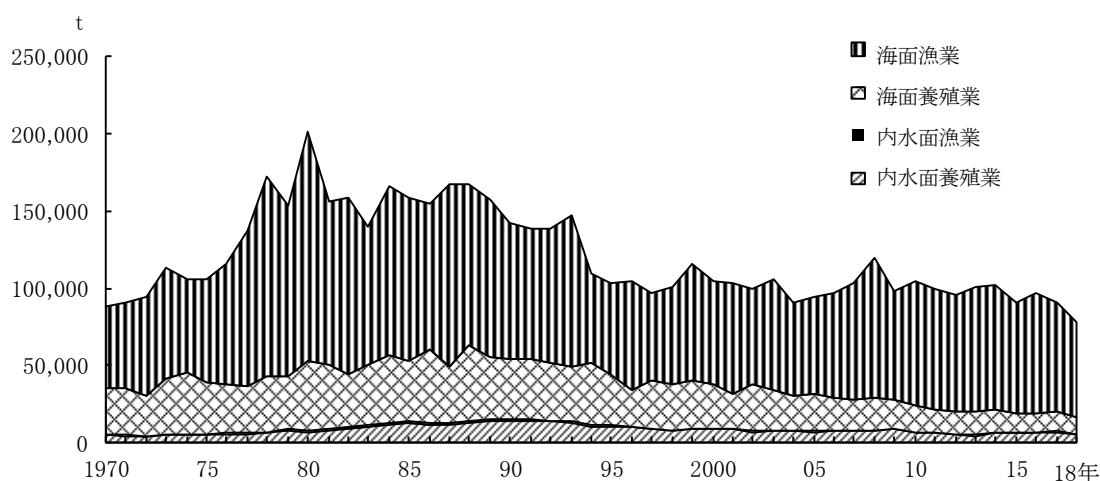
〈漁業生産量の推移〉

漁業・養殖業の総生産量は、まいわしの漁獲量が多かった1970年代後半～90年代前半にかけては15万t前後でしたが、まいわしが急激に減少した94年以降は、10万t前後で横ばいに推移しています。内訳を見ると、海面漁業が全体の半分以上を占め、近年は横ばい傾向にあります。海面養殖業はのり養殖の経営体減少により一貫して減少傾向にあります。内水面養殖業も90年代前半は減少傾向にありましたが、近年は横ばいで推移しています（A図）。

〈漁業産出額の推移〉

漁業総産出額は、1988年の645億円をピークに、以降は急激に減少しましたが、2000年以降は横ばいないし増加傾向となり、近年は350～400億円で推移しています。内訳を見ると、海面漁業、海面養殖業、内水面養殖業ともに、1988年頃から2000年頃までの減少が大きく、不況に伴う魚価の低迷が大きな要因と考えられます。2000年以降は海面漁業と内水面養殖業は増加傾向に転じていますが、海面養殖業は減少傾向が続いています（B図）。

A図 海面・内水面漁業・養殖業生産量の推移



B図 海面・内水面漁業・養殖業産出額の推移



(資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ (A、B図))

海面漁業生産の動向

●海面漁業漁獲量は11.8%減少

2018年の海面漁業の漁獲量は61,727 tで、前年（69,970 t）に比べ11.8%減少しました（A図）。これは主に、まいわしの減少によるものです。

漁業種類別では、船びき網が38,928 tで最も多く、県全体の63.1%を占め、次いで、採貝・採藻が9,546 tで同15.5%となっています（B図）。

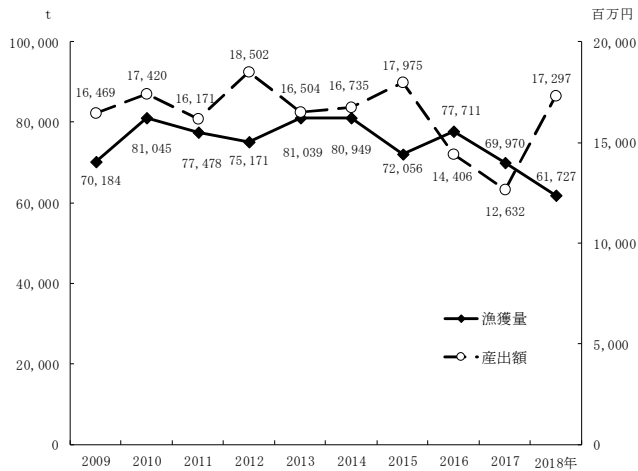
魚種別では、まいわしが23,787 tで同38.5%、かたくちいわしが8,684 tで同14.1%、しらすが6,821 tで同11.1%、あさり類が2,741 tで同4.4%を占めました。これら上位4魚種で全体の約3分の2となっています（C図）。

●海面漁業産出額は36.9%増加

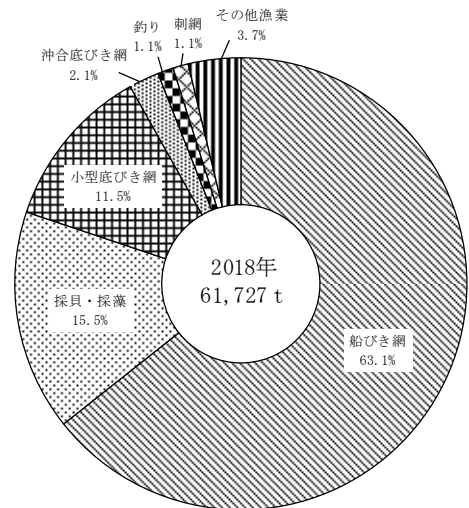
2018年の海面漁業の産出額は173.0億円で、前年（126.3億円）に比べ36.9%増加しました（A図）。これは主に、しらすの増加によるものです。

魚種別に見ると、しらすが67.5億円で県全体の39.0%を占め、あさり類が15.3億円で同8.8%、次いで、まいわしが9.0億円で同5.2%となっています（D図）。

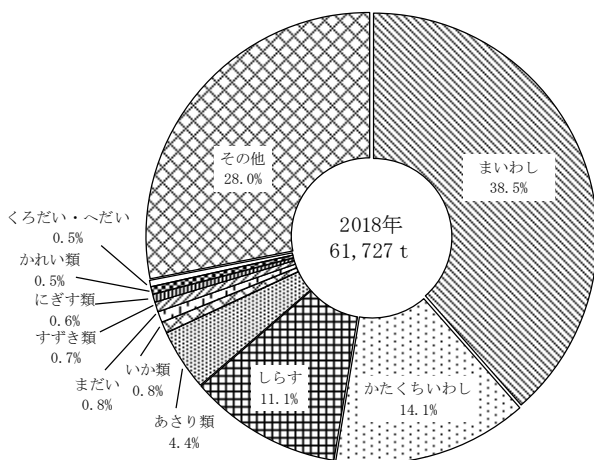
A図 海面漁業漁獲量及び産出額の推移



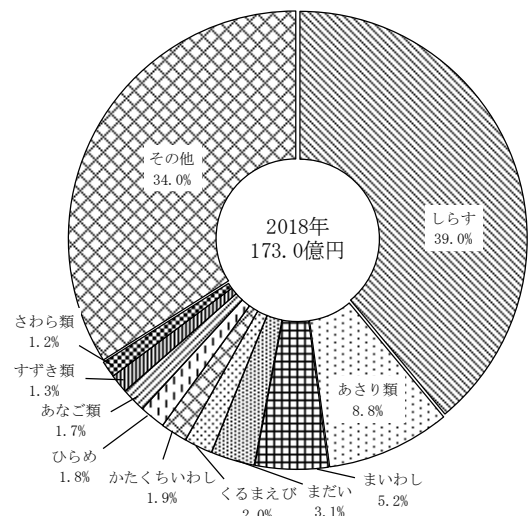
B図 海面漁業種類別漁獲量の構成



C図 海面漁業魚種別漁獲量の構成



D図 海面漁業魚種別産出額の構成



(資料 海面漁業生産統計調査 (A~D図))

〈主要な問題の解説〉

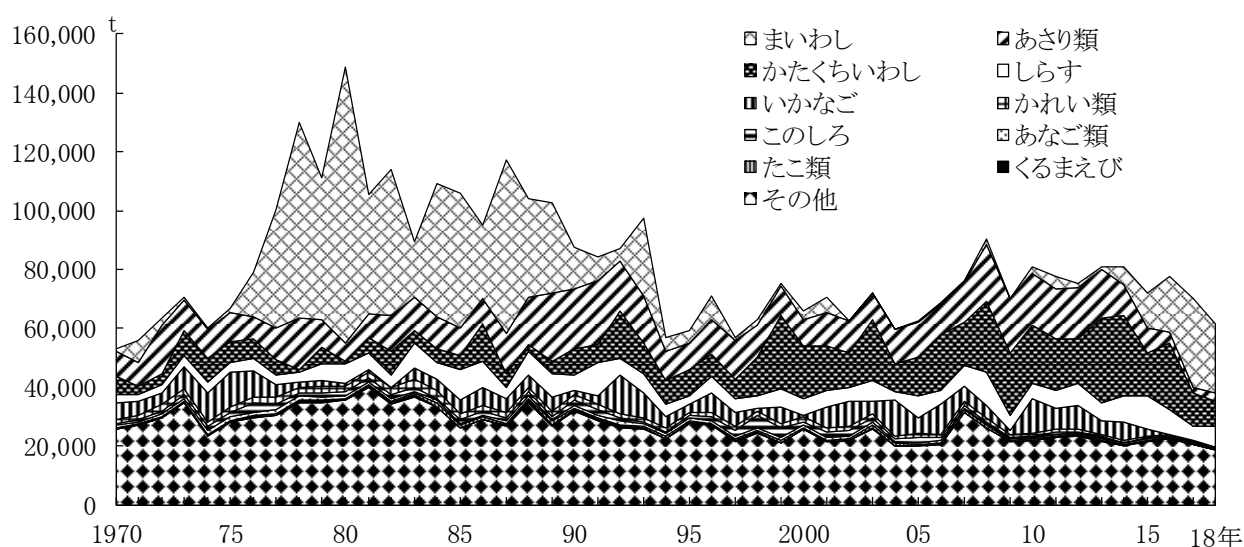
〈魚種別漁獲量〉

1970年代後半から90年代前半にかけてまいわしの漁獲量が非常に多く、最盛期には総漁獲量の半分以上を占めていました。94年以降まいわしは激減しましたが、代わってかたくちいわしが増えています。まいわしを除く漁獲量は、近年6万t前後で概ね安定しています。2012年以降、あさりの漁獲量が減少しましたが、まいわしの漁獲量は再び増加に転じ、17年以降はまいわしの漁獲量がかたくちいわしの漁獲量を抜いています（A図）。

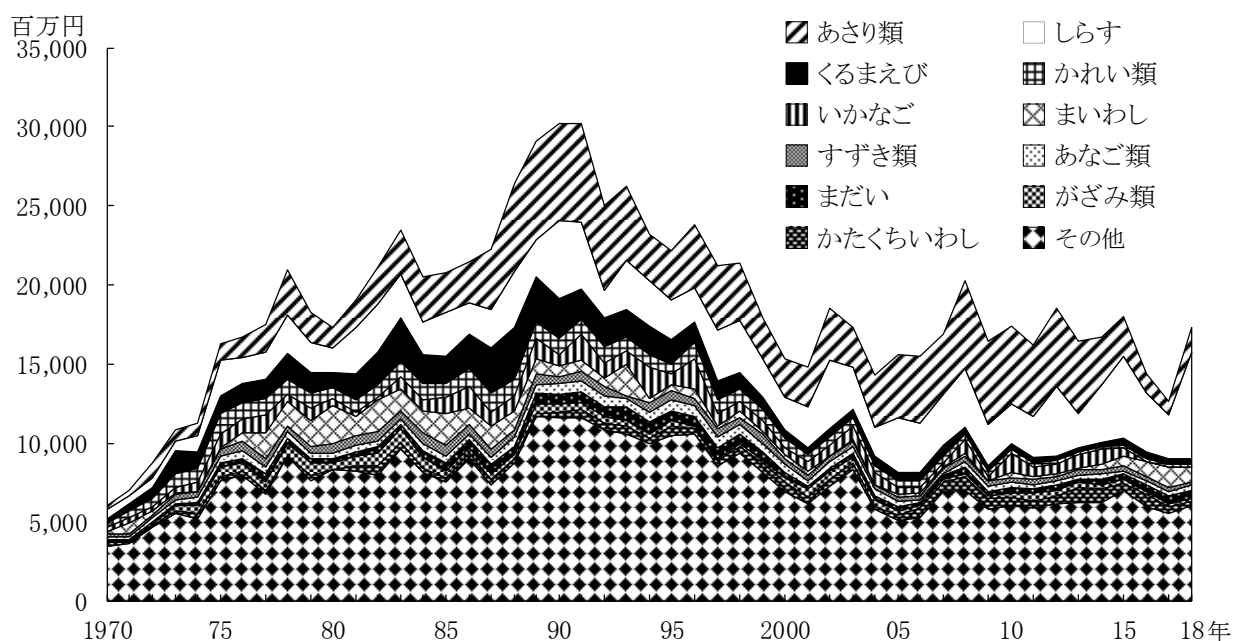
〈魚種別産出額〉

海面漁業の産出額は1991年をピークに急激に減少し、その後2000年以降は概ね安定しています。ピーク時に多くを占めたあさり類は大幅に減少しましたが、産出額の大きな割合を占めるしらすは、年による増減はあるものの概ね安定しています（B図）。

A図 海面漁業魚種別漁獲量の推移



B図 海面漁業魚種別産出額の推移



（資料 海面漁業生産統計調査（A、B図））

海面養殖生産の動向

●板のり生産枚数は1.5%増加（暦年）

2018年の海面養殖業の収穫量は11,213 tで、前年に比べ18.4%減少しました。本県の海面養殖業における収穫量のほとんどはのり養殖業で、18年（1～12月）における板のりの生産枚数は2億7,872万枚となり、前年に比べ19.3%減少しました（A表）。また、18年の板のり平均価格は1,183円と前年より15.2%低く、のり養殖産出額は33.0億円で31.5%減少しました（A表）。

地域別では、知多地区が2億3466万枚で前年に比べ22.0%の減少、西三河地区が3,184万枚で8.3%の減少、東三河地区では1,223万枚で26.4%の増加となっています（B図）。

●養殖年では7.4%減少

板のり生産枚数を養殖年で比較すると、18年度（2018年11月～19年5月）は2億7,028万枚となり、前年度に比べ7.4%の減少となりました。地区別では、知多地区が7.6%の減少、西三河地区が5.7%の減少、東三河地区が6.6%の減少となっています（C図）。

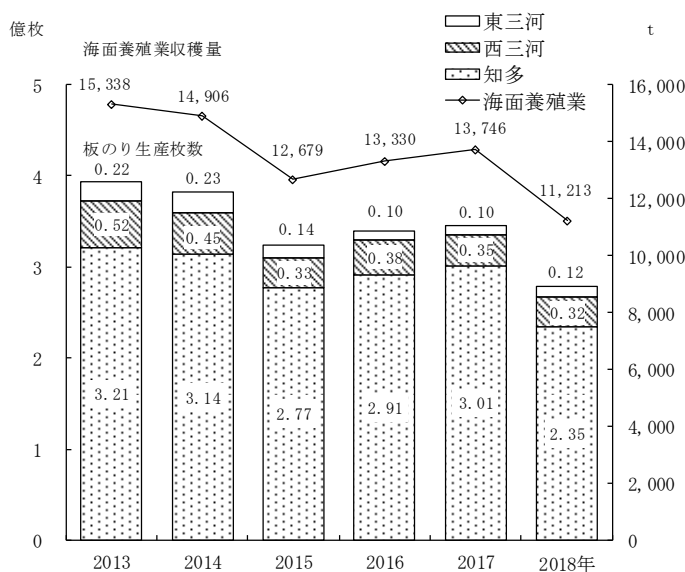
A表 板のり生産状況（暦年）

区 分		年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
生産枚数 (千枚)	く ろ の り		374,405	359,883	310,013	327,668	334,044	264,003
	ま ぜ の り		3,175	3,228	2,307	3,455	x	x
	あ お の り		16,539	19,192	11,116	8,975	x	x
	板 の り 計		394,118	382,303	323,436	340,099	345,317	278,721
産出額 (万円)	合 計		327,700	417,300	354,400	410,700	481,700	329,800
板のり平均価格 (円/100枚)			832	1,092	1,096	1,208	1,395	1,183

(注)板のり平均単価は、ばらのり・生のりを含む。

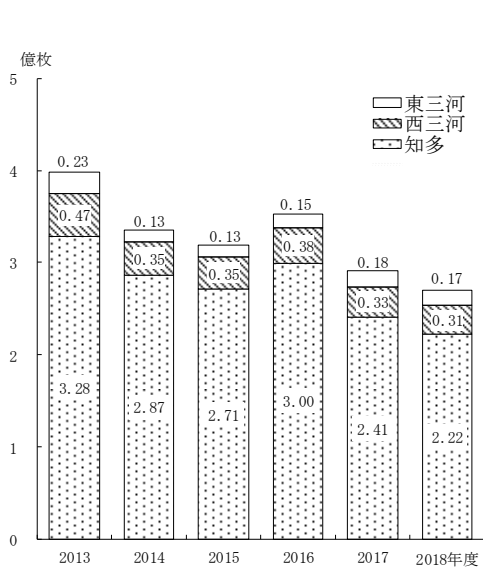
(資料 海面漁業生産統計調査)

B図 海面養殖業収穫量及び板のり生産枚数の推移（暦年）



(資料 海面漁業生産統計調査)

C図 板のり生産枚数の推移（養殖年度）



(資料 県水産課調べ)

〈主要な問題の解説〉

〈2018年度（2018年11月～2019年5月）のり養殖の概要〉

1 養殖の経過

(1) 採苗状況

採苗は9月16日から始まり、各地区とも順調に終了しました。

(2) 育苗

育苗は知多地区で10月15日、西三河地区で10月19日、東三河地区で10月17日から始めました。各地域で水温降下の遅れによる生長の停滞や病障害が発生しましたが、概ね予定どおりの生産が行われました。

(3) 秋芽網生産

漁期を通し栄養塩濃度は概ね良好でした。知多西浜地区では珪藻の付着やあかぐされ病により生産枚数は伸び悩みましたが、他地区では順調な生産が行われました。一方、魚類やカモの食害被害が各地で見られ、囲網の設置や養殖網を沈める等の対策がとられました。

(4) 冷蔵網生産

1月以降、各地域で栄養塩が減少し、色の悪い製品が見られるようになりました。その後、降雨の度に栄養塩は回復と低下が繰り返しました。多くの地区で魚類やカモの食害被害が見られ、防除網などの対策がとられました。

(5) 青のり生産

近年、東三河地区の青のりは、市場の評価が高くなっています。このため、当該地区の生産者は青のり養殖に力を入れており、青のりの最盛期を迎える2月以降の生産体制は黒のりから青のりに替わります。

A表 各地区の養殖経過（黒のり）

地区	陸上採苗開始	野外採苗開始	張り込み開始	摘採開始
知多地区	9月16日	—	10月15日	11月19日
西三河地区	9月23日	—	10月19日	11月24日
東三河地区	10月2日	10月15日	10月17日	12月2日

2 養殖生産の結果

黒のりの生産枚数は257,692千枚（前年比79%）、生産金額は3,397,075千円（前年比93%）となりました。経営体あたりでは生産枚数1,652千枚（前年比93%）、生産金額21,776千円（前年比107%）で前年より高くなりました。また、青のりの生産枚数は12,585千枚（前年比92%）、生産金額は144,154千円（前年比76%）となりました。

B表 のり生産の推移

（単位：千枚・千円）

年度	経営体数 (黒のり)	生産枚数			生産金額			経営体当たり(黒のり)	
		黒のり	青のり	合計	黒のり	青のり	合計	生産枚数	生産金額
2013	215	376,386	18,929	395,315	3,450,791	181,436	3,632,227	1,751	16,050
2014	188	321,112	11,642	332,754	3,488,692	106,531	3,595,223	1,708	18,557
2015	179	307,404	11,324	318,728	3,692,907	162,414	3,855,321	1,717	20,630
2016	169	340,331	12,169	352,500	4,512,387	333,300	4,845,687	2,014	26,701
2017	164	277,174	14,556	291,730	3,193,738	169,437	3,363,174	1,690	19,474
2018	156	257,692	12,585	270,277	3,397,075	144,154	3,541,229	1,652	21,776
対前年比	95%	93%	86%	93%	106%	85%	105%	98%	112%
対前年比	85%	79%	92%	80%	93%	76%	92%	93%	107%

（資料 県水産課調べ）

内水面生産の動向

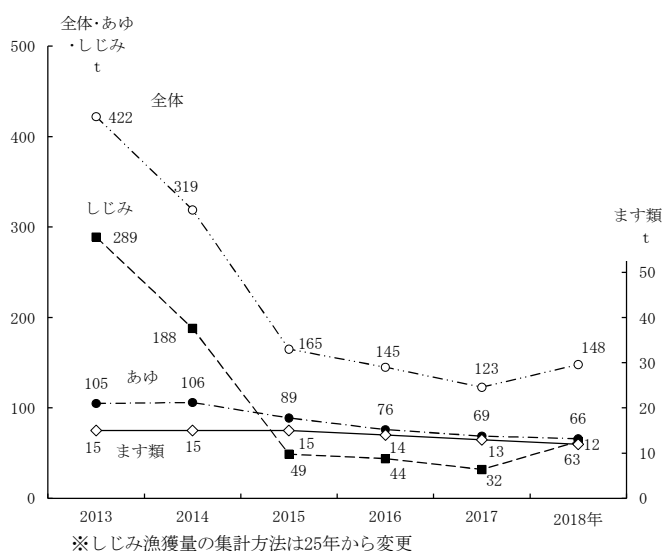
●内水面漁業漁獲量は148 t

2018年の内水面漁業の漁獲量は148 tであり、前年に比べ20.3%の増加となりました。あゆの漁獲量は66 tで、前年から4.3%の減少となっています（A図）。また、内水面の遊漁の主体であるあゆの遊漁者数については、レジャーの多様化などによる遊漁の参加人口（全国）の減少と同様に、減少傾向となっています（B図）。

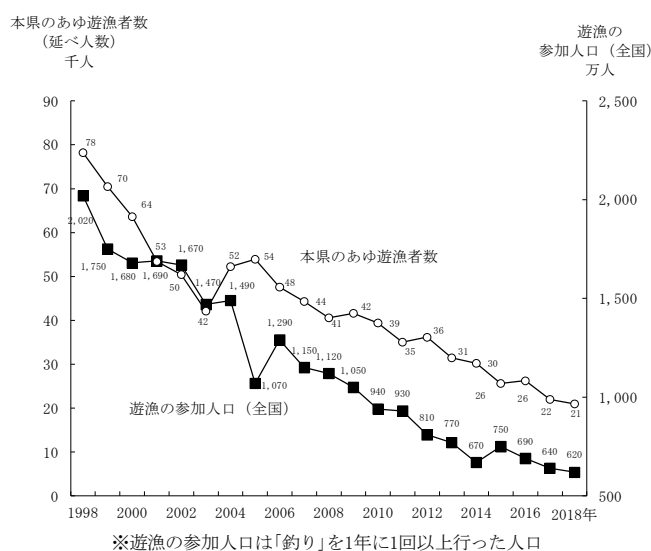
●内水面養殖業収穫量は4,858 t

2018年の内水面養殖業収穫量（観賞魚除く）は4,858 tであり、前年に比べ32.0%の減少となりました。うなぎ養殖の収穫量は県内水面養殖業の約8割を占めており、2018年は3,459 tで前年の59.8%に減少しました。あゆ養殖の収穫量は1,220 tであり、前年に比べ5.5%の増加となり、前年に続き全国1位となりました（C図）。2018年の内水面養殖業の産出額は178億円であり、前年に比べ17.6%の減少となり、そのうちうなぎ養殖による産出額は153億円となっています（D図）。

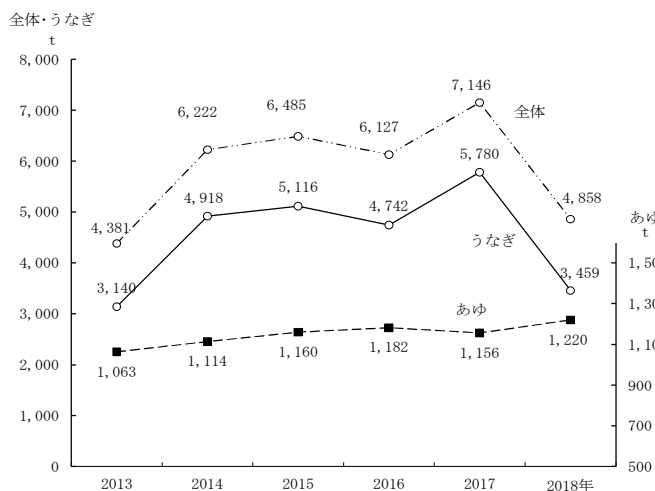
A図 内水面漁業魚種別漁獲量の推移



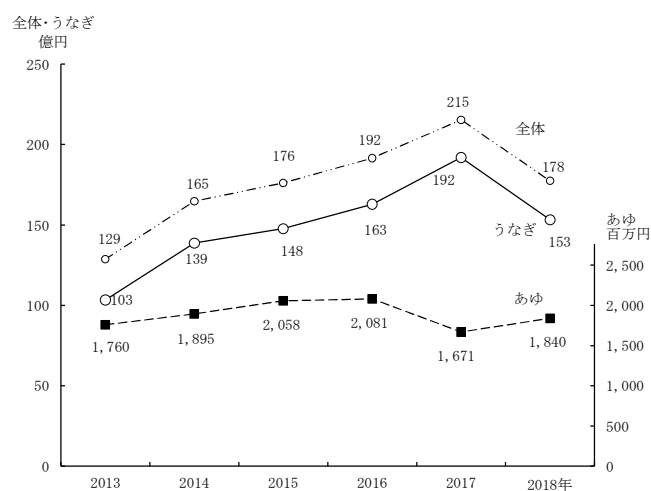
B図 遊漁者数の推移



C図 内水面養殖業魚種別収穫量の推移



D図 内水面養殖業魚種別産出額の推移



(資料 県水産課調べ (A図))

(資料 レジャー白書 (B図: 遊漁の参加人口(全国)), 県水産課調べ (B図: 本県のあゆ遊漁者数))

(資料 内水面漁業生産統計調査 (C図))

(資料 県水産課調べ (D図))

＜主要な問題の解説＞

＜内水面漁業の振興策＞

内水面漁業は、遊漁を通じた県民への憩いの場の提供や、健全な河川環境の確保など、山間地振興の一翼を担う公共的な役割を果たしています。

26年6月には「内水面漁業の振興に関する法律」が国会で成立しました。本県では、内水面漁業の主要魚種であるあゆについて、漁獲量増大のための種苗放流方法の検討を行うとともに、種苗の特性評価を行っています。また、子供達にあゆ等に関する出前授業や放流体験を実施するとともに、漁場保全活動等を通じて、河川の持つ多面的機能を発揮するための取組を支援していきます。

＜内水面養殖業の振興策＞

本県の内水面養殖業は、うなぎ及びあゆ養殖を中心に盛んに行われています。内水面養殖業の振興を図るため、養殖業者に対して魚病診断や水質検査等の養殖技術指導、薬剤耐性菌対策や食の安全性確保のための水産用医薬品の適正使用指導等を行っています。また、養殖魚の歩留向上、きんぎょの新品種開発やうなぎの人工種苗量産化等の試験研究も行っています。

＜主要養殖業の動向＞

○うなぎ養殖業の動向

本県のうなぎ養殖は、西尾市一色町を中心とする西三河地区で盛んに行われており、2018年は鹿児島に次いで、全国第2位の収穫量となっています。

2018年は、しらすうなぎ採捕量低迷により、種苗単価が上昇し、池入れ量が減少したため、収穫量も大きく減少しました。成鰻の品薄感等から、成鰻単価は高値で推移しています（A図）。

○あゆ養殖業の動向

本県のあゆ養殖は、豊川市を中心とする東三河地区で盛んに行われており、2013年から全国第1位の収穫量となっております。これは、養殖業者の徹底した防疫対策が効果をあげたものと考えられます。

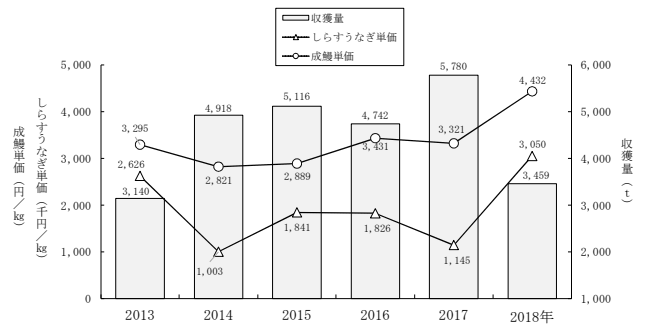
2018年の収穫量は1,220tで前年に比べ5.5%増加し、産出額は18.4億円で前年に比べ10.1%増加しています（B図）。

○きんぎょ養殖業の動向

本県のきんぎょ養殖は、弥富市を中心とする海部地区で行われており、奈良県に次いで全国第2位の生産（販売）量となっています。また、他の生産県に比べ、養殖対象となる品種が20種類以上と多く、特に高級魚が多いことが特徴となっています。

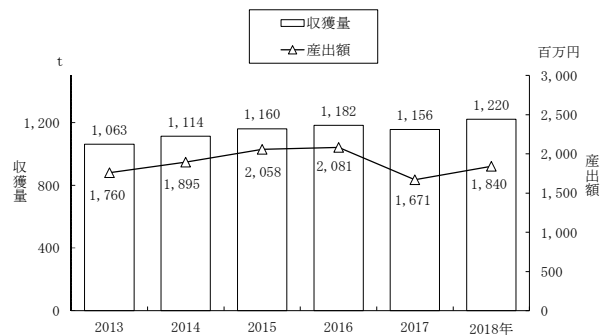
2018年の生産量は6,745千尾で前年に比べ12.7%の増加で、産出額は約3.2億円で前年の97.3%に減少しました（C図）。

A図 成鰻収穫量、しらすうなぎ単価及び成鰻単価の推移

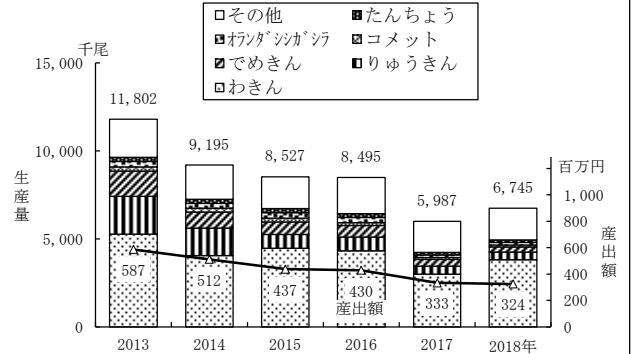


注) しらすうなぎ単価は、前年12月から当年4月までの平均単価
成鰻平均単価は、全国平均単価
(資料 内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ)

B図 あゆ収穫量及び産出額の推移



C図 きんぎょ種類別生産量及び産出額の推移



(資料 内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ)

5 流通加工

水産物流通の動向

●中央卸売市場・地方卸売市場の流通量約182千 t

本県の水産物を取扱う市場は、2019年4月現在で中央卸売市場2、産地地方卸売市場13、消費地地方卸売市場6の計21市場があり、全市場において2019年に取引された水産物は182千 t、1,467億円でした。前年（193千 t、1,457億円）と比べ数量で11,183 tの減少、金額では10億円の増加となっています。産地市場の取扱量は52千 tで、このうち県外へ移出された水産物は6千 t（11.1%）でした。消費地市場の取扱量は11千 tで、このうち県外から移入された水産物は4千 t（38.4%）でした（A図）。

●産地市場の平均単価は12.4%上昇

2018年の産地市場（愛知県内の産地地方卸売市場13市場平均）における生鮮魚の1kg当たりの平均単価は263円となり、前年に比べ80円（43.7%）上昇しました。種類別では、魚類が117円で前年に比べ33円（39.1%）上昇しています。貝類は879円で354円（67.3%）上昇していますが、これは、アサリの減少により単価が高くなったためと思われます。（B図）。

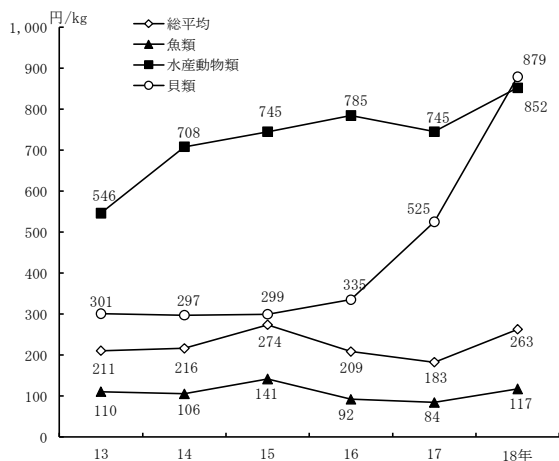
●消費地価格の総平均は3.2%上昇

消費地市場（名古屋市中央卸売市場）における水産物の1kg当たりの総平均価格（取扱金額／取扱数量）は1,016円で前年に比べ32円（3.2%）上昇しました。また、種類別では、生鮮水産物は998円で前年より33円（3.4%）、加工食料品は572円で13円（2.4%）、加工水産物は1,040円で62円（6.3%）上昇し、冷凍水産物は1,318円で14円（1.1%）低下しました（C図）。

A図 2018年の市場流通状況

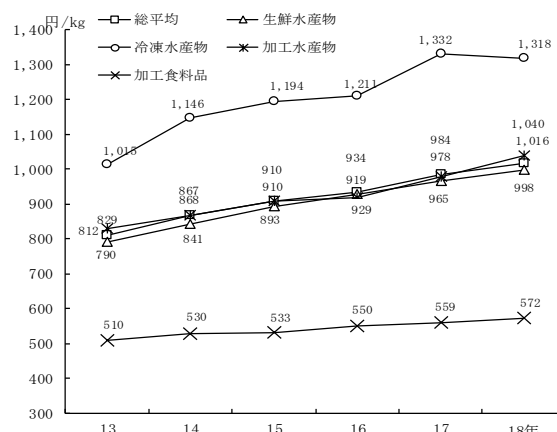
		0		20		40		60		80		100%	
産地市場 13市場 51,717t	出荷先	県内 45,988t (88.9%)						県外 5,729t (11.1%)					
	品目	生鮮魚介類 51,654t (99.9%)						水産加工品 62t (0.1%)					
消費地市場 6市場 10,778t	入荷先	県内 6,638t (61.6%)						県外 4,140t (38.4%)					
	品目	生鮮魚介類 2,800t (26%)		水産冷凍品 5,091t (47.2%)		水産加工品 2,887t (26.8%)							

B図 産地市場における水産物価格の推移



(資料 愛知県地方卸売市場年報)

C図 消費地市場（名古屋市中央卸売市場）における水産物価格の推移



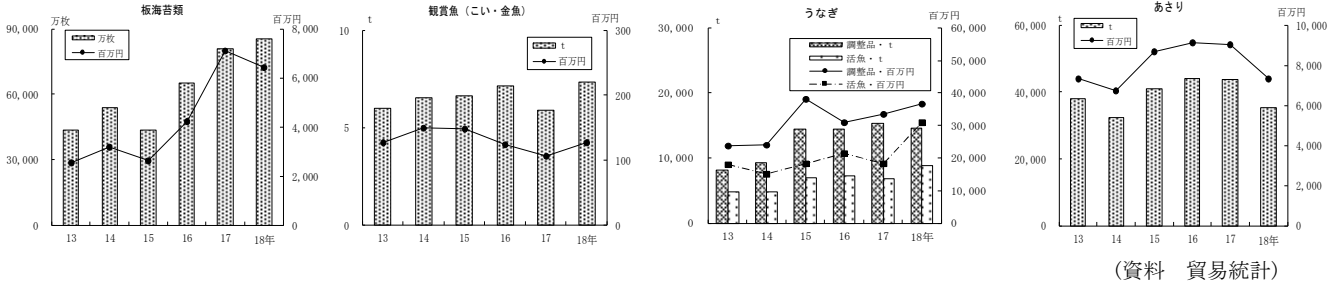
(資料 名古屋市中央卸売市場年報)

＜主要な問題の解説＞

＜水産物の輸入＞

県水産業の主要品目について、近年の輸入量（全国）の推移を見ると、板海苔類、観賞魚（こい、金魚）、うなぎは、増加傾向にあります。一方あさりは、2018年に減少に転じました（A図）。

A図 品目別の輸入量・輸入金額の推移



＜水産物の消費＞

我が国における年間1人当たりの魚介類消費量は、減少傾向が続いており、10年前に比べて数量で33.7%、金額で10.0%減少しています。肉類が数量で18.1%、金額で20.9%増加しているのと対照的であり、消費者の魚離れが顕著になっています（A表）。

水産物は、カルシウムを始めとするミネラルのほか、不飽和脂肪酸であるDHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）等、人の健康に有益な機能成分を有し、魚介類をバランス良く消費することにより、健康増進が期待されることから、引き続き魚食普及に向けた取り組みが重要となっています。

A表 年間1人当たりの魚介類品目別家計消費の推移（全国）（単位：g）

年	2009	2017	2018	2019	増減率 (%)	
					19/09	19/18
鮮魚小計	11,664	8,312	7,874	7,733	▲ 33.7	▲ 1.8
まぐろ	796	712	647	650	▲ 18.4	▲ 0.4
あじ	505	376	313	284	▲ 43.8	▲ 9.1
いわし	247	244	215	185	▲ 24.9	▲ 14.0
かつお	331	269	273	298	▲ 10.0	▲ 8.8
かれい	417	276	239	235	▲ 43.5	▲ 1.6
さけ	1,013	835	841	848	▲ 16.2	▲ 0.9
さば	441	304	324	291	▲ 34.1	▲ 10.3
さんま	792	308	381	258	▲ 67.4	▲ 32.2
たい	257	178	142	138	▲ 46.5	▲ 3.0
ぶり	637	629	543	517	▲ 18.8	▲ 4.7
いか	932	411	387	371	▲ 60.2	▲ 4.1
たこ	272	234	181	181	▲ 33.2	▲ 0.3
えび	679	449	452	452	▲ 33.4	▲ 0.0
かに	265	147	120	122	▲ 54.1	▲ 1.5
貝類小計	1,119	749	699	720	▲ 35.7	▲ 2.9
あさり	347	285	237	244	▲ 29.6	▲ 3.2
しじみ	109	91	96	103	▲ 5.4	▲ 7.7
かき	204	168	157	140	▲ 31.4	▲ 10.6
ほたて	332	111	132	152	▲ 54.1	▲ 15.4
塩干魚小計	3,027	2,549	2,331	2,262	▲ 25.3	▲ 2.9
塩さけ	519	476	429	445	▲ 14.2	▲ 3.8
(参考) 生鮮肉	13,878	16,038	16,459	16,395	▲ 18.1	▲ 0.4
牛肉	2,261	2,208	2,254	2,201	▲ 2.6	▲ 2.3
豚肉	5,993	6,829	6,976	7,131	▲ 19.0	▲ 1.2

B表 年間1人当たりの魚介類品目別家計消費の推移（全国）（単位：円）

年	2009	2017	2018	2019	増減率 (%)	
					19/09	19/18
魚介類支出計	27,626	25,939	24,834	24,869	▲ 10.0	▲ 0.1
鮮魚小計	16,186	14,647	13,926	13,935	▲ 13.9	▲ 0.1
まぐろ	1,851	1,845	1,746	1,754	▲ 5.3	▲ 0.4
あじ	473	438	383	361	▲ 23.7	▲ 5.7
いわし	195	206	184	156	▲ 20.3	▲ 15.2
かつお	507	468	472	486	▲ 4.3	▲ 2.8
かれい	493	370	324	308	▲ 37.5	▲ 4.8
さけ	1,330	1,507	1,579	1,622	▲ 22.0	▲ 2.7
さば	371	316	328	312	▲ 15.9	▲ 4.8
さんま	475	295	372	246	▲ 48.1	▲ 33.8
たい	425	368	298	284	▲ 33.2	▲ 4.6
ぶり	1,024	1,070	969	939	▲ 8.3	▲ 3.1
いか	854	627	594	588	▲ 31.1	▲ 1.0
たこ	450	478	408	423	▲ 5.9	▲ 3.6
えび	1,162	1,012	951	962	▲ 17.2	▲ 1.1
かに	694	583	472	528	▲ 23.8	▲ 11.9
貝類小計	1,499	1,180	1,120	1,130	▲ 24.6	▲ 0.9
あさり	334	298	247	254	▲ 23.9	▲ 2.9
しじみ	146	133	133	134	▲ 8.0	▲ 0.6
かき	341	320	294	261	▲ 23.4	▲ 11.1
ほたて	517	274	316	346	▲ 33.1	▲ 9.4
塩干魚小計	5,092	4,816	4,589	4,500	▲ 11.6	▲ 1.9
塩さけ	684	756	723	735	▲ 7.4	▲ 1.7
魚肉練製品	2,992	2,903	2,763	2,822	▲ 5.7	▲ 2.1
他の魚介加工品	3,357	3,573	3,556	3,612	▲ 7.6	▲ 1.6
(参考) 生鮮肉	19,927	24,464	24,671	24,086	▲ 20.9	▲ 2.4
牛肉	6,485	7,369	7,339	7,131	▲ 10.0	▲ 2.8
豚肉	7,971	10,077	10,266	9,979	▲ 25.2	▲ 2.8

資料：2019年度水産白書（水産庁）より（総務省「家計調査」

（二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く）に基づき水産庁で作成）

6 技術の開発・普及

●試験研究の動き

愛知県では、本県の農林水産業の振興を技術的に支援するため、2016年3月に「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020」を策定しています。この基本計画(水産業部門)では、2020年度を目標年度とし水産試験場が取組む重点研究目標や研究事項等を取りまとめています。

毎年、この目標を達成するため研究課題の設定を行い、試験研究を実施しています。

なお、2019年度の終了課題については、その研究成果を活用し、発展させていくための新規課題を設定し、関係機関・団体等の要請に的確に応えていきます。

●水産業部門の重点研究目標と研究事項

【幅広い分野の先端技術等を活用した技術の開発】

重点研究目標	研究事項
多様な生態系を育む内湾環境の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内湾環境のモニタリングと情報発信及び予察による漁業被害軽減技術の開発 ○ 貝類の毒化がもたらす漁業被害を軽減させる技術の高度化 ○ アサリ稚貝大量発生機構の解明及びアサリ稚貝発生場の造成技術の開発 ○ 貧酸素水塊や硫化水素が生物に及ぼす影響の解明及び被害軽減技術の開発
水産資源の合理的な漁獲による持続的利用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 渥美外海及び内湾における海況モニタリングと情報発信 ○ 多獲性浮魚類の資源量予測の精度向上と資源管理手法の開発 ○ 環境変化や生態を考慮したイカナゴ資源管理手法の高度化 ○ 環境や生態を考慮した底生生物資源の資源管理手法の開発 ○ 資源への影響を低減する小型底びき網の漁具及び曳網方法の開発 ○ 効果的な漁場整備のための魚礁効果調査
環境変化に対応した増養殖技術による安定的な漁業生産の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 藻場の再生技術の開発 ○ アサリの安定生産技術の開発 ○ 環境変化に対応した種苗放流技術の開発 ○ 生態を考慮した栽培漁業技術の開発 ○ 環境変化に対応した藻類養殖技術の開発
内水面水産資源の維持・増大と養殖技術の高度化	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウナギ資源増大のための放流技術の開発 ○ 再生産を考慮したアユ資源の維持・増大技術の開発 ○ ウナギ人工種苗生産技術の開発 ○ 「絹姫サーモン」の生産管理手法の開発 ○ サツキマス新たな養殖技術の開発 ○ 養殖魚の防疫体制の確立と食品としての安全性の確保

【幅広い需要に応える戦略的な品種の開発】

重点研究目標	研究事項
愛知の強みを生かした戦略的な品種開発による幅広い需要への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産地の競争力を高めるノリ及びキンギョの品種開発

〈主要な問題の解説〉

【ハマグリ種苗生産技術の開発に向けて】

○背景

本県では多くの漁業者がアサリやバカガイなどの干潟に棲息する二枚貝類を対象とした採貝漁業に従事していますが、近年、生息環境等の変化に伴い、それらの二枚貝類の資源量が低迷しています。そのような中、新たな漁獲対象種として近年県内各地で資源が回復しつつあるハマグリに注目が集まり、漁業者からハマグリを資源を増やして欲しいとの要望が高まってきました。そこで、水産試験場ではハマグリの子貝（種苗）を人工的に生産し、干潟に放流することで資源量を増加させる事を目的として、ハマグリの子苗生産技術の開発を進めています。

○技術開発の状況

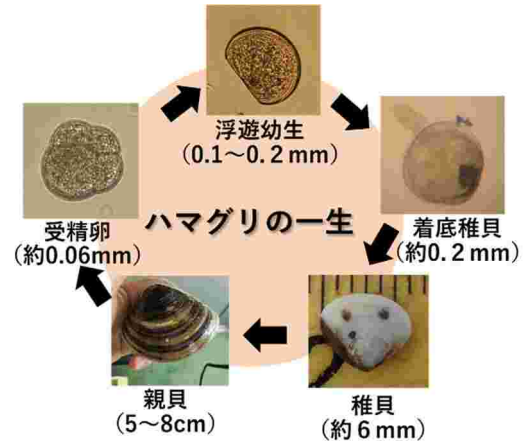
生まれたばかりのハマグリの子ちゃん（浮遊幼生）は、A図のように親とは全く形が異なっており、海水中を浮遊する生活を送っています。浮遊生活を1~2週間送ると親の形に近い着底稚貝（約0.2mm）となり、海底に着底します。その後、砂に潜りながら成長を続けて、生まれてから3年程度が経過すると大きさが5cm程度の親貝となり、卵を産むようになります。

自然界において死亡しやすい卵から稚貝までの時期を人為的な設備や環境下で保護しながら育成することを種苗生産と呼びます。水産試験場では、種苗生産技術のうち、主に浮遊幼生が大きさ1mm程度の稚貝になるまでの生残率を高める技術開発に取り組んでいます。

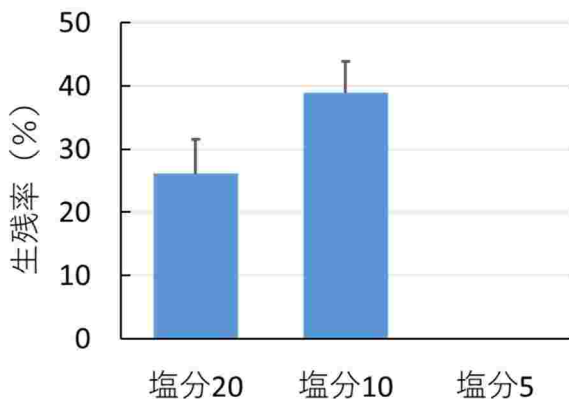
ハマグリは海に生息していると思われがちですが、実は河口のような海水と淡水が混じり合う汽水域にも生息していることから、生活史の段階によって最適な塩分環境が異なっていることが考えられます。そこで、大きさ約0.2mmの着底稚貝が好む塩分条件を検討するために、飼育水の塩分が異なる3つの条件（塩分20、10、5）で約2ヶ月間、着底稚貝を飼育し、生残率を比較しました。その結果、塩分20に比べて塩分10で飼育した方が生残率が高くなりました。塩分5の条件では比較試験開始から10日で全滅しました（B図）。この結果から、着底稚貝の飼育に適した塩分条件が分かってきました。このような試行錯誤をしながら技術開発を進めてきた結果、2019年には約1.3mmのハマグリ稚貝約14.5万個を生産することができました（C図）。今後も種苗生産技術の開発を進めるとともに、たくさんの稚貝が生き残るための種苗放流技術についても検討をしていきます。

なお、本研究の一部は水産庁委託事業「さけ・ます等栽培対象資源対策事業（二枚貝）」により実施しました。

A図 ハマグリの子生活史



B図 飼育塩分と生残率の関係



C図 生産したハマグリ稚貝



7 時の話題

新型コロナウイルス感染症の水産業への影響及びその対策について

1 水産業への影響について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年春以降、外出自粛や飲食店での会食・宴会等の自粛が相次ぎ、都市部や観光地での水産物の消費減、需要減が見られました。それに伴い本県においても、3月後半頃から、高級魚を始めとする水産物の価格下落が起きました。

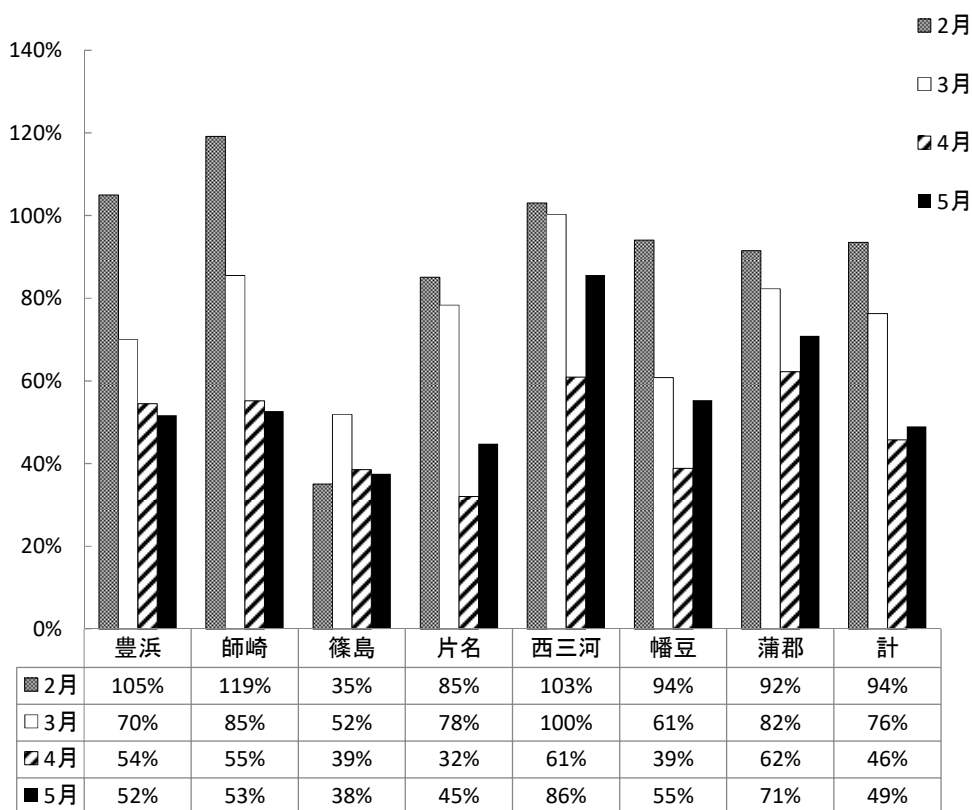
多くの漁業者は休漁日を増やす操業調整を実施し、魚価の下落防止を図りましたが、4月のまだい、さわらなどの高級魚の価格は、前年から最大4割程度まで下落し（A表）、4～5月の県内主要市場の水揚げ金額は、平年の5割程度となりました（A図）。

A表 魚種別の単価（4月・豊浜内湾小型底びき網漁業）

魚種	まだい	ひらめ	さわら
2020年	460 円/kg	985 円/kg	462 円/kg
2019年	1,129 円/kg	1,460 円/kg	1,052 円/kg
前年比	41%	67%	44%

（資料 県水産課調べ）

A図 県内主要市場の水揚げ金額の平年比



（資料 県水産課調べ）

注）2020年の水揚げ金額を平年（過去5年平均）と比較

2 県の対策について

県では、2020年度補正予算により以下の事業を実施し、水産物の需要低迷で深刻な影響を受けている漁業者の支援や、流通状況の改善などに取り組みました。

(6月補正予算)

- ① 漁場の機能を維持するため、休漁日を活用して漁場清掃活動を行う漁業者の支援を行う。
(1漁業者(経営体)当たり20万円)。
- ② 漁業者等の資金繰りに支障が生じないように、運転資金の融資に対して利子補給し、無利子化を行う。
- ③ 新たな流通ルートを開拓するため、県が委託した専門業者を派遣し、県産水産物の通信販売を推進する生産者や販売業者の通販サイトの開設等を支援する。

(9月補正予算)

- ④ 需要が減退している水産物の販売促進を図るため、在庫が滞留している水産物(うなぎ、にじます、しらす)を学校給食食材として提供する。
- ⑤ 活魚のストックを増加し、魚価の安定化に寄与するため、漁協の荷捌き施設の海水供給システムの整備の支援を行う。
- ⑥ 河川漁協の経営支援を図るため、漁協が実施する栽培漁業センター産あゆ種苗放流への支援を行う。
- ⑦ 金魚の需要拡大を図るため、弥富金魚漁協が実施するPR活動や金魚配布等、金魚の需要喚起に向けた取組への支援を弥富市と共同で行う。

B表 新型コロナウイルス対策関連の2020年度補正予算について

6月補正予算	9月補正予算
<p>①休漁日を活用した漁場清掃 事業名：漁場清掃活動支援事業費補助金 予算額：402,522千円(定額補助) 事業内容：休漁日を活用した漁場清掃活動への支援</p> <p>②漁業者の資金繰り等への支援 (4月補正含む) 事業名：漁業金融対策費 予算額：12,118千円 (外に債務負担行為82,329千円) 事業内容：運転資金等の融資に対して利子補給し、無利子化</p> <p>③ECサイト構築支援 事業名：あいちの農林水産物消費回復緊急対策事業(一部) 予算額：2,200千円 事業内容：生産者や販売業者のEC(通販)サイト開設等への支援</p>	<p>④学校給食への県産水産物の提供 事業名：県産水産物学校給食提供推進事業費補助金 予算額：1,758,204千円 事業内容：在庫が滞留している水産物(うなぎ、にじます、しらす)を学校給食へ提供</p> <p>⑤荷捌き施設の海水供給システム整備 事業名：水産業競争力強化施設緊急整備事業費補助金 予算額：43,126千円 事業内容：荷捌き施設の海水供給システムの整備を支援</p> <p>⑥内水面漁協の経営支援のためのあゆ種苗放流 事業名：あゆ種苗放流事業費補助金 予算額：26,400千円 事業内容：河川漁協が行うあゆ種苗放流への支援</p> <p>⑦金魚の需要喚起に向けた取組への支援 事業名：金魚養殖業支援事業費補助金 予算額：3,750千円 事業内容：漁協が実施する需要拡大対策への支援</p>

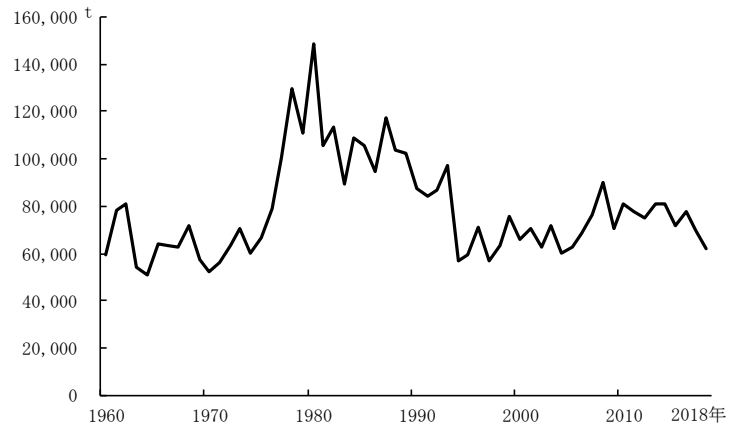
愛知県の漁獲量の変動

1 愛知県の漁業について

本県の海面漁業漁獲量は、概ね6万トンから8万トンの間を推移しています。1970年後半から1990年前半にかけて10万トン前後まで増えた時期がありましたが、これはまいわしの漁獲量が全国的に多かったためです（A図）。

本県の海面漁業漁獲量の全国順位は中位ではありますが、船びき網、採貝・採藻、小型底びき網漁業の漁獲量は全国上位であり、また魚種別でも、あさり類やくるまえび、しらすなどが全国上位となっており、多様な漁業が営まれていることが特徴です（p3参照）。

A図 本県の海面漁業漁獲量の推移



2 魚種別の漁獲量の変動について

漁獲量は水産資源の増減により大きく変動します。今回は1960年以降の魚種別漁獲量の長期的変動とその特徴についてまとめました。

(1) 長期間で変動が大きい魚種（まいわし、かたくちいわし）

まいわしとかたくちいわしは大回遊する多獲性魚種です。地球規模での気候変動に伴う「魚種交替」現象が知られており、まいわしは1970～80年代に漁獲量が増加し、90～2000年代は低水準でしたが、近年増加しています。一方で、かたくちいわしはまいわしの増減とは逆の変動が見られます（B図）。

(2) 増加した魚種（まだい、さわら、ぶり類）

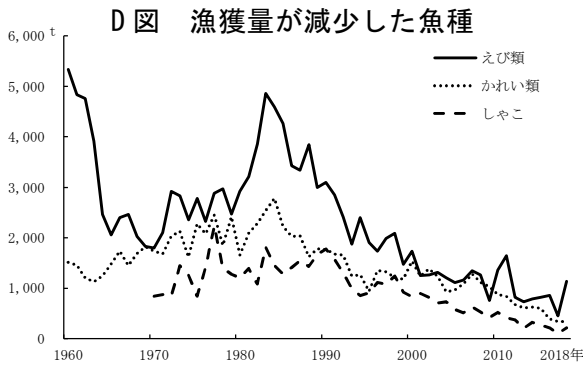
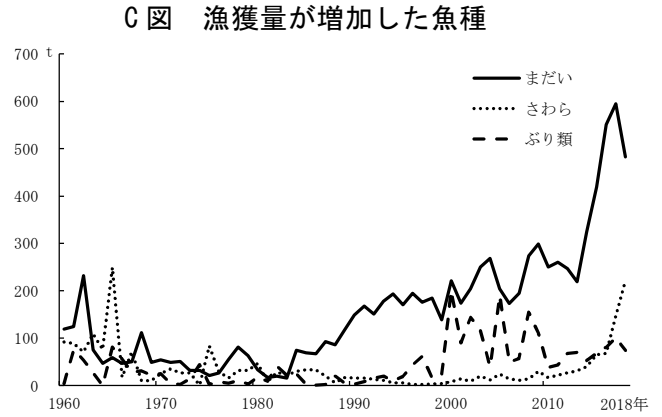
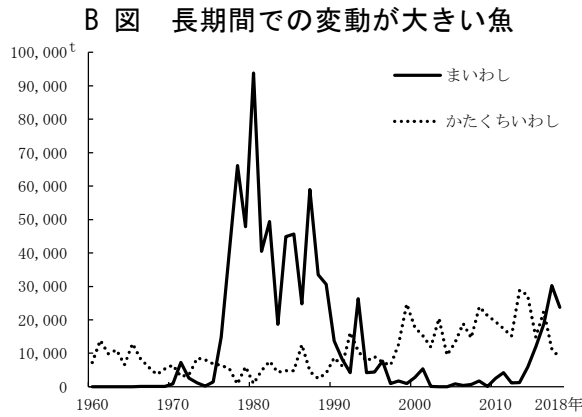
まだいは1980年代以降、ぶり類は2000年代以降、さわらは近年全国的に漁獲量が大きく増加しています。これらの魚種は広域に回遊する外洋性の大型魚であり、海の生態系の中では高次の消費者であることが特徴です（C図）。

(3) 減少した魚種（えび類、かれい類、しゃこ）

えび類、かれい類、しゃこは1970～80年代に漁獲量が増加しており、90年代以降は減少傾向です。これらの種は内湾性の底生生物であり低次の消費者です。また近年漁獲量が大幅に減少しているあさりやいかなごも内湾性や沿岸域に生息する水産生物です（D図）。

(4) 2019年に豊漁であった魚種（たこ類、がざみ、しらす）

2019年の底びき網漁業におけるたこ類、がざみの漁獲量は、前年、平年を大きく上回る豊漁となりました。また、船びき網漁業におけるしらすの漁獲量も前年、平年を上回りました。このように、年によって漁獲量が大きく変動する魚種が存在します（A表）。



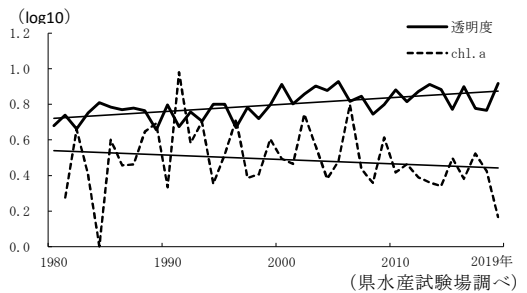
A 表 2019年の豊漁魚種漁獲量

	漁獲量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)
たこ類	207	943	242
がざみ	74	885	278
しらす	7,759	136	114

(資料 豊漁漁港底びき網漁業及び主要7港(篠島、日間賀師崎、豊浜、片名、大浜、赤羽根)船びき網漁業漁獲量)

(資料 海面漁業生産統計調査 A~D 図)

E 図 伊勢湾口の透明度、クロロフィル濃度の変動

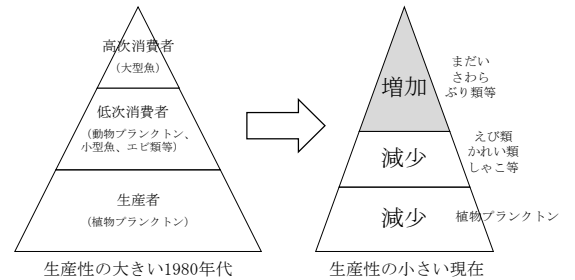


3 環境・生態系の変化と漁獲量の変動

愛知県沿岸域では海水の透明度の上昇や、クロロフィル濃度の低下が観測されており (E 図)、海域の生産性の低下が考えられます。伊勢湾・三河湾は外洋との海水の出入りが活発に行われていることから、外洋の環境変動が内湾の生産性に大きく影響している可能性があります。一方で、陸域からの流入負荷量が1980年代から現在まで減少傾向にあることも、海域の生産性低下の一因と考えられます (p11 参照)。

海域の生産性低下は、生態系の底辺に位置する植物プランクトンの減少を意味し、これを餌とするえび類やかかれい類などの内湾性の底生生物 (低次消費者) が減少し、まだいやさわら類などの回遊性の大型魚 (高次消費者) が増加している傾向が見られることから、現在の愛知県沿岸域では、海域の生産性が大きい1980年代と比べ、生産者や低次消費者が減少し、高次消費者が増加した生態系に変化していることが考えられます (F 図)。

F 図 環境変化に伴う生態系の変化



4 今後の漁業のあり方について

水産資源は、地球規模での気候変動や短期的な環境変化、それらに伴う生態系の変化など様々な要因によって変動します。近年はあさりやいかなごなど、これまで愛知県の漁業の中軸を担ってきた魚種の減少が目立っています。増加している資源や短期的に豊漁となる資源を効果的に活用し、減少している資源を保護するといった、水産資源の変動に合わせた操業を行うことに加え、複数の漁業種類や養殖業などとの兼業など、資源の変動に左右されない漁業経営を実現し、漁業者の収入を安定させることが必要です。

砕石を利用した新たなあさり漁場の造成について

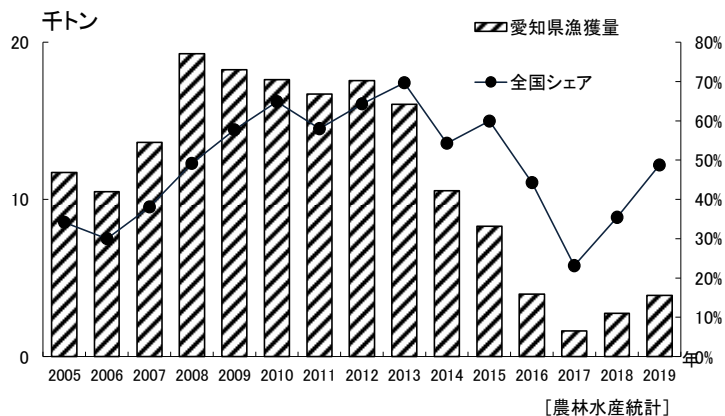
本県は全国有数のあさりの産地で、過去 15 年間のピーク時には年間約 2 万トンの漁獲量がありましたが、2014 年頃から漁獲量が減少傾向に転じ、近年の漁獲量はピーク時の 1～2 割程度まで減少しています（A 図）。

県では、あさり漁場であるとともに多くの生物の産卵・生育の場となる干潟・浅場造成事業を継続して実施しています。また県内の各浜では、あさり資源回復を目的とした種苗の移植放流や被覆網の設置、漁場の耕耘などの取組が行われています。

近年の試験研究から、水深の浅い漁場に生息するあさは秋冬の強い波浪等に伴う地盤の移動により度々掘り出されることで衰弱することが確認されており、波浪の影響を緩和させる手法として、砂利や砕石等の粒形の大きな基質の投入による底質改良が有効であることがわかりました。

そこで県では、減少傾向にあるあさり資源の新たな回復対策として、2019 年度から、水深の浅いあさり漁場に採石を投入して地盤改良を行う「貝類増殖場造成事業」を開始しました。

A 図 愛知県のあさり漁獲量と全国シェア



1 事業の目的

水深の浅いあさり漁場へ砕石を投入・設置して増殖場とすることで、地盤が安定し、波浪の影響によるあさりの衰弱を緩和させます。

増殖場は母貝場としての機能を有することから、新たなあさり稚貝の供給元としてもあさり資源回復に寄与すると考えています。

B 図 貝類増殖場のイメージ



2 事業の内容

2019 年度はあさりの主力漁場である西三河 3 地区に計 3.6ha の貝類増殖場を造成しました。今後は、漁場利用に合わせたより生残を高めるための増殖場造成方法について検討していきます。

○2019 年度の貝類増殖場造成事業実績

事業量：3.6ha

整備箇所：衣崎地区、宮崎地区、西幡豆地区

利用砕石：割ぐり石（粒径 150-200mm）

C図 貝類増殖場整備箇所



D図 碎石に守られたあさり



E図 手掘り漁場としての活用

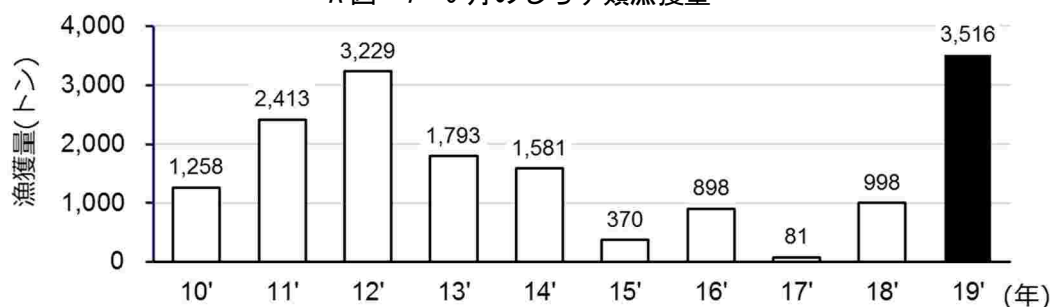


2019年夏しらすの好漁

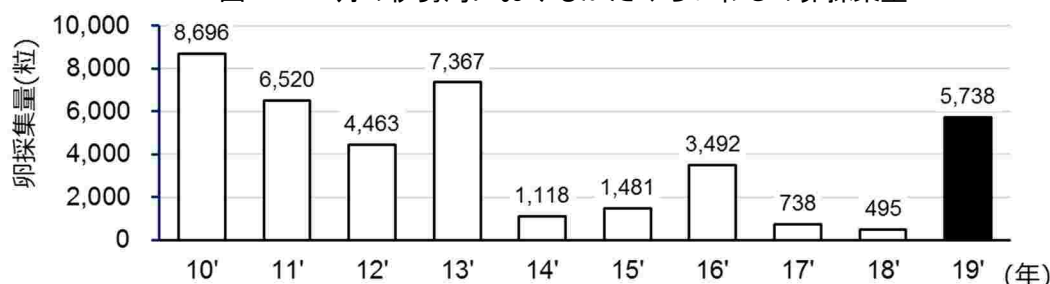
1 夏しらすの好漁

2019年の夏(7~9月)しらす漁は3,516トンで過去と比べて高水準の漁獲量でした(A図)。卵採集および海洋調査の結果から好漁の原因は、伊勢湾における卵の発生が多かったことに加えて(B図)、外海で発生した「沿岸湧昇」により餌となる植物プランクトンが増え、稚魚の生き残りを高めたためと考えられます。

A図 7~9月のしらす類漁獲量



B図 6~8月の伊勢湾におけるかたくちいわしの卵採集量



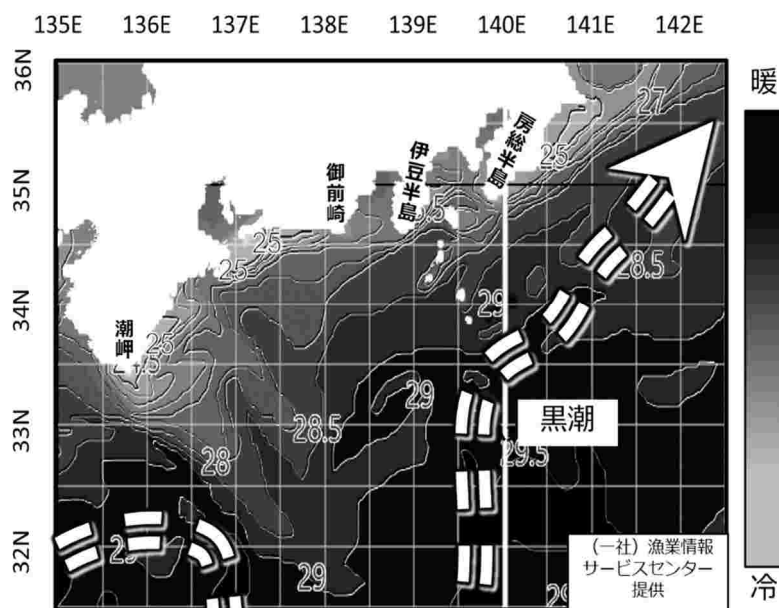
2 沿岸湧昇の発生

2019年9月2日の水温図をみると、御前崎から潮岬にかけての沿岸に24~25℃の冷たい水が分布しているのがわかります(C図)。

9月2、3日に行った漁業調査船「海幸丸」による海洋観測(D図、E図)の観測をもとに、伊勢湾湾口から渥美外海における水温とクロロフィルa濃度の断面図(F図、G図)を作成しました。

F図をみると、水温20℃以下の冷たい水が観測点St.2からSt.3にかけての沿岸で、海底に沿って盛り上がっています。また、G図をみると、植物プランクトンの発生量を示すクロロフィルa濃度が湾口から沿岸にかけて(St.1からSt.3)の水深0~20mで高くなっています。

C図 2019年9月2日の水温分布図



このような現象は沿岸湧昇と言われ、6月下旬以降の調査においても観測されていました。

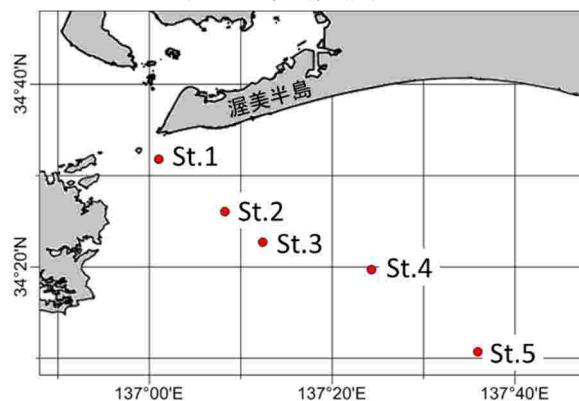
これらの結果から、6月下旬から9月上旬において、沿岸湧昇が発生することにより、渥美半島沿岸～湾口部に外海の冷たく栄養塩を豊富に含む下層水が湧き上がり、太陽の光が届く上層に栄養塩が供給されるため、植物プランクトンの増殖が盛んになったと考えられました。

今回の現象は、2018年9月竣工の漁業調査船「海幸丸」に搭載された最新の観測機器によってとらえることができました。今後も調査を継続し、しらす等の漁獲量の予測精度の向上を図っていきます。

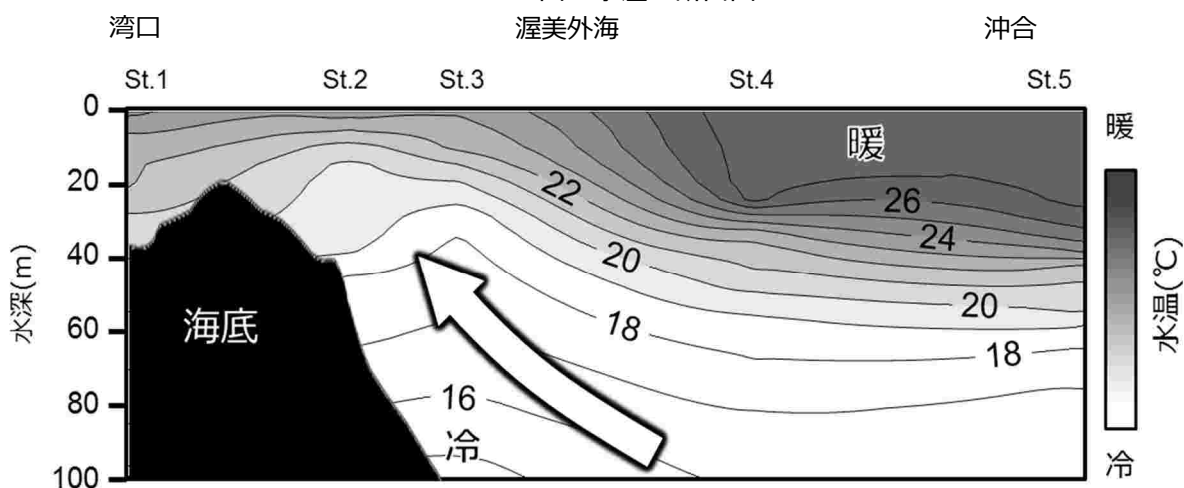
図D 漁業調査船「海幸丸」



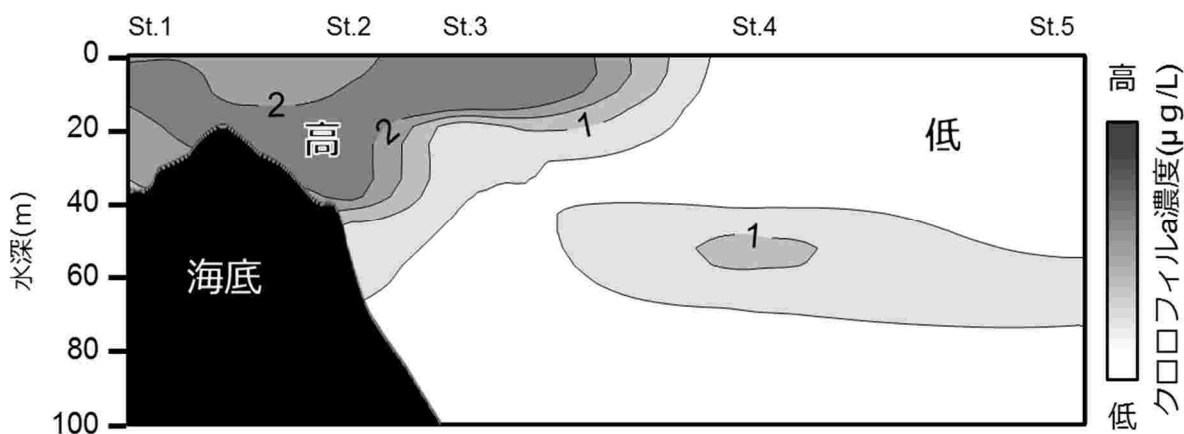
図E 観測定点図



F図 水温の断面図



G図 クロロフィル a 濃度の断面図



[資料編]

目次

I 愛知の水産業

1 経済活動別県内純生産	34
2 経済活動別就業者数	34
3 愛知県の漁業・養殖業全国順位	35
4 主要品目別全国順位	36

II 漁業経営

5 階層別地域別海面漁業・養殖業経営体数	37
6 主とする漁業種類別経営体数	38
7 営んだ漁業種類別経営体数	38
8 市町別海面漁業・養殖業経営体数	39
9 内水面養殖業経営体数	39
10 男女別男子年齢別漁業就業者数	39
11 新規漁業就業者数	39
12 高校卒業者の卒後状況	40
13 漁業権免許件数一覧表	40
14 遊漁船業者登録件数	40
15 漁家経済	40
16 漁業近代化資金利子補給承認状況	41
17 漁業振興資金融資状況	41
18 沿岸漁業改善資金融資状況	41
19 地域別海水動力漁船隻数	42
20 海水動力漁船機関種類別隻数、トン数及び馬力数	43
21 農林水産統計による漁船隻数	43

III 漁場と資源

22 海域におけるCODの経年変化	44
23 河川・湖沼における主要環境基準地点のBOD(COD)の経年変化	45
24 海域における全窒素・全燐の年平均値の経年変化	45
25 赤潮の経年変化(月別、水域別)、苦潮発生状況とその漁業被害	46
26 漁港整備計画別事業費実績	47
27 沿岸漁業構造改善事業等実績	47
28 水産振興対策事業実績	48
29 漁場整備事業実績	48

IV 漁業生産

30 漁業総生産	49
31 主要市町別海面漁業・養殖業生産量	49
32 海面漁業種類別地域別漁獲量	50
33 海面漁業魚種別漁獲量	51
34 海面漁業魚種別産出額	52
35 海面漁業種類別魚種別漁獲量	53
36 地域別のり生産枚数（暦年）	54
37 地区別のり生産枚数（養殖年）	55
38 内水面漁業魚種別漁獲量	56
39 内水面漁業魚種別産出額	56
40 内水面養殖業魚種別収獲量	56
41 内水面養殖業魚種別産出額	56
42 観賞魚養殖状況	57
43 しらすうなぎ池入数量	57

V 流通加工

44 中央卸売市場における水産物の取扱数量・金額、平均価格	58
45 水産加工品生産量	58

(付属資料)

46 沿海漁業協同組合及び内水面漁業協同組合の位置図	59
47 2019年度の主な水産年譜	60
48 愛知県の水産業に関する地勢	60

*使用上の注意

- ◎表によっては、四捨五入のため計と内訳が一致しない場合がある。
- ◎内水面養殖業の総生産量には、観賞魚の生産量を含まない。
- ◎内水面養殖業の総産出額には、観賞魚の産出額を含む。

I 愛知の水産業

1 経済活動別県内純生産

(単位：百万円)

項目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1 産 業	24,127,860	24,921,616	24,995,827	25,737,780	25,491,702	26,019,894
(1) 第 1 次 産 業	133,901	116,164	101,056	118,225	131,799	142,735
農 業	118,160	103,235	86,509	101,846	114,081	124,508
林 業	1,537	1,164	1,036	1,006	1,135	1,100
水 産 業	14,205	11,765	13,511	15,372	16,582	17,127
(2) 第 2 次 産 業	9,981,502	10,508,880	10,774,884	11,335,340	10,982,609	11,220,561
鉱 業	1,761	2,397	2,597	2,187	1,551	1,828
製 造 業	8,743,913	9,161,713	9,365,098	9,928,651	9,545,357	9,768,755
建 設 業	1,235,828	1,344,770	1,407,189	1,404,502	1,435,701	1,449,978
(3) 第 3 次 産 業	14,012,457	14,296,572	14,119,887	14,284,215	14,377,294	14,656,598
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	211,739	185,454	260,954	373,918	278,525	253,887
卸 売 ・ 小 売 業	3,890,583	4,062,527	3,805,057	3,795,484	3,837,508	3,956,521
運 輸 ・ 郵 便 業	1,200,783	1,186,281	1,205,065	1,195,223	1,152,219	1,232,418
情 報 通 信 業	916,638	908,766	888,954	891,307	900,354	890,150
金 融 ・ 保 険 業	1,055,765	1,060,573	1,047,693	1,060,207	994,802	1,005,485
不 動 産 業	2,054,655	2,118,517	2,127,587	2,150,271	2,203,148	2,236,227
サ ー ビ ス 業	4,682,294	4,774,454	4,784,577	4,817,805	5,010,738	5,081,910
2 一 般 政 府	1,460,888	1,436,620	1,471,856	1,476,575	1,479,748	1,499,514
3 対 家 計 民 間 非 営 利 団 体	486,652	486,918	494,032	533,813	551,377	582,230
合 計	26,075,400	26,845,154	26,961,715	27,748,168	27,522,827	28,101,638

資料：あいちの県民経済計算（県統計課）

2 経済活動別就業者数（従業地ベース）

(単位：人)

項目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1 産 業	3,834,901	3,834,724	3,833,702	3,825,598	3,824,739	3,830,065
(1) 第 1 次 産 業	79,143	77,307	75,555	74,021	72,390	68,989
農 業	74,139	72,432	70,706	69,274	67,753	64,533
林 業	822	817	815	812	811	805
水 産 業	4,182	4,058	4,034	3,935	3,826	3,651
(2) 第 2 次 産 業	1,187,703	1,193,805	1,185,627	1,221,415	1,223,771	1,238,063
鉱 業	888	778	722	642	617	555
製 造 業	901,089	917,366	919,931	946,294	945,592	959,241
建 設 業	285,726	275,661	264,974	274,479	277,562	278,267
(3) 第 3 次 産 業	2,568,055	2,563,612	2,572,520	2,530,162	2,528,578	2,523,013
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	24,096	24,275	23,453	24,129	25,400	25,789
卸 売 ・ 小 売 業	773,009	764,122	755,609	747,438	739,579	730,054
運 輸 ・ 郵 便 業	236,625	236,538	231,609	237,830	245,111	254,012
情 報 通 信 業	78,166	77,151	76,151	75,171	74,211	73,434
金 融 ・ 保 険 業	91,233	89,721	88,256	89,063	88,759	88,965
不 動 産 業	62,055	61,789	61,515	61,236	60,957	60,733
サ ー ビ ス 業	1,302,871	1,310,016	1,335,927	1,295,295	1,294,561	1,290,026
2 一 般 政 府	199,571	200,988	202,532	204,157	205,921	207,797
3 対 家 計 民 間 非 営 利 団 体	130,900	137,118	143,917	151,345	159,451	168,292
合 計	4,165,372	4,172,830	4,180,151	4,181,100	4,190,111	4,206,154

資料：あいちの県民経済計算（県統計課）

注）「あいちの県民経済計算」の計数は、最近の年度を中心に推計方法の改善等により改定を行うことがあります。

3 愛知県の漁業・養殖業全国順位（2018年）

(1) 生産量

（単位：t）

	海面漁業	海面養殖業	内水面漁業	内水面養殖業
全 国	3,359,530	1,004,871	26,957	29,849
1 位	北海道 876,625	北海道 118,509	北海道 10,101	鹿児島 6,468
2 位	長 崎 290,591	広 島 107,678	島 根 4,250	愛 知 4,858
3 位	茨 城 259,031	青 森 84,968	青 森 4,147	宮 崎 3,133
4 位	静 岡 195,419	兵 庫 81,231	茨 城 2,520	静 岡 2,761
5 位	宮 城 184,738	宮 城 81,173	岩 手 945	長 野 1,600
	17位 愛 知 61,727	21位 愛 知 11,213	24位 愛 知 65 (148)	

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）内水面漁業における括弧内の数値は県調べ。

海面漁業以外の愛知県順位は秘匿県を除いた参考値である。

(2) 産出額

（単位：億円）

	海面計	海面漁業	海面養殖業
全 国	14,239	9,379	4,861
1 位	北海道 2,750	北海道 2,382	愛 媛 684
2 位	長 崎 996	長 崎 636	鹿児島 535
3 位	愛 媛 887	宮 城 563	北海道 368
4 位	宮 城 789	静 岡 529	長 崎 360
5 位	鹿児島 763	青 森 412	熊 本 317
6 位	静 岡 551	岩 手 287	佐 賀 258
7 位	青 森 549	兵 庫 278	高 知 251
8 位	兵 庫 523	高 知 268	大 分 249
9 位	高 知 520	三 重 259	兵 庫 244
10 位	三 重 446	宮 崎 242	宮 城 226
	24位 愛 知 209	17位 愛 知 173	22位 愛 知 36

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）内水面産出額の都道府県別統計は公表されていない。

海面漁業・養殖業の愛知県順位は秘匿県を除いた参考値である。

4 主要品目別全国順位

品目	年	順位					全国
		1位	2位	3位	4位	5位	
くるまえばい(t)	2013	愛媛 133	愛知 62	大分 50	福岡 41	熊本 35	440
	2014	愛媛 95	愛知 59	大分 50	福岡 45	香川 27	377
	2015	愛媛 82	愛知 72	大分 35	香川 30	福岡 29	334
	2016	愛媛 80	愛知 79	大分 39	福岡 35	香川 29	354
	2017	愛媛 69	愛知 64	福岡 46	大分 37	熊本 23	322
	2018	愛知 86	愛媛 68	福岡 47	大分 37	香川 23	357
あなご類(t)	2013	長崎 775	島根 626	宮城 537	山口 408	(7位)愛知 313	4,503
	2014	長崎 624	島根 459	愛知 456	宮城 449	愛媛 319	4,011
	2015	長崎 639	島根 494	宮城 418	愛知 351	茨城 272	3,854
	2016	長崎 577	島根 466	宮城 363	愛知 319	愛媛 280	3,606
	2017	島根 508	長崎 496	宮城 439	愛知 269	茨城 216	3,422
	2018	島根 618	宮城 556	長崎 412	愛知 254	福岡 196	3,490
がざみ類(t)	2013	愛知 492	福岡 304	愛媛 262	長崎 246	岡山 189	2,783
	2014	愛知 341	愛媛 286	福岡 277	長崎 177	宮城 173	2,328
	2015	宮城 518	愛知 316	福岡 239	愛媛 204	長崎 90	2,120
	2016	宮城 662	愛知 248	福岡 237	愛媛 152	大分 90	2,160
	2017	宮城 714	福岡 247	愛知 219	愛媛 121	大分 108	2,232
	2018	宮城 747	福岡 219	愛知 185	愛媛 128	北海道 115	2,213
あさり類(t)	2012	愛知 17,562	三重 3,957	静岡 2,479	熊本 1,167	北海道 907	27,300
	2013	愛知 16,063	三重 1,976	千葉 1,425	静岡 1,404	北海道 977	23,049
	2014	愛知 10,563	静岡 4,127	千葉 2,248	北海道 1,005	三重 446	19,449
	2015	愛知 8,282	静岡 3,437	北海道 1,009	千葉 209	熊本 207	13,810
	2016	愛知 3,973	静岡 1,901	北海道 1,199	福岡 548	千葉 412	8,967
	2017	愛知 1,635	福岡 1,513	北海道 1,312	静岡 968	熊本 730	7,072
板のり(千枚)	2013	佐賀 2,092,277	福岡 1,394,960	兵庫 1,146,979	熊本 1,062,324	(6位)愛知 394,118	8,132,540
	2014	佐賀 1,669,601	兵庫 1,372,422	福岡 1,169,648	熊本 856,097	愛知 382,303	7,105,725
	2015	佐賀 1,772,713	兵庫 1,683,837	福岡 1,222,264	熊本 786,891	(7位)愛知 323,436	7,658,019
	2016	佐賀 1,987,892	兵庫 1,517,402	福岡 1,334,265	熊本 1,013,142	(7位)愛知 340,099	7,792,052
	2017	佐賀 1,784,825	兵庫 1,484,568	福岡 1,423,840	熊本 1,123,015	(7位)愛知 345,317	7,845,680
	2018	佐賀 1,817,031	兵庫 1,705,627	福岡 1,133,857	熊本 857,284	(7位)愛知 278,721	7,285,399
うなぎ養殖(t)	2013	鹿児島 5,747	愛知 3,140	宮崎 2,840	静岡 1,396	三重 263	14,204
	2014	鹿児島 6,838	愛知 4,918	宮崎 3,167	静岡 1,490	三重 292	17,627
	2015	鹿児島 8,157	愛知 5,116	宮崎 3,348	静岡 1,834	徳島 393	20,119
	2016	鹿児島 7,972	愛知 4,742	宮崎 3,255	静岡 1,654	三重 306	18,907
	2017	鹿児島 8,562	愛知 5,780	宮崎 3,262	静岡 1,705	高知 603	20,979
	2018	鹿児島 6,381	愛知 3,459	宮崎 2,539	静岡 1,457	徳島 332	15,111
あゆ養殖(t)	2013	愛知 1,063	和歌山 966	岐阜 911	滋賀 488	宮崎 391	5,279
	2014	愛知 1,114	和歌山 992	岐阜 984	滋賀 466	栃木 325	5,163
	2015	愛知 1,160	和歌山 984	岐阜 897	滋賀 460	栃木 333	5,084
	2016	愛知 1,182	和歌山 1,039	岐阜 882	滋賀 504	栃木 330	5,183
	2017	愛知 1,156	和歌山 1,034	岐阜 967	滋賀 491	栃木 325	5,053
	2018	愛知 1,220	和歌山 788	岐阜 650	滋賀 341	栃木 327	4,310

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

Ⅱ 漁業経営

5 階層別地域別海面漁業・養殖業経営体数

年	階層 地域	総数	漁船 非使用	無動力船	船外機船	1 t 未満	1 ~ 3 t	3 ~ 5 t	5 ~ 10 t	10 t 以上	小型定置 地びき網	浅海養殖
2003	県計	2790	75	1	—	768	312	508	262	296	78	490
	海部	3	x	—	—	x	x	x	x	x	x	3
	知多	1349	2	—	—	152	245	331	123	182	27	287
	西三河	847	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	591	26	1	—	325	17	63	47	33	37	42
2004	県計	2741	71	—	—	762	319	482	250	309	73	475
	海部	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	知多	1325	1	—	—	163	247	303	120	185	23	283
	西三河	797	45	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	616	25	—	—	x	x	x	x	x	x	x
2005	県計	2700	61	—	—	780	300	486	239	304	75	455
	海部	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	知多	1302	—	—	—	161	231	309	120	185	23	273
	西三河	764	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	631	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
2006	県計	2659	63	—	—	775	292	477	230	301	74	447
	海部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	知多	1281	—	—	—	153	227	301	119	185	23	273
	西三河	762	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	616	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
2008	県計	2530	96	2	776	29	263	438	245	270	47	364
	知多	1199	1	—	152	16	198	272	125	175	20	240
	西三河	736	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	595	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	2013	県計	2348	58	1	780	71	263	394	222	248	44
知多	1104	1	—	189	11	158	234	117	163	20	211	
西三河	695	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
東三河	549	23	1	245	58	83	27	44	27	15	26	
2018	県計	1924	61	—	683	36	164	323	172	226	43	216
	知多	993	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	西三河	479	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	452	37	—	259	24	27	15	25	23	12	30

資料：2003～06年は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」
(農林水産省統計部)

注) 2007年以降は漁業センサス年のみ公表(県計のみ)となった。

6 主とする漁業種類別経営体数

区分 \ 年	2004	2005	2006	2008	2013	2018
県 計	2,741	2,700	2,659	2,530	2,348	1,924
沖合底びき網	4	4	4	4	4	4
小型底びき網	581	584	563	539	492	388
まき網	3	3	3	4	-	-
刺網	261	264	251	226	183	193
釣	269	256	260	204	184	171
はえ縄	26	26	26	23	7	7
地びき網	15	19	18
船びき網	116	114	115	106	102	110
小型定置網	58	56	56	47	44	43
その他の網漁業	21	4	5
採貝	657	657	660
採藻	17	25	25
採貝・採藻	747	796	536
潜水器漁業	129	125	124	113	124	125
その他の漁業	130	112	107	132	141	126
のり養殖業	449	421	413	341	233	184
わかめ養殖業	16	26	26	19	31	31
その他養殖業	10	8	8	4	3	1

資料：2006年以前は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）
注）2007年以降は漁業センサス年のみの公表となった。

7 営んだ漁業種類別経営体数

区分 \ 年	2004	2005	2006	2008	2013	2018
県 計	4,427	4,311	4,215	3,598	3,157	2,593
沖合底びき網	4	4	4	4	4	4
小型底びき網	718	715	683	676	587	451
まき網	4	4	3	4	3	2
刺網	506	477	461	370	289	272
釣	558	540	534	348	272	268
はえ縄	96	94	94	84	63	62
地びき網	17	19	20
船びき網	139	131	130	139	118	129
小型定置網	107	103	100	83	63	61
その他の網漁業	28	25	9
採貝	1,055	1,009	1,026
採藻	90	92	89
採貝・採藻	1,027	981	687
潜水器	142	159	157	138	139	142
その他の漁業	421	402	381	272	267	230
のり養殖業	468	454	426	358	244	191
わかめ養殖業	92	100	99	58	95	82
その他養殖業	10	8	8	9	7	3

資料：2006年以前は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）
注）2007年以降は漁業センサス年のみの公表となった。

8 市町別海面漁業・養殖業経営体数

年 市町	2004	2005	2006	2008	2013	2018
県計	2,741	2,700	2,659	2,530	2,348	1,924
弥富市	3	3	-	-	-	-
常滑市	211	210	195	189	171	148
半田市	-	-	-	-	-	1
武豊町	-	-	-	-	-	1
美浜町	131	129	129	117	105	86
南知多町	983	963	957	893	828	757
碧南市	54	53	53	47	60	25
西尾市	60	51	49	52	634	454
一色町	496	477	480	459		
吉良町	87	86	84	79		
幡豆町	99	96	95	98		
刈谷市	1	1	1	1	1	-
蒲郡市	99	94	82	81	66	68
豊橋市	9	13	14	15	-	-
田原市	63	524	520	499	483	384
赤羽根町						
渥美町						
渥美町	445					

資料：2006年以前は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

注) 2003年に田原町と赤羽根町が合併したため、統計上の区分が田原市となった。
 2005年に田原市と渥美町が合併したため、統計上の区分が田原市となった。
 2011年に西尾市、一色町、吉良町、幡豆町が合併したため、統計上の区分が西尾市となった。
 2007年以降は、漁業センサス年だけの公表となった。

9 内水面養殖業経営体数

年 区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018
ます類	14	11	12	12	10	10
あゆ	16	16	16	16	16	16
こい	16	16	14	14	14	13
うなぎ	137	139	136	135	134	133
きんぎょ	112	103	95	91	87	81
その他						4
計	295	285	273	268	261	257

注) 「その他」は2018年から掲載している。

資料：県水産課調べ

10 男女別男子年齢別漁業就業者数

年	区分	合計	男子				女子	
			計	15～24才	25～39才	40～59才		60才以上
2003		5,304	4,091	178	679	1,467	1,767	1,213
2008		4,964	4,015	132	637	1,356	1,890	949
2013		4,319	3,555	159	586	1,142	1,668	764
2018		3,373	2,937	108	433	1,022	1,374	436

資料：2003年は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

注) 2004年以降は漁業センサス年だけの公表となった。

11 新規漁業就業者数

年度	海部	知多	西三河	新城設楽	東三河	計	中学校卒	高等学校卒	その他学卒	その他(転職等)
2013	0	10	16	0	3	29	2	5	0	22
2014	1	12	7	0	0	20	1	3	3	13
2015	0	22	7	0	3	32	0	3	10	19
2016	2	8	3	0	5	18	1	4	1	12
2017	0	10	2	2	7	21	1	4	2	14
2018	0	10	0	0	2	12	0	3	2	7

資料：県水産課調べ

12 高校卒業者の卒後状況

年	新卒者 総数	大学等 進学者	就業者						その他	漁業就業者 /全就業者 (%)
			総数	第1次産業			第2次産業	第3次産業 ・その他		
				小計	農業・林業	漁業				
2013	62,695	36,553	11,127	34	26	8	6,542	4,551	15,015	0.07
2014	61,326	35,861	11,432	50	39	11	6,435	4,947	14,033	0.10
2015	63,156	37,139	11,819	35	24	11	6,896	4,888	14,198	0.09
2016	63,579	37,350	12,192	53	40	13	7,453	4,686	14,037	0.11
2017	65,204	37,728	12,696	45	36	9	7,760	4,891	14,780	0.07
2018	64,684	37,655	12,618	40	28	12	7,976	4,602	14,411	0.10
2019	64,353	37,374	12,662	58	44	14	8,097	4,507	14,317	0.11

注) 各年3月卒業者

資料：学校基本調査結果（県統計課）

13 漁業権免許件数一覧表

種類 内訳	共同漁業権				区画 漁業権	合計	
	第1種 第2種	第3種 (つきいそ)	第5種	計			
海面	知多	12	71	-	83	38	121
	西三河	5	30	-	35	21	56
	東三河	19	19	-	38	37	75
	小計	36	120	0	156	96	252
内水面	-	-	23	23	2	25	
県計	36	120	23	179	98	277	

注) 1. 海面第3種共同漁業権については、
つきいそ以外は第1種・第2種の欄に
含めてある。

2. 2020年1月1日現在の件数である。

資料：県水産課調べ

14 遊漁船業者登録件数（2019年3月31日現在）

地区	尾張・名古屋市	海部	知多	西三河	東三河	その他	計
遊漁船業者数 (うち漁協所属業者数)	40 (0)	10 (0)	168 (151)	28 (11)	18 (11)	7 (0)	271 (173)
遊漁船隻数 (うち漁船隻数)	47 (0)	14 (0)	211 (174)	43 (25)	21 (13)	7 (0)	343 (212)

注) その他は、豊田加茂地区、新城設楽地区の合計

資料：県水産課調べ

15 漁家経済

(単位：千円)

年	項目	事業 所得	漁労外事業所得				漁労所得									
			漁労 所得	漁労外 事業 所得	漁労外 事業 収入	漁労外 事業 支出	漁労支出									
							漁労 収入	計	雇用 労賃	漁船・ 漁具費	油費	種苗代	修繕費	販売 手数料	減価 償却費	その他 支出
漁船漁業	2013	2,982	2,892	90	386	296	9,033	6,141	1,443	255	1,577	-	518	520	532	1,296
	2014	3,205	3,121	84	108	24	13,947	10,826	2,529	1,138	2,307	-	873	713	883	2,383
	2015	3,101	3,002	99	170	71	13,066	10,064	2,379	1,192	1,647	-	985	676	707	2,478
	2016	3,812	3,775	37	43	6	11,917	8,142	1,880	642	1,159	-	999	573	624	2,265
	2017	3,423	3,142	281	419	138	10,031	6,889	1,966	503	895	1	498	552	670	1,804
	2018	2,492	2,289	203	355	152	9,365	7,076	1,950	532	1,105	1	528	507	699	1,754
のり養殖業	2013	3,406	2,885	521	1,568	1,047	15,002	12,117	1,734	1,301	1,933	99	1,088	994	1,393	3,575
	2014	7,044	6,373	671	1,579	908	19,429	13,056	1,637	1,294	2,270	95	1,345	1,285	1,166	3,964
	2015	8,519	7,751	768	1,556	788	21,883	14,132	1,791	1,318	1,876	101	1,596	1,493	1,196	4,761
	2016	8,283	8,227	56	486	430	21,784	13,557	2,103	1,606	1,173	164	1,167	1,417	1,469	4,458
	2017	12,896	12,721	175	348	173	33,520	20,799	3,798	1,415	2,063	209	1,677	2,219	2,075	7,343
	2018	9,130	9,021	109	297	188	30,611	21,590	3,650	2,215	2,454	194	2,004	1,996	2,397	6,680

注) 調査期間は、歴年（1～12月）。

資料：漁業経営調査（農林水産省統計部）

漁船漁業の2016年以前は東海2県の、17年数値は太平洋中区の数値である。
のり養殖業は東海2県の数値である。

16 漁業近代化資金利子補給承認状況

承認額	資金種類		1号資金(漁船)		2号資金		3号資金		4号資金		5号資金		7号資金		共同利用施設			
	件数	金額	20t以上		20t未満		漁船漁具保管 修理施設等		漁場造成 器具等		漁具養殖 いかだ等		種苗購入等		大臣特認			
			件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額		
		千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円		
2013	75	719,350	-	-	61	539,360	3	48,540	-	-	-	-	9	123,150	-	-	2	8,300
2014	53	817,110	-	-	31	372,760	9	75,760	3	7,410	-	-	9	115,900	-	-	1	245,280
2015	48	1,131,910	-	-	26	351,160	6	67,840	4	14,200	-	-	9	123,500	-	-	3	575,210
2016	60	676,760	-	-	49	524,880	2	11,900	3	10,680	-	-	9	123,500	-	-	2	5,800
2017	66	1,000,700	-	-	38	348,930	6	82,850	7	26,640	-	-	10	153,500	-	-	5	388,780
2018	62	844,340	1	37,000	35	299,000	8	181,880	1	20,000	-	-	9	162,500	-	-	8	143,960
合計	364	5,190,170	1	37,000	240	2,436,090	34	468,770	18	78,930	-	-	55	802,050	-	-	21	1,367,330

資料：県水産課調べ

17 漁業振興資金融資状況

(単位：千円)

年度	件数	貸付額
2013	7	196,500
2014	6	194,500
2015	7	193,000
2016	6	184,500
2017	5	189,000
2018	6	199,000

資料：県水産課調べ

18 沿岸漁業改善資金融資状況

(単位：千円)

年度	合計				資金種類別内訳											
	年度内融資		年度末貸付残高		経営等改善資金				生活改善資金				青年漁業者等養成確保資金			
	件数	金額	件数	金額	年度内融資		年度末貸付残高		年度内融資		年度末貸付残高		年度内融資		年度末貸付残高	
					件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2013	4	86,850	41	325,417	4	86,850	37	283,417	-	-	-	-	-	-	4	42,000
2014	1	92,050	38	350,608	-	72,050	33	296,608	-	-	-	-	1	20,000	5	54,000
2015	7	0	40	277,676	7	-	35	231,676	-	-	-	-	-	-	5	46,000
2016	2	90,768	37	297,765	2	90,768	33	261,989	-	-	-	-	-	-	4	35,776
2017	2	23,360	32	245,840	2	23,360	28	218,286	-	-	-	-	-	-	4	27,554
2018	4	40,800	31	198,746	4	40,800	28	179,414	-	-	-	-	-	-	3	19,332
合計	20	333,828	-	-	19	313,828	-	-	-	-	-	-	1	20,000	-	-

資料：県水産課調べ

19 地域別海水動力漁船隻数

年	地 域	総数	5t未満	5～10t	10～15t	15t以上
2011	全 県	5,440	4,660	367	379	34
	海 部	49	49	-	-	-
	知 多	2,778	2,263	237	264	14
	西 三 河	1,335	1,165	72	90	8
	東 三 河	1,278	1,183	58	25	12
2012	全 県	5,315	4,542	359	379	35
	海 部	51	51	-	-	-
	知 多	2,703	2,192	235	261	15
	西 三 河	1,311	1,143	68	92	8
	東 三 河	1,250	1,156	56	26	12
2013	全 県	5,125	4,376	348	368	33
	海 部	51	51	-	-	-
	知 多	2,598	2,098	231	254	15
	西 三 河	1,274	1,115	64	88	7
	東 三 河	1,202	1,112	53	26	11
2014	全 県	4,965	4,240	331	364	30
	海 部	49	49	-	-	-
	知 多	2,522	2,033	222	253	14
	西 三 河	1,239	1,088	59	85	7
	東 三 河	1,155	1,070	50	26	9
2015	全 県	4,831	4,119	321	361	30
	海 部	46	46	-	-	-
	知 多	2,467	1,984	216	253	14
	西 三 河	1,198	1,054	58	80	6
	東 三 河	1,120	1,035	47	28	10
2016	全 県	4,680	3,971	319	361	29
	海 部	46	46	-	-	-
	知 多	2,423	1,942	215	252	14
	西 三 河	1,141	999	56	81	5
	東 三 河	1,070	984	48	28	10
2017	全 県	4,481	3,783	310	359	29
	海 部	43	43	-	-	-
	知 多	2,365	1,890	210	251	14
	西 三 河	1,040	903	52	80	5
	東 三 河	1,033	947	48	28	10
2018	全 県	4,282	3,596	304	354	28
	海 部	42	42	-	-	-
	知 多	2,301	1,827	209	250	15
	西 三 河	951	821	51	75	4
	東 三 河	988	906	44	29	9

資料：漁船統計表（水産庁）

20 海水動力漁船機関種類別隻数、トン数及び馬力数

年	機関種類	総 数			5トン未満			5トン以上		
		隻 数	ト ン	馬力数	隻 数	ト ン	馬力数	隻 数	ト ン	馬力数
2011	ジーゼル	1,915	12,369	293,237	1,135	3,587	110,717	780	8,783	182,520
	電気点火	3,525	2,949	172,677	3,525	2,949	172,677	-	-	-
	計	5,440	15,318	465,914	4,660	6,536	283,394	780	8,783	182,520
2012	ジーゼル	1,867	12,235	297,061	1,094	3,493	109,315	773	8,742	187,746
	電気点火	3,448	2,879	175,207	3,448	2,879	175,207	-	-	-
	計	5,315	15,113	472,268	4,542	6,372	284,522	773	8,742	187,746
2013	ジーゼル	1,776	11,812	299,728	1,027	3,316	106,478	749	8,495	193,250
	電気点火	3,349	2,798	179,081	3,349	2,798	179,081	-	-	-
	計	5,125	14,609	478,809	4,376	6,114	285,559	749	8,495	193,250
2014	ジーゼル	1,706	11,475	305,118	981	3,202	106,390	725	8,273	198,728
	電気点火	3,259	2,741	183,343	3,259	2,741	183,343	-	-	-
	計	4,965	14,216	488,461	4,240	5,943	289,733	725	8,273	198,728
2015	ジーゼル	1,652	11,230	310,771	940	3,077	108,264	712	8,153	202,507
	電気点火	3,179	2,692	185,715	3,179	2,692	185,715	-	-	-
	計	4,831	13,922	496,486	4,119	5,769	293,979	712	8,153	202,507
2016	ジーゼル	1,596	11,040	320,841	887	2,925	108,803	709	8,115	212,038
	電気点火	3,084	2,621	183,479	3,084	2,621	183,479	-	-	-
	計	4,680	13,661	504,320	3,971	5,546	292,282	709	8,115	212,038
2017	ジーゼル	1,535	10,824	327,749	837	2,788	108,953	698	8,036	218,796
	電気点火	2,946	2,522	177,778	2,946	2,522	177,778	-	-	-
	計	4,481	13,347	505,527	3,783	5,311	286,731	698	8,036	218,796
2018	ジーゼル	1,473	10,538	328,867	787	2,642	105,564	686	7,897	223,303
	電気点火	2,809	2,416	172,739	2,809	2,416	172,739	-	-	-
	計	4,282	12,954	501,606	3,596	5,057	278,303	686	7,897	223,303

注) 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

資料：漁船統計表（水産庁）

21 農林水産統計による漁船隻数

年	総 数	無動力船	船外機付船	動 力 船				
				計	3 t 未満	3 ~ 5 t	5 ~ 10 t	10 t 以上
2004	4,559	2	2,485	2,072	526	657	432	457
2005	4,339	2	2,334	2,003	482	650	420	451
2006	4,308	-	2,335	1,973	471	643	410	449
2008	4,426	17	2,621	1,788	406	581	382	419
2013	4,021	5	2,299	1,717	496	524	322	375
2018	3,154	1	1,900	1,253	248	382	271	352

資料：2006年以前は「稼働量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

注) 使用漁船（ただし運搬船、遊漁船は除く）

2007年以降は漁業センサス年次のみ公表となった。

Ⅲ 漁場と資源

22 海域におけるCODの経年変化

(単位：mg/ℓ)

水域区分	水域名	類型	地点名	75% 水質値						年平均値					
				2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
伊勢湾	名古屋港(甲)	C	○N-1	3.5	6.0	5.1	5.3	4.0	3.7	3.5	4.4	4.0	4.6	3.7	3.2
			○N-2	4.4	3.6	4.2	4.5	3.7	3.8	3.9	3.2	3.2	3.5	3.1	3.2
			○N-3	3.7	3.7	3.1	3.6	3.3	3.4	3.4	3.0	2.8	3.1	2.9	2.8
			N-10	3.1	4.5	3.8	3.6	4.3	3.6	2.9	4.0	3.6	3.3	3.7	3.1
			N-11	3.0	6.0	4.3	3.6	4.0	3.4	2.8	4.5	3.6	3.2	3.4	2.9
	名古屋港(乙)	B	○N-4	3.7	3.6	2.6	3.3	3.1	2.8	3.2	3.1	2.3	2.9	2.8	2.8
	常滑地先海域	B	○N-5	3.4	3.7	3.0	3.0	3.5	4.0	2.7	3.0	2.6	2.7	3.2	3.5
			N-12	3.2	2.6	2.9	2.3	5.0	3.5	2.8	2.4	2.5	2.2	3.5	3.0
	伊勢湾	A	○N-6	3.6	3.5	2.7	2.9	3.1	2.9	3.1	2.9	2.3	2.6	2.7	2.7
			○N-7	3.3	3.1	2.8	2.7	3.4	3.6	2.7	2.8	2.3	2.5	3.0	3.2
○N-8			2.0	2.3	2.1	2.1	3.2	3.2	1.9	1.9	1.8	1.9	2.7	2.8	
○N-9			2.4	2.5	3.0	2.1	2.8	3.2	2.0	2.0	2.2	1.9	2.6	2.6	
N-13			2.6	2.9	2.5	2.2	2.5	3.2	2.1	2.2	2.1	2.0	2.4	2.8	
衣浦湾	衣浦港	C	○K-1	4.5	4.9	4.5	3.4	4.3	5.0	3.8	4.0	3.8	3.0	3.9	4.3
	衣浦港南部	C	○K-2	4.6	4.8	4.4	3.3	4.6	5.2	4.2	3.9	3.6	3.1	4.1	4.5
			○K-3	4.5	5.0	4.6	4.2	4.0	3.9	3.4	3.7	3.4	3.2	3.7	3.9
	衣浦湾	A	○K-4	3.2	3.6	3.5	3.0	3.6	3.9	3.0	3.1	2.9	2.6	3.3	3.5
			○K-5	3.1	3.0	2.7	2.3	2.7	3.0	2.5	2.5	2.2	2.2	2.5	2.8
			○K-6	3.2	3.7	2.8	2.3	3.5	4.4	2.7	2.8	2.5	2.2	2.9	3.5
			K-7	3.6	3.7	3.0	2.6	3.2	4.3	3.0	3.0	2.7	2.4	3.0	3.5
			K-8	3.3	3.2	3.1	2.7	3.4	4.3	3.0	3.2	2.9	2.5	3.1	3.6
渥美湾	蒲郡地先海域	C	○A-1	3.9	4.4	4.5	3.3	4.6	5.1	3.6	4.0	3.9	3.1	4.1	4.2
			○A-2	4.0	5.1	4.4	3.6	5.1	6.4	3.8	4.2	5.4	3.5	4.7	5.0
	神野・田原地先海域	C	○A-3	6.2	6.2	6.7	6.3	6.6	4.8	5.1	5.5	5.9	5.3	5.0	4.0
			○A-4	4.0	4.5	4.7	4.1	4.6	4.8	4.0	3.7	4.1	3.6	4.2	4.4
			A-11	3.3	4.2	5.7	4.6	4.2	3.4	3.1	3.9	5.1	4.2	3.8	3.4
			A-12	4.5	5.6	5.8	5.0	4.4	3.4	4.2	4.3	5.6	4.1	4.2	3.1
	渥美湾(甲)	B	○A-5	3.7	3.4	4.2	3.1	4.0	3.9	3.4	3.0	3.5	2.8	3.6	3.7
			○A-6	4.0	4.4	4.2	3.4	4.7	4.7	3.8	3.9	3.9	3.3	4.1	4.3
			A-10	4.0	4.5	4.8	3.7	4.6	5.1	4.0	4.6	4.1	3.5	4.3	4.7
			A-13	3.6	5.1	5.7	5.1	4.9	4.0	3.4	4.4	5.4	4.4	4.5	4.0
	渥美湾(乙)	A	○A-7	4.0	3.6	3.7	3.5	3.8	4.4	3.7	3.2	3.4	3.1	3.6	4.0
			○A-8	3.1	3.2	3.7	3.0	3.7	4.2	3.1	2.8	3.0	2.6	3.3	3.5
○A-9			3.8	3.4	3.8	3.3	3.7	4.4	3.6	3.8	3.3	2.9	3.5	3.7	
A-14			3.6	3.5	3.2	2.6	3.7	4.0	3.1	3.0	2.8	2.4	3.4	3.7	

注) 1. 地点名の○印は環境基準地点である。

資料：公共用水域の水質調査（県環境局）

2. 75%水質値は、海域におけるCODの環境基準適合状況を判断するためのものである。

3. 各類型の基準値はA：2mg/ℓ以下、B：3mg/ℓ以下、C：8mg/ℓ以下である。

23 河川・湖沼における主要環境基準地点のBOD（COD）の経年変化

(単位：mg/ℓ)

河川名	地点名	環境基準	75% 水質値						年平均値					
			2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
木曾川	犬山橋	A. 2mg/ℓ	0.9	0.7	0.6	1.1	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.9	0.6	0.6
	濃尾大橋	A. 2 "	0.9	0.6	0.6	0.7	0.5	0.7	0.8	0.5	0.6	0.8	0.6	0.7
日光川	日光大橋	E.10 "	4.7	4.8	3.2	3.4	4.3	6.8	3.7	4.4	2.9	3.2	3.4	5.0
新川	萱津橋	E.10 "	3.2	3.4	3.0	3.4	3.5	5.0	2.9	3.1	2.7	3.0	3.5	3.3
五条川	待合橋	E.10 "	2.7	3.1	1.5	2.5	2.1	2.9	2.5	2.4	1.2	2.1	2.1	2.3
庄内川	枇杷島橋	D. 8 "	3.3	2.7	2.9	2.7	3.0	3.4	2.8	2.2	2.5	2.4	2.6	2.7
矢田川	大森橋	D. 8 "	6.5	7.1	5.7	7.5	5.1	7.6	6.3	6.2	4.9	5.5	5.0	5.9
荒子川	荒子川ポンプ所	E.10 "	9.5	7.4	5.8	4.7	5.4	8.9	6.7	6.3	4.8	4.4	4.9	6.7
中川	運東海橋	E.10 "	7.0	10.0	8.2	9.7	7.6	6.8	7.8	7.8	6.3	8.3	6.3	5.7
堀川	港新橋	D. 8 "	5.8	5.2	4.2	6.5	5.8	4.2	5.0	8.1	3.5	5.8	5.6	3.2
境川	境大橋	C. 5 "	2.8	2.6	2.2	2.3	2.6	2.5	2.5	2.1	2.7	2.1	2.1	2.2
逢妻川	境大橋	D. 8 "	3.7	2.2	3.0	2.8	3.0	2.4	3.1	3.5	3.1	2.0	2.4	2.2
矢作川	明治用水頭首工	A. 2 "	1.3	1.0	0.9	0.9	0.8	0.5	1.1	0.8	0.7	0.8	0.8	0.6
"	米津大橋	B. 3 "	1.4	0.6	0.6	1.0	0.7	0.7	1.2	0.6	0.6	0.9	0.7	0.6
矢作古	古川頭首工	C. 5 "	1.0	2.4	1.7	1.6	1.6	1.5	1.0	1.8	1.4	1.5	1.1	1.3
豊川	江島橋	A. 2 "	1.1	0.9	0.7	0.7	0.7	0.5	1.0	0.7	0.6	0.7	0.7	0.6
"	吉田大橋	B. 3 "	1.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.0	1.2	0.7	0.7	0.8	0.9	0.8
梅田川	御厩橋	C. 5 "	3.2	3.0	3.7	3.7	3.0	3.1	2.9	2.5	3.3	2.9	2.8	2.8
油ヶ淵	中央	B. 5 "	7.7	7.5	7.2	7.4	7.4	6.9	6.9	6.9	6.5	6.9	6.7	6.5

注) 油ヶ淵・中央については、CODの値である。

資料：公共用水域の水質調査（県環境局）

24 海域における全窒素・全磷の年平均値の経年変化

(単位：mg/ℓ)

水域名	類型	地点名	全窒素						全磷					
			2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
伊勢湾(イ)	IV	N-2	0.85	0.83	0.93	0.88	0.85	0.83	0.083	0.086	0.096	0.097	0.095	0.090
		N-3	0.52	0.53	0.60	0.60	0.60	0.54	0.053	0.055	0.066	0.073	0.069	0.060
		N-4	0.44	0.43	0.45	0.37	0.42	0.41	0.044	0.049	0.048	0.048	0.053	0.050
伊勢湾(ハ)	III	N-6	0.41	0.35	0.38	0.34	0.37	0.35	0.042	0.043	0.044	0.050	0.048	0.047
伊勢湾(ニ)	II	N-5	0.25	0.30	0.40	0.32	0.34	0.36	0.029	0.027	0.035	0.033	0.035	0.032
		N-7	0.24	0.33	0.37	0.28	0.34	0.37	0.025	0.028	0.032	0.027	0.032	0.038
		N-8	0.22	0.25	0.28	0.26	0.26	0.27	0.021	0.022	0.024	0.021	0.025	0.021
		N-9	0.23	0.23	0.26	0.26	0.30	0.29	0.019	0.026	0.022	0.016	0.023	0.018
		N-13	0.18	0.23	0.28	0.25	0.28	0.26	0.018	0.018	0.022	0.019	0.021	0.019
三河湾(イ)	IV	K-3	0.37	0.46	0.58	0.51	0.54	0.49	0.062	0.057	0.078	0.064	0.075	0.062
三河湾(ロ)	III	A-1	0.32	0.42	0.42	0.38	0.38	0.35	0.042	0.051	0.043	0.048	0.039	0.039
		A-4	0.50	0.55	0.56	0.46	0.47	0.53	0.054	0.075	0.061	0.052	0.049	0.066
		A-5	0.32	0.32	0.40	0.35	0.39	0.36	0.034	0.033	0.044	0.034	0.037	0.034
		A-6	0.34	0.40	0.44	0.40	0.41	0.41	0.039	0.046	0.049	0.048	0.040	0.042
三河湾(ハ)	II	K-4	0.27	0.38	0.37	0.41	0.38	0.35	0.040	0.039	0.042	0.042	0.041	0.033
		K-5	0.25	0.29	0.30	0.35	0.32	0.29	0.030	0.030	0.032	0.035	0.032	0.027
		K-6	0.21	0.29	0.28	0.27	0.31	0.32	0.027	0.030	0.029	0.026	0.026	0.028
		K-8	0.22	0.29	0.35	0.32	0.34	0.32	0.031	0.032	0.038	0.027	0.031	0.031
		A-7	0.35	0.28	0.36	0.33	0.38	0.34	0.039	0.027	0.035	0.030	0.032	0.032
		A-8	0.24	0.23	0.32	0.29	0.31	0.27	0.025	0.022	0.030	0.026	0.028	0.024
		A-9	0.23	0.32	0.32	0.31	0.35	0.30	0.029	0.040	0.033	0.028	0.032	0.027
		A-14	0.32	0.28	0.37	0.29	0.38	0.30	0.036	0.026	0.030	0.026	0.033	0.027

資料：公共用水域の水質調査（県環境局）

25-1 赤潮の経年変化（月別）

年度	月	月													県 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
2013	件 数	[1] 3	3	4	[2] 3	1	2	[1] 2	0	0	3	[1] 2	0	19 (19)	
	日 数	7	19	28	15	8	26	5	0	0	21	20	0	149 (149)	
2014	件 数	5	[3] 5	[1] 5	1	5	[2] 5	[1] 4	0	1	[1] 2	1	0	26 (27)	
	日 数	34	28	31	6	28	23	21	0	18	13	1	0	203 (207)	
2015	件 数	0	4	3	7	9	[2] 5	2	1	[1] 3	[1] 1	0	5	36 (36)	
	日 数	0	6	4	35	44	17	9	20	20	23	0	6	184 (184)	
2016	件 数	0	4	4	[1] 4	8	[1] 8	[3] 5	1	[1] 2	[1] 1	[1] 1	1	31 (31)	
	日 数	0	13	21	19	58	22	49	8	22	31	6	1	250 (250)	
2017	件 数	0	5	5	[3] 7	[4] 7	2	4	1	0	2	0	1	27 (27)	
	日 数	0	26	28	90	75	13	17	3	0	21	0	1	274 (274)	
2018	件 数	1	[1] 4	[1] 7	[1] 3	6	[1] 4	3	2	1	2	0	1	30 (30)	
	日 数	2	46	20	39	24	11	45	4	8	22	0	13	234 (234)	
2019	件 数	1	2	3	[2] 7	2	[1] 3	5	[2] 3	[1] 2	1	[1] 2	4	28 (28)	
	日 数	17	18	47	77	9	26	20	50	18	17	31	6	336 (336)	

注) 日数は延べ日数
 []内の数字は前月から引き続いて発生した件数で内数
 ()内は渥美外海の発生件数を含む件数
 資料：県水産試験場調べ

25-2 赤潮の経年変化（水域別）

年度	水域	県 計	水域区分		
			伊勢湾	知多湾	渥美湾
2013	件 数	19 (19)	2	4	13
	日 数	149 (149)	2	35	112
2014	件 数	26 (27)	5	8	13
	日 数	203 (207)	38	51	114
2015	件 数	36 (36)	9	14	13
	日 数	184 (184)	22	59	103
2016	件 数	31 (31)	6	8	17
	日 数	250 (250)	56	31	163
2017	件 数	27 (27)	7	7	13
	日 数	274 (274)	93	67	114
2018	件 数	30 (30)	5	10	15
	日 数	234 (234)	67	55	112
2019	件 数	28 (28)	8	8	12
	日 数	336 (336)	83	102	151

注) 日数は延べ日数
 ()内は渥美外海の発生件数を含む件数
 資料：県水産試験場調べ

25-3 苦潮発生状況とその漁業被害

年度	発生回数	水域区分			漁業被害
		伊勢湾	知多湾	渥美湾	
2013	2 (1)	0	0	2 (1)	定置網等の入網魚が一部へい死、一部の漁場であさり等へい死
2014	2 (1)	0	0	2 (1)	定置網等の入網魚が一部衰弱
2015	4 (2)	0	0	4 (2)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
2016	14 (5)	0	0	14 (5)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
2017	5 (2)	0	0	5 (2)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
2018	6 (2)	0	0	6 (2)	魚介類の衰弱、へい死
2019	2 (1)	0	0	2 (1)	一部の漁場であさり稚貝のへい死

資料：県水産試験場調べ

注) ()内は魚介類に影響が確認された件数（独立した発生地区ごとに1件とした）

26 漁港整備計画別事業費実績

(単位：千円)

	年度	水産基盤整備事業				農山漁村地域整備交付金					災害	県計
		流通	生産	機能保全	機能強化	漁村再生	漁港環境	漁集環境	水域環境	海岸	漁港・海岸	
第4次長計	2017	0	0	939,024	210,609	157,255	10,000	0	10,000	163,692	0	1,490,580
	2018	134,998	0	1,168,943	299,491	19,999	0	0	0	436,379	0	2,059,810

資料：県水産課調べ

27 沿岸漁業構造改善事業等実績（国庫補助事業）

(1) 漁村コミュニティ基盤整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
産地水産業強化支援事業	2012～2013	渡船場上屋施設整備	1件	102,374	53,957	
水産業強化支援事業	2017～2018	渡船場上屋施設整備	1件	133,584	80,817	

資料：県水産課調べ

(2) のり養殖経営構造改善事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
産地水産業強化支援事業	2012～2016	のり共同加工場施設整備	1件	1,712,570	938,723	

資料：県水産課調べ

(3) 水産業競争力強化施設整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
水産業競争力強化緊急施設整備事業	2016～2017	鮮度保持施設整備	1件	672,800	336,400	

資料：県水産課調べ

(4) のり競争力強化対策事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
水産業強化支援事業	2017～2018	のり共同加工場施設整備	5件	237,575	142,304	

資料：県水産課調べ

(5) 水産業強化対策整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
水産業強化支援事業	2018～2019	鮮度保持施設	2件	44,250	24,102	

資料：県水産課調べ

28 水産振興対策事業実績（県補助事業）
漁村活性化総合対策事業実績（2018・2019年度）

（金額単位：円）

年度	補助対象施設	事業主体	事業実施主体	事業内容	補助対象事業費	負担区分	
						県費	その他
18	漁場の耕耘整地	西尾市	西三河漁協	漁場の耕耘・整地	6,700,000	3,232,000	3,468,000
	水産物荷さばき施設	南知多町	豊浜漁協	魚類移送機	8,890,000	4,224,000	4,666,000
			師崎漁協	海苔出荷場外壁等改修	6,107,000	3,000,000	3,107,000
	水産物鮮度保持施設	美浜町	野間漁協	冷凍施設更新	25,500,000	12,750,000	12,750,000
		田原市	愛知外海漁協	製氷機更新	11,976,829	5,988,000	5,988,829
	水産物加工処理施設	常滑市	鬼崎漁協	海苔脱水機更新	9,585,000	4,792,000	4,793,000
運搬施設	南知多町	篠島漁協	フォークリフト	1,930,000	965,000	965,000	
2018年度計					70,688,829	34,951,000	35,737,829
19	燃料等補給施設	常滑市	鬼崎漁協	地下燃料タンク腐食修繕	2,098,125	1,049,000	1,049,125
		西尾市	西三河漁協	計量機改修及び地上タンク補修	2,143,000	1,071,000	1,072,000
	水産物荷さばき施設	南知多町	師崎漁協	活魚倉庫の屋根改修	21,920,000	10,960,000	10,960,000
			大井漁協	市場外壁修繕	2,616,000	1,308,000	1,308,000
		碧南市	大浜漁協	荷捌き施設改修	4,483,996	2,241,000	2,242,996
		西尾市	西三河漁協	照明（LED）取替	6,600,000	3,300,000	3,300,000
	水産物鮮度保持施設	美浜町	野間漁協	冷蔵庫屋上防水及び2階底改修	7,000,000	3,500,000	3,500,000
		南知多町	師崎漁協	冷凍冷蔵施設底改修	13,680,000	6,840,000	6,840,000
	水産物加工処理施設	田原市	小中山漁協	のり集荷用の金属検出機	1,200,000	600,000	600,000
	運搬施設	南知多町	師崎漁協	フォークリフト	1,490,000	745,000	745,000
			片名・日間賀島漁協	フォークリフト	1,810,000	905,000	905,000
篠島漁協			フォークリフト	1,930,000	965,000	965,000	
2019年度計					66,971,121	33,484,000	33,487,121

29 漁場整備事業実績

(1) あさりとさかな漁場総合整備事業（公共）

	年度	箇所数	事業量	事業費	国費	県費	地元	備考				
								千円	千円	千円	千円	年度
第3次長計	2013~2016	11	19.9ha	千円	千円	千円	千円	—	2013	愛知県海域・遠州灘	西尾、田原	高松西部、軍艦、高松中部
			10,301空m3	665,350	325,014	340,336	2014		〃	西尾、田原		
							2015		〃	西尾、衣崎		
							2016		〃	西尾、衣崎		
							2017		愛知県海域	西尾、衣崎		
第4次長計	2017~2019	7	14.9ha	501,906	244,188	257,718	—	2018	〃	衣崎、田原	高松中部	
			4710.0空m3					2019	〃	西尾、田原		

資料：県水産課調べ

(2) 貝類増殖場造成事業（非公共）

年度	箇所数	事業量	事業費	国費	県費	地元	備考
			千円	千円	千円	千円	
2019	1	1.2ha	29,983	13,967	16,016	—	衣崎地区

資料：県水産課調べ

(3) 貝類増殖場造成事業（公共）

	年度	箇所数	事業量	事業費	国費	県費	地元	備考	
								千円	千円
第4次長計	2019	3	2.4ha	62,832	30,800	32,032	—	愛知県海域	幡豆、吉良

資料：県水産課調べ

IV 漁業生産

30 漁業総生産

年		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
生産量 (t)	海面	漁業	70,184	81,045	77,478	75,171	81,039	80,949	72,056	77,711	69,970	61,727	
		養殖業	19,013	17,564	14,989	15,496	15,338	14,906	12,679	13,330	13,746	11,213	
		計	89,197	98,609	92,467	90,667	96,377	95,855	84,735	91,041	83,716	72,940	
	内水面	漁業	272	238	197	178	422	319	165	145	123	148	
		養殖業	8,566	6,082	6,759	5,114	4,381	6,222	6,485	6,127	7,146	4,858	
		計	8,838	6,320	6,956	5,292	4,803	6,541	6,650	6,272	7,269	5,006	
	合計		98,035	104,929	99,423	95,959	101,180	102,396	91,385	97,313	90,985	77,946	
	きんぎょ (千尾)		13,290	11,267	15,646	13,504	11,802	9,195	8,527	8,495	5,987	6,745	
	産出額 (百万円)	海面	漁業	16,469	17,420	16,171	18,502	16,504	16,735	17,975	14,406	12,632	17,297
			養殖業	5,054	4,668	4,084	4,453	3,670	4,525	3,950	4,488	5,105	3,587
計			21,523	22,088	20,256	22,955	20,174	21,261	21,925	18,894	17,737	20,883	
内水面		漁業	575	430	397	386	508	441	322	328	330	311	
		養殖業	15,490	11,283	15,246	13,778	12,876	16,480	17,641	19,157	21,531	17,750	
		計	16,065	11,713	15,643	14,164	13,384	16,921	17,963	19,485	21,861	18,061	
合計		37,588	33,801	35,899	37,119	33,558	38,182	39,888	38,379	39,598	38,944		
うち きんぎょ		598	475	683	666	587	512	461	430	333	324		

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）、県水産課調べ

注）内水面漁業の生産量、きんぎょは県水産課調べ。

内水面漁業・養殖業の産出額は、県水産課が推計。

小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

31 主要市町別海面漁業・養殖業生産量（2018年）

（単位：t）

区分		海面漁業	海面養殖業
市町			
県計		61,727	11,213
常滑市		361	3,405
美浜町		67	1,408
南知多町		33,159	4,341
知多計		33,587	9,154
碧南市		10,886	—
西尾市		4,593	1,273
刈谷市		x	—
西三河計		x	1,273
蒲郡市		2,966	—
豊橋市		x	—
田原市		9,688	786
東三河計		x	786

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）海面漁業経営体の所在する市区町村に計上したもの（属人統計）。

32 海面漁業種類別地域別漁獲量

(単位：t)

年	地域別	沖合底 びき網	小型底 びき網	まき網	刺網	釣	その他 え縄	小型 定置網	船びき 網 ばつち 網	採貝 採藻	その他 漁業	計
2009	県計	1,423	20,656	915	497	880	83	260	28,231	14,264	2,975	70,184
	知多	-	3,651	-	255	871	80	62	23,615	273	1,288	30,094
	西三河	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
2010	県計	1,332	18,961	2,571	475	729	49	x	38,477	15,231	2,942	81,045
	知多	-	3,707	-	254	716	48	86	28,906	233	1,301	35,250
	西三河	-	x	2,571	x	-	-	x	7,834	5,069	x	x
	東三河	1,332	1,644	-	x	13	-	125	1,737	9,928	x	x
2011	県計	1,113	18,615	2,511	459	596	x	254	35,183	15,502	x	77,478
	知多	-	3,173	-	235	579	41	77	27,716	262	1,558	33,641
	西三河	-	x	2,511	x	3	x	64	6,183	4,623	x	x
	東三河	1,113	1,722	-	x	14	-	113	1,285	10,618	x	x
2012	県計	1,329	18,969	x	466	613	41	240	32,602	16,928	x	75,171
	知多	-	3,495	-	236	594	36	73	27,102	372	1,953	33,861
	西三河	-	13,873	x	x	4	5	51	4,405	6,124	x	x
	東三河	1,329	1,604	-	x	16	-	115	1,095	10,432	x	x
2013	県計	1,045	18,056	x	498	624	27	218	41,433	14,953	x	81,039
	知多	-	3,507	-	224	605	24	58	32,385	411	1,881	39,095
	西三河	-	13,427	x	198	2	2	53	7,535	5,670	x	x
	東三河	1,045	1,122	-	76	17	-	106	1,512	8,872	x	x
2014	県計	861	12,328	x	505	x	49	259	47,954	13,268	3,493	80,949
	知多	-	2,910	-	229	629	47	69	37,086	393	1,927	43,290
	西三河	-	8,354	x	235	1	2	51	9,584	4,644	x	x
	東三河	861	1,063	-	41	x	-	140	1,283	8,232	x	x
2015	県計	1,053	12,034	x	526	730	64	264	39,209	13,175	x	72,056
	知多	-	2,743	-	184	689	60	73	31,281	378	x	x
	西三河	-	8,127	x	268	2	2	46	6,756	3,737	x	x
	東三河	1,053	1,164	-	75	39	-	144	1,173	9,059	x	x
2016	県計	1,376	9,349	x	641	756	46	270	47,590	12,408	2,452	77,711
	知多	-	2,685	-	288	720	45	95	36,176	370	1,426	41,805
	西三河	-	5,641	x	x	1	1	42	9,991	1,909	x	x
	東三河	1,376	1,023	-	x	36	-	132	1,423	10,130	x	x
2017	県計	1,427	6,800	x	606	773	47	276	43,238	10,801	2,443	69,970
	知多	-	2,198	-	416	738	46	140	30,639	234	1,531	35,943
	西三河	-	3,718	x	x	1	1	17	11,257	351	x	x
	東三河	1,427	884	-	x	35	-	119	1,342	10,214	x	x
2018	県計	1,316	7,089	x	668	x	27	209	38,928	9,546	2,264	61,727
	知多	-	2,128	0	430	647	26	60	28,431	341	1,524	33,587
	西三河	-	3,937	x	x	x	0	19	9,667	445	x	x
	東三河	1,316	1,023	-	x	x	-	130	830	8,761	x	x

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

33 海面漁業魚種別漁獲量

(単位：t)

年		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
魚	このしろ	244	539	982	274	385	253	179	112	122	110
	まいわし	59	2,481	4,229	1,141	1,263	5,927	11,904	18,764	30,209	23,787
	かたくちいわし	21,307	19,482	17,404	15,168	28,829	27,386	14,848	22,570	11,246	8,684
	しらす	5,334	5,382	6,492	7,433	6,229	8,936	11,445	8,445	5,039	6,821
	まあじ	383	444	296	292	303	180	228	214	211	189
	むろあじ類	338	63	77	184	130	134	30	27	20	13
	さば類	224	283	120	166	168	314	208	208	228	74
	ぶり類	110	38	43	68	70	53	68	81	101	74
	さわら類	30	17	22	27	31	40	65	68	148	222
	いかなご	1,267	11,589	6,777	8,209	4,827	6,230	2,247	—	—	—
	ひらめ	175	141	135	167	112	133	186	182	176	214
	かれい類	1,032	875	836	675	611	627	603	391	341	337
	あなご類	613	535	415	413	313	456	351	319	269	254
	たちうお	124	51	43	47	17	38	49	60	46	66
	にぎす類	599	536	331	556	418	377	419	419	426	351
	まだい	299	250	260	247	219	325	419	551	595	483
	くろだい・へだい	330	313	306	324	319	409	414	351	356	278
	いさき	21	15	14	20	22	40	22	30	22	27
	すずき類	636	529	515	516	563	542	598	629	458	443
	とらふぐ※	129	69	63	63	36	61	82	57	69	39
あおめえそ※	—	501	451	427	351	307	399	460	381	341	
その他魚類	3,607	2,953	3,133	2,925	2,504	2,102	2,562	2,919	2,338	2,331	
計	36,861	47,086	42,944	39,342	47,720	54,870	47,326	56,857	52,801	45,138	
貝類	あさり類	18,263	17,635	16,703	17,562	16,063	10,563	8,282	3,973	1,635	2,741
	さざえ	30	41	63	40	46	47	62	71	83	65
	あわび類	2	2	1	3	4	2	2	2	2	1
	その他貝類	3,822	3,479	4,092	5,189	5,711	4,785	5,728	5,160	4,480	5,145
	計	22,117	21,157	20,858	22,793	21,823	15,398	14,074	9,206	6,200	7,952
水産動物類	するめいか	190	137	89	98	81	96	97	71	81	53
	その他いか類	982	829	724	847	783	947	586	559	630	441
	たこ類	428	446	673	604	702	280	414	594	346	157
	くるまえび	76	77	83	91	62	59	72	79	64	86
	よしえび※	—	—	30	32	17	13	12	11	18	6
	その他えび類	682	1,281	1,530	694	652	714	731	764	365	829
	がざみ類	196	457	606	629	492	341	316	248	219	185
	その他かに類	61	47	48	56	34	39	48	41	47	79
	なまこ類※	159	169	209	179	130	163	191	150	199	154
	しゃこ※	414	518	414	377	205	323	266	216	103	216
その他水産動物類	75	8	26	58	82	44	68	99	45	167	
計	3,264	3,969	4,434	3,666	3,240	3,020	2,800	2,831	2,118	2,372	
藻類	7,942	8,833	9,242	9,370	8,256	7,661	7,856	8,817	8,851	6,265	
合計	70,184	81,045	77,478	75,171	81,039	80,949	72,056	77,711	69,970	61,727	

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部） ※印の魚種は県調べ

注）小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

34 海面漁業魚種別産出額

(単位：百万円)

魚種		年									
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
魚類	このしろ	19	43	38	19	30	21	20	15	21	24
	まいわし	12	342	237	120	153	356	631	901	1,297	897
	かたくちいわし	682	487	487	516	951	822	445	745	439	326
	しらす	2,624	2,481	2,571	4,400	2,155	3,592	5,219	3,724	2,786	6,746
	まあじ	271	377	174	198	225	138	148	163	151	138
	むろあじ類	40	10	12	15	12	12	3	5	4	3
	さば類	86	61	40	45	56	61	62	81	86	50
	ぶり類	40	31	38	53	38	35	47	53	52	39
	さわら類	29	8	21	21	29	32	52	59	125	201
	いかなご	267	1,182	583	624	816	910	510	-	-	-
	ひらめ	185	148	141	131	122	135	172	190	197	314
	かれい類	335	294	274	229	210	220	214	144	137	187
	あなご類	328	373	284	281	229	344	206	242	277	297
	たちうお	47	22	21	22	9	19	23	25	21	17
	にぎす類	102	100	81	90	75	83	84	82	85	67
	まだい	313	296	280	295	220	309	344	428	476	539
	くろだい・へだい	142	142	142	150	151	178	166	149	170	182
いさき	13	18	24	33	29	38	24	34	23	22	
すずき類	323	290	309	311	303	296	313	323	264	231	
その他魚類	1,821	1,737	1,674	1,590	1,431	1,382	1,778	1,802	1,554	1,474	
計	7,679	8,442	7,431	9,143	7,244	8,983	10,461	9,165	8,165	11,754	
貝類	あさり類	5,260	4,973	4,476	4,865	4,610	3,053	2,476	1,260	830	1,527
	さざえ	19	23	38	25	32	33	42	46	52	43
	あわび類	16	8	9	16	18	10	13	10	10	6
	その他貝類	1,510	1,632	1,706	2,091	2,427	2,508	2,841	1,739	1,659	1,930
	計	6,804	6,636	6,229	6,997	7,088	5,603	5,372	3,054	2,551	3,506
水産動物類	するめいか	28	32	21	25	21	26	27	22	26	23
	その他いか類	418	340	277	313	285	397	241	236	283	313
	たこ類	148	303	430	404	445	199	300	399	334	178
	くるまえび	338	313	336	325	269	263	370	436	380	345
	その他えび類	400	508	430	356	393	430	407	375	265	464
	がざみ類	152	301	445	400	337	278	241	203	183	155
	その他かに類	27	22	21	26	15	18	24	23	25	61
	その他水産動物類	348	435	478	439	334	454	461	388	278	316
計	1,859	2,254	2,437	2,287	2,106	2,072	2,071	2,081	1,774	1,855	
藻類	127	88	74	75	66	77	71	106	142	182	
合計	16,469	17,420	16,171	18,502	16,504	16,735	17,975	14,406	12,632	17,297	

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

35 海面漁業種類別魚種別漁獲量 (2018年)

(単位：t)

漁業種類 魚種	愛知県	うち、主な漁業種類								
		沖合底 びき網	小型底 びき網	船び き網	刺網	小 型 定置網	はえ縄	釣	採 貝 採 藻	その他 漁 業
魚 類 計	45,138	1,157	2,962	38,468	497	196	27	680	-	150
さ め 類	5	1	5	-	-	-	-	-	-	0
こ の し ろ	110	0	11	11	19	69	-	0	-	0
ま い わ し	23,787	1	19	22,769	0	8	-	0	-	0
う る め い わ し	24	-	0	24	0	-	-	-	-	-
か た く ち い わ し	8,684	-	1	8,683	0	-	-	-	-	-
し ら す	6,821	-	-	6,821	-	-	-	-	-	-
ま あ じ	189	12	82	8	3	7	-	76	-	-
む ろ あ じ 類	13	-	7	2	1	2	-	2	-	-
さ ば 類	74	1	15	13	0	0	-	45	-	-
ぶ り 類	74	0	16	6	5	3	0	44	-	0
さ わ ら 類	222	-	53	7	138	0	1	22	-	-
い か な ご	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ひ ら め	214	2	171	0	4	2	0	35	-	0
か れ い 類	337	15	253	0	48	7	0	14	-	1
あ な ご 類	254	19	109	0	11	0	-	-	-	114
た ち う お	66	0	32	3	2	0	-	29	-	0
に ぎ す 類	351	179	172	-	0	0	-	0	-	-
ま だ い	483	8	400	13	11	0	0	50	-	0
く ろ だ い ・ へ だ い	278	19	187	1	28	18	-	25	-	0
い さ き	27	-	4	0	0	-	-	22	-	-
す ず き 類	443	-	332	5	18	26	0	63	-	0
ふ ぐ 類	159	4	114	4	6	4	24	3	-	0
そ の 他 魚 類	2,523	895	980	98	203	49	2	250	-	35
貝 類 計	7,952	0	2,850	-	31	-	-	-	3,285	1,786
あ さ り 類	2,741	-	106	-	-	-	-	-	2,635	0
さ ぎ え	65	-	-	-	31	-	-	-	25	9
あ わ び 類	1	-	-	-	0	-	-	-	1	0
そ の 他 貝 類	5,145	0	2,744	-	0	-	-	-	624	1,777
水 産 動 物 類 計	2,372	158	1,276	460	139	13	0	0	1	323
す る め い か	53	20	32	-	0	0	-	0	-	-
そ の 他 い か 類	441	26	395	2	10	5	-	0	-	2
た こ 類	157	22	76	0	7	0	0	0	-	51
く る ま え び	86	-	70	-	16	0	-	-	-	-
そ の 他 え び 類	1,051	73	418	458	41	0	-	-	-	60
が ざ み 類	185	0	97	-	39	3	-	-	-	45
そ の 他 か に 類	79	15	36	0	21	2	-	-	-	6
そ の 他 水 産 動 物 類	321	2	152	-	4	2	-	0	1	159
藻 類	6,265	-	-	-	0	-	-	-	6,260	5
合 計	61,727	1,316	7,089	38,928	668	209	27	680	9,546	2,264

注) 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。
中・小型まき網、遠洋かつお一本釣、ひき縄釣は秘匿値のため含まない。

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

36 地域別のり生産枚数（暦年）

c	地 域	生産量						産出額 (百万円)
		生換算重量 (単位：t)	板 の り				その他 生重量 (t)	
			生産枚数 (千枚)	くろのり (千枚)	まぜのり (千枚)	あおのり (千枚)		
2013	県 計	14,836	394,118	374,405	3,175	16,539	55	3,277
	知 多	12,081	320,729	320,729	—	—	55	—
	西三河	1,944	51,845	51,770	75	—	—	—
	東三河	810	21,544	1,905	3,100	16,539	—	—
2014	県 計	14,377	382,303	359,883	3,228	19,192	39	4,173
	知 多	11,811	313,913	313,913	—	—	39	—
	西三河	1,706	45,490	45,490	—	—	—	—
	東三河	861	22,901	481	3,228	19,192	—	—
2015	県 計	12,173	323,437	310,014	2,307	11,116	42	3,544
	知 多	10,439	277,268	277,268	—	—	42	—
	西三河	1,224	32,649	32,649	—	—	—	—
	東三河	510	13,520	97	2,307	11,116	—	—
2016	県 計	12,798	340,099	327,668	3,455	8,975	34	4,107
	知 多	10,961	291,375	x	x	—	34	—
	西三河	1,442	38,457	x	x	—	—	—
	東三河	396	10,266	108	1,183	8,975	—	—
2017	県 計	13,228	345,317	334,044	x	x	27	4,817
	知 多	11,312	300,933	x	x	—	27	—
	西三河	1,302	34,709	32,908	1,801	—	—	—
	東三河	615	9,675	x	1,905	x	—	—
2018	県 計	10,756	278,721	264,003	x	x	20	3,298
	知 多	8,820	234,658	x	x	—	20	—
	西三河	1,198	31,835	29,459	2,376	—	—	—
	東三河	739	12,228	x	3,583	x	—	—

注) 1月～12月

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

2003年からは、地域別の板のり生産額の統計データは公表されていない。

37 地区別のり生産枚数（養殖年）

地区	年度	経営体数	養殖柵数（柵）			生産枚数（千枚）	生産金額（千円）	1経営体当たり			1柵当たり		100枚当たりの平均単価（円）
			支柱柵	浮流柵	計			柵数（柵）	生産枚数（千枚）	生産金額（千円）	生産枚数（枚）	生産金額（円）	
知多	2013	179	17,202	43,687	60,889	325,732	2,606,839	340	1,820	14,563	5,350	42,813	800
	2014	159	15,620	41,834	57,454	283,549	3,019,064	361	1,783	18,988	4,935	52,547	1,065
	2015	150	15,460	40,741	56,201	271,217	3,200,577	375	1,808	21,337	4,826	56,949	1,180
	2016	140	15,579	39,739	55,318	299,887	3,904,467	395	2,142	27,889	5,421	70,582	1,302
	2017	138	15,527	38,765	54,292	240,811	2,697,109	393	1,745	19,544	4,435	49,678	1,120
	2018	131	14,541	37,891	52,432	222,421	2,867,184	400	1,698	21,887	4,242	54,684	1,289
西三河	2013	26	7,892	520	8,412	46,504	511,360	324	1,789	19,668	5,528	60,789	1,100
	2014	21	6,533	0	6,533	35,323	451,112	311	1,682	21,482	5,407	69,051	1,277
	2015	21	6,552	0	6,552	34,900	477,380	312	1,662	22,732	5,327	72,860	1,368
	2016	21	6,578	0	6,578	37,678	571,658	313	1,794	27,222	5,728	86,905	1,517
	2017	19	6,006	0	6,006	32,854	458,037	316	1,729	24,107	5,470	76,263	1,394
	2018	18	5,620	0	5,620	30,990	479,503	312	1,722	26,639	5,514	85,321	1,547
東三河	2013	15	8,710	474	9,184	23,035	213,797	612	1,536	14,253	2,508	23,279	928
	2014	18	11,500	384	11,884	13,882	125,047	660	771	6,947	1,168	10,522	901
	2015	13	9,660	432	10,092	12,611	177,364	776	970	13,643	1,250	17,575	1,406
	2016	24	11,364	400	11,764	14,935	369,562	490	622	15,398	1,270	31,415	2,474
	2017	25	11,960	280	12,240	18,065	208,029	490	723	8,321	1,476	16,996	1,152
	2018	25	12,606	192	12,798	16,866	194,542	512	675	7,782	1,318	15,201	1,153
県計	2013	220	33,804	44,681	78,485	395,315	3,632,227	357	1,797	16,510	5,037	46,279	919
	2014	198	33,653	42,218	75,871	332,754	3,595,223	383	1,681	18,158	4,386	47,386	1,080
	2015	184	31,672	41,173	72,845	318,728	3,855,321	396	1,732	20,953	4,375	52,925	1,210
	2016	185	33,521	40,139	73,660	352,500	4,845,687	398	1,905	26,193	4,786	65,785	1,375
	2017	182	33,493	39,045	72,538	291,730	3,363,175	399	1,603	18,479	4,022	46,364	1,153
	2018	174	32,767	38,083	70,850	270,277	3,541,229	407	1,553	20,352	3,815	49,982	1,310

注) 年度は、11月から5月までとした。
生産は、黒生のり、青ばらのり、青生のりも板のり換算して含む。
経営体数は、黒のり及び青のり養殖者の合計。

資料：県水産課調べ

38 内水面漁業魚種別漁獲量

(単位：t)

年		2013	2014	2015	2016	2017	2018
魚種							
魚類	ます類	15	15	15	14	13	12
	あゆ	105	106	89	76	69	66
	こい	4	3	3	3	2	2
	ふな	5	4	5	5	5	3
	その他の	4	3	4	3	2	2
貝類(しじみ)		289	188	49	44	32	63
その他水産動物類		0	0	0	0	0	0
計		422	319	165	145	123	148

注) 小数第1位を四捨五入するため、合計と一致しないことがある。資料：県水産課調べ
「貝類(しじみ)」は農林水産統計公表値による。

39 内水面漁業魚種別産出額

(単位：百万円)

年		2013	2014	2015	2016	2017	2018
魚種							
魚類	ます類	38	36	39	28	28	26
	あゆ	276	281	247	266	279	261
	こい	2	1	1	2	1	1
	ふな	2	1	2	3	3	3
	その他の	10	7	5	3	1	4
貝類(しじみ)		180	115	28	26	19	17
その他水産動物類		0	0	0	0	0	0
計		508	441	322	328	330	311

注) 小数第1位を四捨五入するため、合計と一致しないことがある。資料：県水産課が全国平均単価をもとに推計

40 内水面養殖業魚種別収獲量

(単位：t)

年		2013	2014	2015	2016	2017	2018
魚種							
ます類		178	190	210	203	211	157
あゆ		1,063	1,114	1,160	1,182	1,156	1,220
こい		—	—	—	—	—	x
うなぎ		3,140	4,918	5,116	4,742	5,780	3,459
計		4,381	6,222	6,485	6,127	7,146	4,858

資料：内水面漁業生産統計調査(農林水産省統計部)

注) 2018年のます類は、にじますのみの数値(その他のます類は秘匿値)。

41 内水面養殖業魚種別産出額

(単位：百万円)

年		2013	2014	2015	2016	2017	2018
魚種							
ます類		182	200	344	348	332	256
あゆ		1,760	1,895	2,058	2,081	1,671	1,840
こい		—	—	—	—	—	—
うなぎ		10,347	13,873	14,778	16,298	19,195	15,330
きんぎょ		587	512	437	430	333	324
計		12,876	16,480	17,617	19,157	21,531	17,750

資料：内水面漁業生産統計調査(農林水産省統計部)、県水産課調べ

注) きんぎょは県水産課調べ。その他は、県水産課が全国平均単価をもとに推計。

きんぎょは前年12月1日から当年11月30日までの集計値。

42 観賞魚養殖状況

魚種		年					
		2013	2014	2015	2016	2017	2018
きんぎよ	経営体数	112	103	95	91	87	87
	養殖面積(ha)	74	70	66	64	60	60
	販売量(千尾)	11,802	9,195	8,527	8,495	5,987	6,745

資料：県水産課調べ

注) 年は前年12月1日から当年11月30日までを示す。

43 しらすうなぎ池入数量

(単位：kg)

地区		年度							
		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
県内産	海部	4	7	8	2	2	2	1	2
	碧海	8	9	4	11	92	66	16	0
	西三河	245	264	112	361	510	539	642	351
	東三河	12	20	5	89	31	23	134	21
	その他	-	-	-	0	0	0	0	0
	計	269	301	129	463	635	630	794	375
県外産	海部	26	45	31	61	45	52	53	16
	碧海	180	235	125	306	181	241	289	210
	西三河	1,105	1,369	817	2,453	2,412	2,217	2,475	1,313
	東三河	272	175	151	313	302	379	258	219
	その他	-	-	-	25	1	0	3	14
	計	1,583	1,824	1,123	3,157	2,941	2,889	3,078	1,773
外国産	海部	0	0	0	0	0	0	0	0
	碧海	228	128	127	133	45	71	66	72
	西三河	3,606	1,669	1,394	2,580	765	1,134	825	723
	東三河	53	10	32	45	0	0	0	18
	その他	-	-	-	0	34	28	30	0
	計	3,887	1,807	1,553	2,758	844	1,233	921	813
県計	海部	30	52	38	63	47	54	54	18
	碧海	416	372	256	450	318	378	371	282
	西三河	4,956	3,301	2,323	5,394	3,687	3,891	3,943	2,387
	東三河	337	205	188	447	333	401	392	258
	その他	-	-	-	25	35	28	33	14
	うち異種うなぎ	-	-	-	100	0	55	0	0
	計	5,739	3,931	2,805	6,378	4,420	4,752	4,793	2,960

資料：県水産課調べ

注) 2014年度からの年度表記は前年12月から当年5月とする。
 その他地区については、2014年度から調査実施。
 2014年度からは異種うなぎを含む数値。2013年度以前は不明。
 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

V 流通加工

44 中央卸売市場における水産物の取扱数量・金額、平均価格

取扱数量：t
取扱金額：百万円
平均価格：円/kg

年		2013	2014	2015	2016	2017	2018
生鮮水産物	取扱数量	72,845	70,510	67,899	63,578	59,332	55,772
	取扱金額	57,563	59,314	60,619	59,056	57,270	55,648
	平均価格	790	841	893	929	965	998
冷凍水産物	取扱数量	26,845	24,320	23,728	22,466	20,344	20,573
	取扱金額	27,240	27,877	28,325	27,209	27,103	27,122
	平均価格	1,015	1,146	1,194	1,211	1,332	1,318
加工水産物	取扱数量	35,902	35,416	34,004	33,297	31,483	29,622
	取扱金額	29,766	30,699	30,930	30,595	30,793	30,806
	平均価格	829	867	910	919	978	1,040
加工食料品	取扱数量	14,775	14,270	14,594	14,062	13,550	13,184
	取扱金額	7,540	7,558	7,773	7,730	7,570	7,535
	平均価格	510	530	533	550	559	572
計	取扱数量	150,367	144,517	140,226	133,402	124,709	119,151
	取扱金額	122,109	125,447	127,647	124,589	122,736	121,111
	平均価格	812	868	910	934	984	1,016

資料：名古屋市中央卸売市場年報（名古屋市）

45 水産加工品生産量

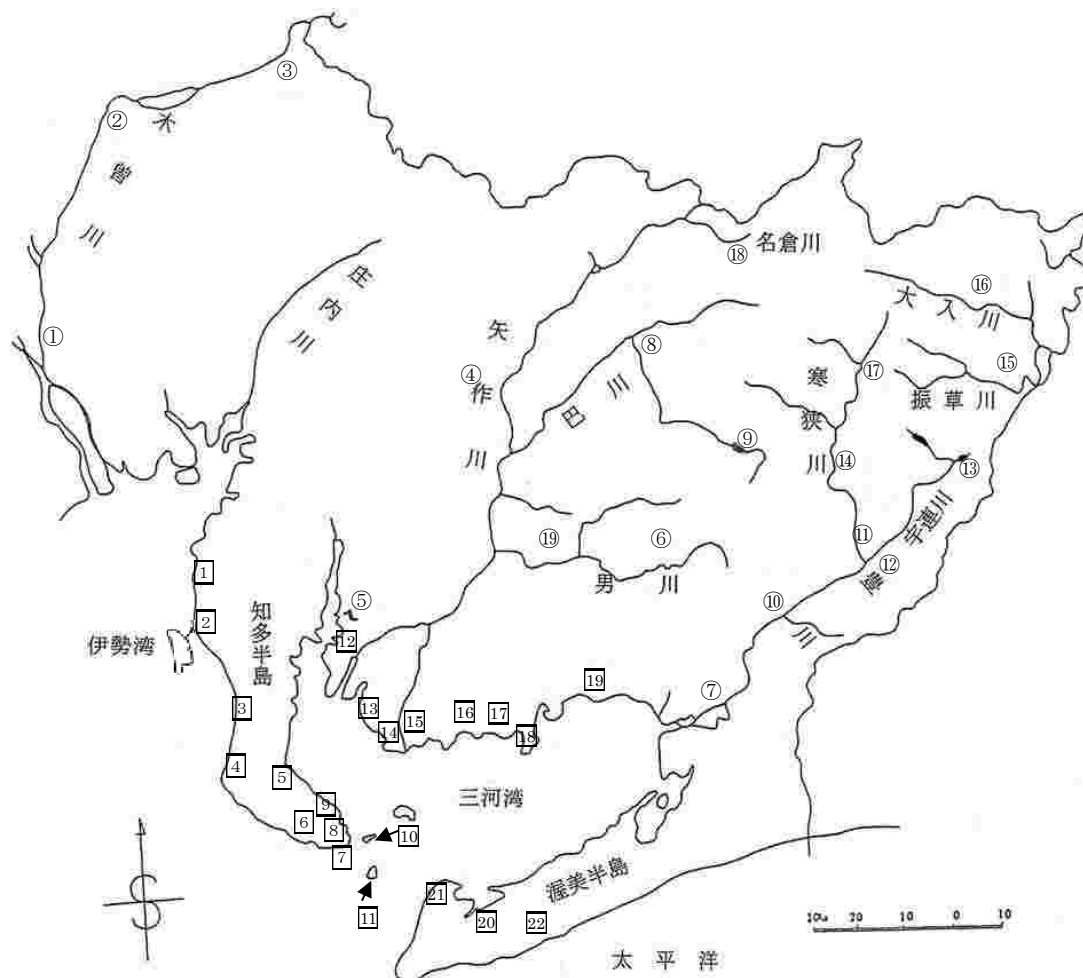
(単位：t)

年		2013	2014	2015	2016	2017	2018
ねり製	品	20,543	18,154	16,958	18,601	13,531	13,989
かまぼこ類		20,543	18,154	16,958	18,601	13,531	13,989
冷凍食品		15,789	13,171	11,264	10,626	10,982	11,806
素干し	品	63	48	48	64	34	146
塩干	品	778	744	865	715	789	675
煮干し	品	5,104	6,402	7,067	5,099	2,601	4,032
塩蔵	品	x	2,350	2,584	2,644	2,612	3,537
くん製	品	x	x	x	x	x	x
節製	品	2,440	x	x	x	2,240	1,875
その他食用加工品		10,498	9,950	10,819	10,444	10,534	9,573
焼・味付のり（千枚）		631,751	637,368	682,003	670,112	654,121	643,732
冷凍水産物		10,426	11,011	8,780	11,952	13,668	8,480

資料：水産加工統計調査（農林水産省統計部）省統計部）

(付 属 資 料)

46 沿海漁業協同組合及び内水面漁業協同組合の位置図



沿海漁業協同組合

1	鬼崎	11	篠島	21	小中山
2	常滑	12	大浜	22	愛知外海
3	小鈴谷	13	西三河		
4	野間	14	衣崎		
5	美浜町	15	吉田		
6	豊浜	16	幡豆		
7	師崎	17	東幡豆		
8	片名	18	蒲郡		
9	大井	19	三谷		
10	日間賀島	20	渥美		

内水面漁業協同組合

①	立田	⑪	寒狭川下
②	木曾川	⑫	三輪川下
③	愛北	⑬	宇連川
④	矢作川	⑭	寒狭川中部
⑤	油ヶ渚	⑮	振草川
⑥	男川	⑯	大入川
⑦	下豊川	⑰	寒狭川上流
⑧	巴川	⑱	名倉川
⑨	三河湖	⑲	岡崎市
⑩	豊川上		

47 2019年度（2019年4月～2020年3月）の主な水産年譜

年	月	日	内 容
2019.	6.	8	愛知の水産研究活動報告会（於名古屋市・水産会館）
	6.	22	金魚の学校（於弥富市・市総合社会教育センター）
	6.	24	一色うなぎ漁協直営「うなぎ処 いっしき」がオープン（於西尾市・一色漁港）
	7.	9	藻類貝類養殖技術修練会（於半田市・半田市中央公民館）
	7.	15	愛知県養鰻漁業者協会が中日ドラゴンズに蒲焼ウナギを差し入れ （於名古屋市・ナゴヤドーム）
	7.	30	少年少女水産教室（於蒲郡市・水産試験場）
	9.	10	漁業士認定式（於名古屋市・愛知県庁）
	9.	17	愛知県ぱっち網漁業者組合が知事にマイワシをPR（於名古屋市・知事公館）
	9.	19	吉田和広氏（野間漁業協同組合代表理事組合長）漁協運動功労者表彰
	10.	21	うなぎ供養・放流祭（於西尾市）
	10.	26	水産試験場公開デー（於蒲郡市・水産試験場）
	10.	27	金魚日本一大会（於弥富市・海南こどもの国）
	11.	23	あいちの農林水産フェア（於名古屋市・金山総合駅）
	11.	30	第15回水産海洋地域研究集会「伊勢・三河湾の環境と漁業を考える」 （於名古屋市・名古屋大学）
2020.	2.	28	令和元年度水産試験場研究発表会（於蒲郡市・水産試験場）

48 愛知県の水産業に関する地勢

項 目	数 量	出 典
海 岸 線 総 延 長	597 km	海岸統計 2019年度版（国土交通省河川局）
法 河 川 延 長	2,965km	県建設局（2020年4月1日現在）
伊 勢 湾 面 積	1,738 km ²	伊勢湾、三河湾及び東京湾の形態と汚染負荷 （西条・宇野木、1979）
三 河 湾 面 積	604 km ²	

動向調査資料 No. 177 水産業の動き

2020年12月発行

愛知県農業水産局水産課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1-2

電話 (052) 961-2111 (代表) 内線 3783・3786
(052) 954-6458 (ダイヤルイン)

FAX (052) 951-1645

E-mail suisan@pref.aichi.lg.jp

Home page <https://www.pref.aichi.jp/suisan/>



この用紙は、間伐材印刷用紙です。



あいちの四季の魚

